

田原市
男女共同参画推進に関する
市民アンケート調査
調査結果報告書

平成 28 年 9 月

田原市

目次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	1
2	調査対象	1
3	調査期間	1
4	調査方法	1
5	回収状況	1
6	調査結果の表示方法	1
II	調査結果	3
1	回答者属性	3
2	男女平等について	7
3	結婚、家庭生活について	29
4	子育て、子どもの教育について	50
5	働くことについて	55
6	地域活動・社会活動について	70
7	介護について	88
8	人権について	91
9	男女共同参画の施策について	98
10	自由回答	101
III	アンケート調査票	102

I 調査の概要

1 調査の目的

田原市が男女共同参画推進プランの進捗状況や市民意識を把握することにより、効果的な意識啓発をすることを目的とし、男女共同参画に関する市民意識を調査し、男女共同参画推進プラン改訂の基礎資料とする。

2 調査対象

市民 1, 000 人(満 20 歳以上の市民を住民基本台帳から無作為抽出)

3 調査期間

平成 28 年 7 月 4 日から平成 28 年 7 月 22 日


4 調査方法

郵送による配布・回収

5 回収状況

配 布 数	有効回答数	有効回答率
1, 000 通	393 通	39. 3%

6 調査結果の表示方法

- ・回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、内訳の合計が 100. 0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が 100. 0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・調査結果を図表にて表示していますが、グラフ以外の表は、最も高い割合のものを  で網かけをしています。（無回答を除く）

- ・調査結果の分析においては、前回の田原市の調査と比較しています。各比較調査の詳細は以下の通りです。

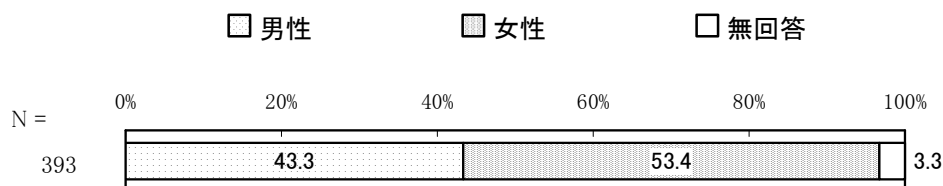
調査主体	調査名	調査時期
国(内閣府)	女性の活躍推進に関する世論調査	平成 26 年8月
国(内閣府)	男女共同参画社会に関する世論調査	平成 24 年 10 月
愛知県	県政世論調査	平成 26 年 11 月
田原市	男女共同参画推進に関する 市民アンケート調査	平成 23 年9月
田原市	田原市男女共同参画推進プランに関する 市民アンケート調査	平成 20 年8月

II 調査結果

1 回答者属性

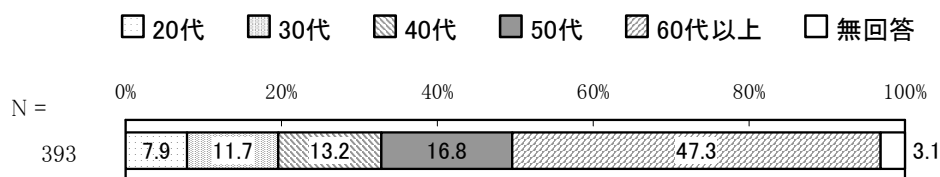
問1 あなたの性別についてお答えください。

「男性」の割合が43.3%、「女性」の割合が53.4%となっています。



問2 あなたの年齢についてお答えください。

「60代以上」の割合が47.3%と最も高く、次いで「50代」の割合が16.8%、「40代」の割合が13.2%となっています。



問3 お住まいの小学校区についてお答えください。

(※不明の場合はお住まいの町名をご記入ください。)

「田原中部」の割合が10.7%と最も高くなっています。

単位：%

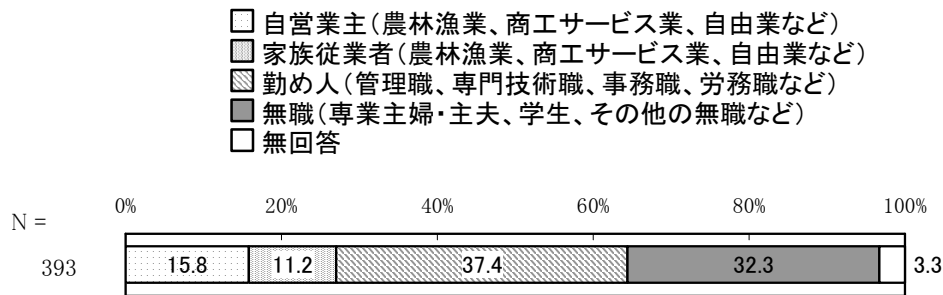
有効回答数 (件)	六連	神戸	大草	田原東部	田原南部	童浦	田原中部	衣笠	野田	高松
393	1.8	7.6	2.0	7.4	2.5	9.4	10.7	8.1	5.6	2.8

赤羽根	若戸	伊良湖岬 (旧和地)	伊良湖岬 (旧堀切)	伊良湖岬 (旧伊良湖)	亀山	中山	福江	清田	泉	無回答
4.3	2.8	0.8	3.1	0.5	1.8	7.4	7.1	3.8	5.9	4.6

問4 職業についてお答えください。(1つに○)

(仕事を2つ以上お持ちの方は、主なものを1つお答えください。ここで働いているとは、週に1時間以上働いていることとします。出産休暇、育児休業中の人は働いているものとみなします。)

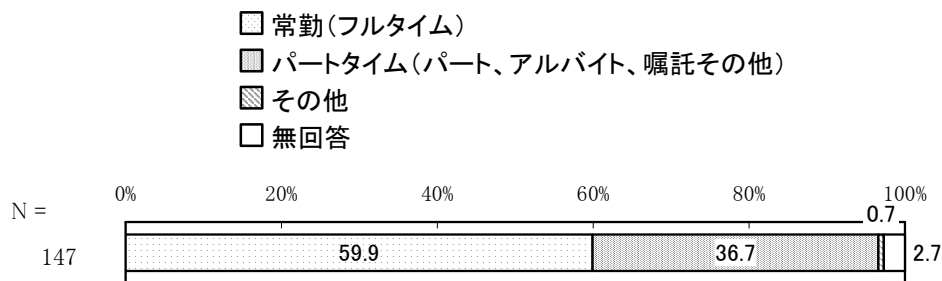
「勤め人(管理職、専門技術職、事務職、労務職など)」の割合が37.4%と最も高く、次いで「無職(専業主婦・主夫、学生、その他の無職など)」の割合が32.3%、「自営業主(農林漁業、商工サービス業、自由業など)」の割合が15.8%となっています。



《問5は、問4で「3. 勤め人」と答えた方のみにお聞きします》

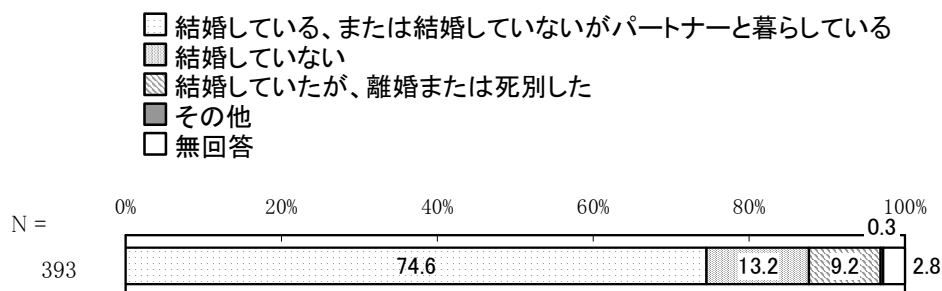
問5 その仕事は常勤(フルタイム)ですか、パートタイムですか。(1つに○)

「常勤(フルタイム)」の割合が59.9%、「パートタイム(パート、アルバイト、嘱託その他)」の割合が36.7%となっています。



問6 あなたは現在結婚していますか。

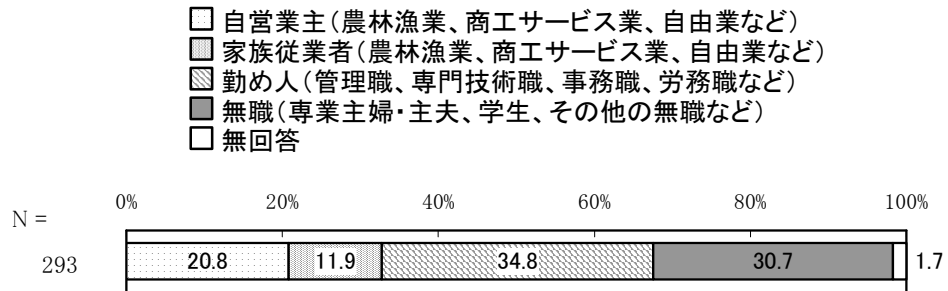
「結婚している、または結婚していないがパートナーと暮らしている」の割合が74.6%と最も高く、次いで「結婚していない」の割合が13.2%となっています。



《問7、問8は、問6で「1. 結婚している、または結婚していないがパートナーと暮らしている」と答えた方のみにお聞きします》

問7 あなたの配偶者またはパートナーの勤務形態についてお答えください。(1つに○)

「勤め人（管理職、専門技術職、事務職、労務職など）」の割合が 34.8%と最も高く、次いで「無職（専業主婦・主夫、学生、その他の無職など）」の割合が 30.7%、「自営業主（農林漁業、商工サービス業、自由業など）」の割合が 20.8%となっています。



《問8は、問7で「3. 勤め人」と答えた方のみお答えください》

問8 その仕事は常勤ですか、パートタイムですか。(1つに○)

「常勤（フルタイム）」の割合が 67.6%、「パートタイム（パート、アルバイト、嘱託その他）」の割合が 30.4%となっています。

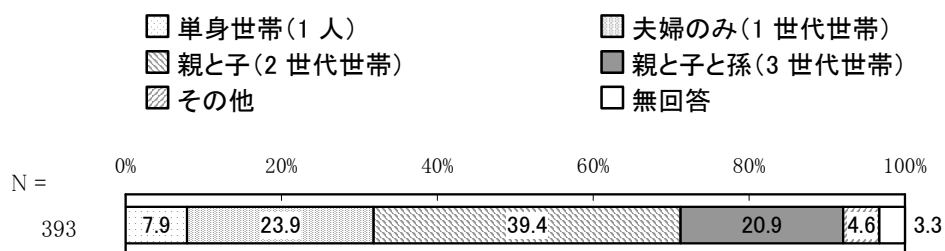
性別でみると、女性で「常勤（フルタイム）」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	問8 配偶者が勤め人の場合の職業形態				
	全体	常勤	パートタイム	その他	無回答
全体	102	67.6	30.4	1.0	1.0
女性	61	90.2	9.8	0.0	0.0
男性	39	30.8	64.1	2.6	2.6

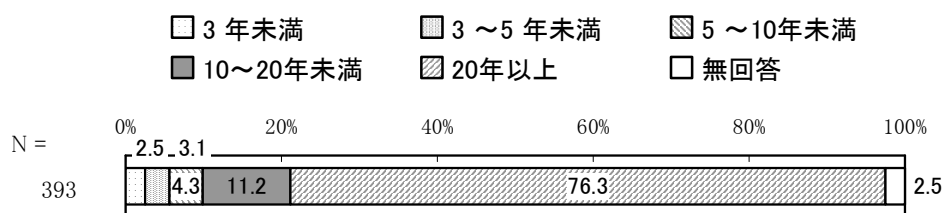
問9 あなたの家族構成についてお答えください。

「親と子（2 世代世帯）」の割合が 39.4%と最も高く、次いで「夫婦のみ（1 世代世帯）」の割合が 23.9%、「親と子と孫（3 世代世帯）」の割合が 20.9%となっています。



問10 田原市に住んでから何年になりますか。

「20年以上」の割合が 76.3%と最も高く、次いで「10～20年未満」の割合が 11.2%となっています。

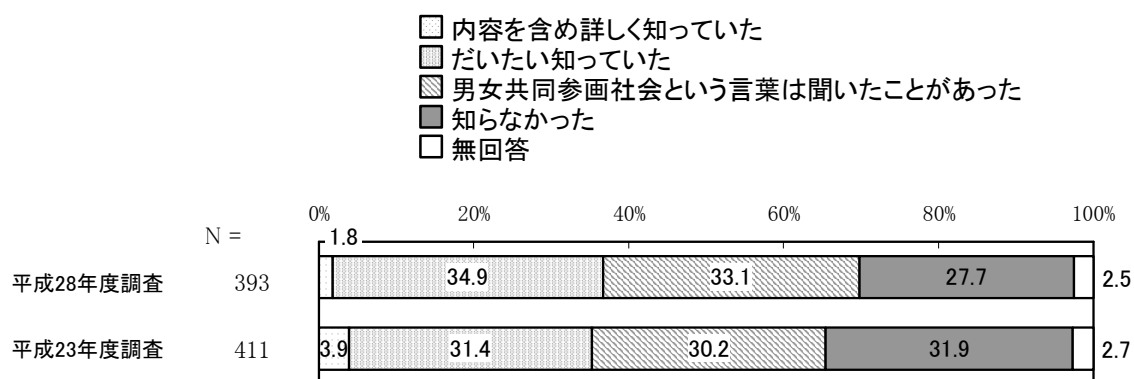


2 男女平等について

問 11 政府は、男女共同参画推進本部を設置し、男女共同参画社会の実現を目指し、積極的に取り組んでいることを以前からご存知でしたか。(1つに○)

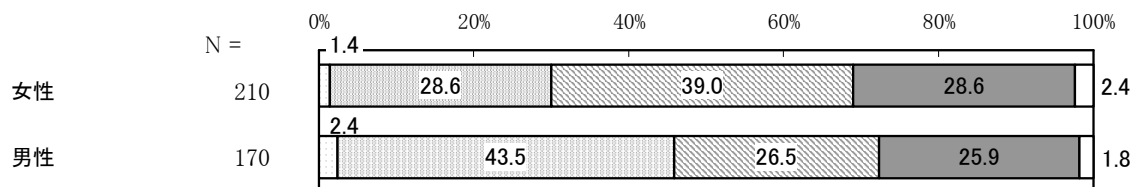
「だいたい知っていた」の割合が34.9%と最も高く、次いで「男女共同参画社会という言葉は聞いたことがあった」の割合が33.1%、「知らなかった」の割合が27.7%となっています。

平成23年度調査と比べると、大きな差異はみられません。



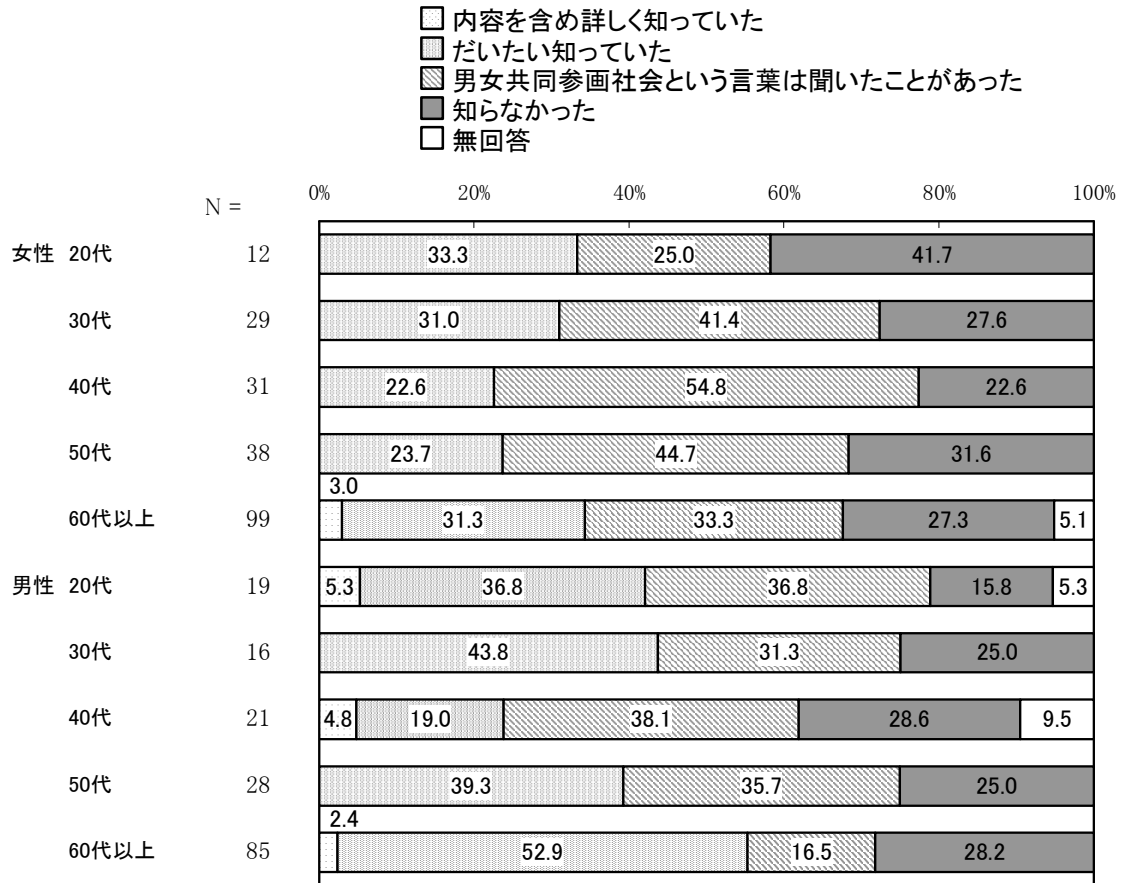
【性別】

性別でみると、女性よりも男性の方が“知っていた”の割合が高くなっています。



【性・年代別】

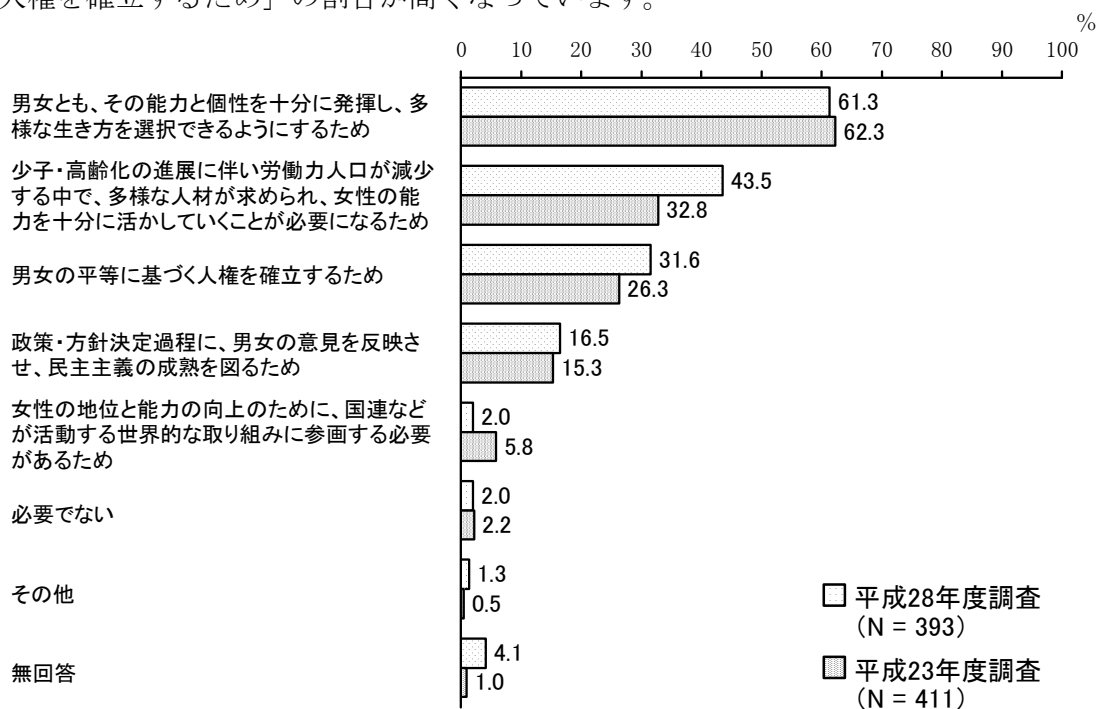
性・年代別で見ると、他に比べ、男性の60代以上で「だいたい知っていた」の割合が高くなっています。また、女性の40代で「男女共同参画社会という言葉は聞いたことがあった」の割合が高くなっています。



**問 12 あなたは、田原市において男女共同参画社会が必要な理由は何だと思えますか。
(2つまで○)**

「男女とも、その能力と個性を十分に発揮し、多様な生き方を選択できるようにするため」の割合が61.3%と最も高く、次いで「少子・高齢化の進展に伴い労働力人口が減少する中で、多様な人材が求められ、女性の能力を十分に活かしていくことが必要になるため」の割合が43.5%、「男女の平等に基づく人権を確立するため」の割合が31.6%となっています。

平成23年度調査と比べると、「少子・高齢化の進展に伴い労働力人口が減少する中で、多様な人材が求められ、女性の能力を十分に活かしていくことが必要になるため」「男女の平等に基づく人権を確立するため」の割合が高くなっています。



※平成23年度調査では「わからない」の選択肢がありました。

【性別】

性別でみると、男性で「少子・高齢化の進展に伴い労働力人口が減少する中で、多様な人材が求められ、女性の能力を十分に活かしていくことが必要になるため」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数 (件)	男女の平等に基づく人権を確立するため	政策・方針決定過程に、男女の意見を反映させ、民主主義の成熟を図るため	男女とも、その能力と個性を十分に発揮し、多様な生き方を選択できるようにするため	少子・高齢化の進展に伴い労働力人口が減少する中で、多様な人材が求められ、女性の能力を十分に活かしていくことが必要になるため	女性の地位と能力の向上のために、国連などが活動する世界的な取り組みに参画する必要があるため	必要でない	その他	無回答
女性	210	31.9	15.7	61.0	41.9	1.9	1.0	1.4	5.2
男性	170	29.4	17.6	62.4	47.1	2.4	3.5	0.6	1.8

【年代別】

年代別でみると、年齢が低くなるにつれて「男女の平等に基づく人権を確立するため」の割合が高くなる傾向がみられます。

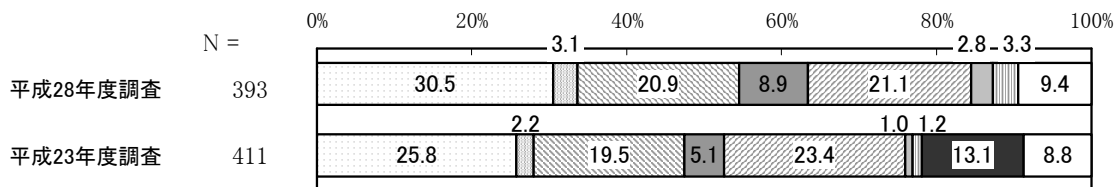
単位：%

区分	有効回答数(件)	男女の平等に基づく人権を確立するため	政策・方針決定過程に、男女の意見を反映させ、民主主義の成熟を図るため	男女とも、その能力と個性を十分に発揮し、多様な生き方を選択できるようにするため	少子・高齢化の進展に伴い労働力人口が減少する中で、多様な人材が求められ、女性の能力を十分に活かしていくことが必要になるため	女性の地位と能力の向上のために、国連などが活動する世界的な取り組みに参画する必要があるため	必要でない	その他	無回答
20代	31	38.7	19.4	64.5	35.5	—	6.5	—	3.2
30代	46	37.0	23.9	67.4	28.3	2.2	2.2	—	—
40代	52	36.5	9.6	57.7	42.3	3.8	—	—	3.8
50代	66	27.3	16.7	60.6	56.1	1.5	3.0	1.5	—
60代以上	186	28.5	17.2	60.8	45.7	2.2	1.6	2.2	5.4

問 13 現在、田原市において、男女共同参画社会の実現が十分達成されていない主な要因は何であるとお考えでしょうか。(1つに○)

「家庭において家事・育児・介護などを女性の役割とする意識があること」の割合が 30.5%と最も高く、次いで「男女共同参画の考え方が市民に広く浸透していないこと」の割合が 21.1%、「社会全般に男性優位の考え方や慣行が根強いこと」の割合が 20.9%となっています。
平成 23 年度調査と比べると、大きな差異はみられません。

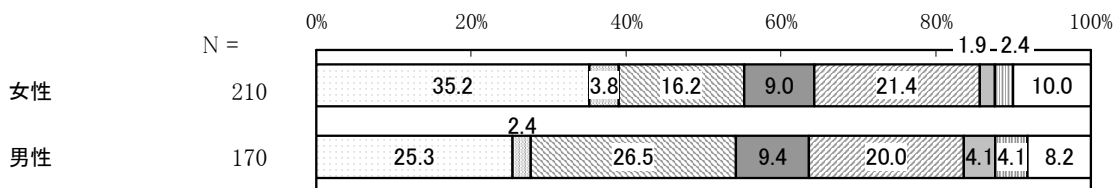
- 家庭において家事・育児・介護などを女性の役割とする意識があること
- 職場などにおいて、女性に不利な扱いがなされていること
- 社会全般に男性優位の考え方や慣行が根強いこと
- 家庭や地域社会より仕事を重視する意識が男性や女性にあること
- 男女共同参画の考え方が市民に広く浸透していないこと
- 十分達成されている
- その他
- わからない
- 無回答



※平成 28 年度調査では「わからない」の選択肢はありませんでした。

【性別】

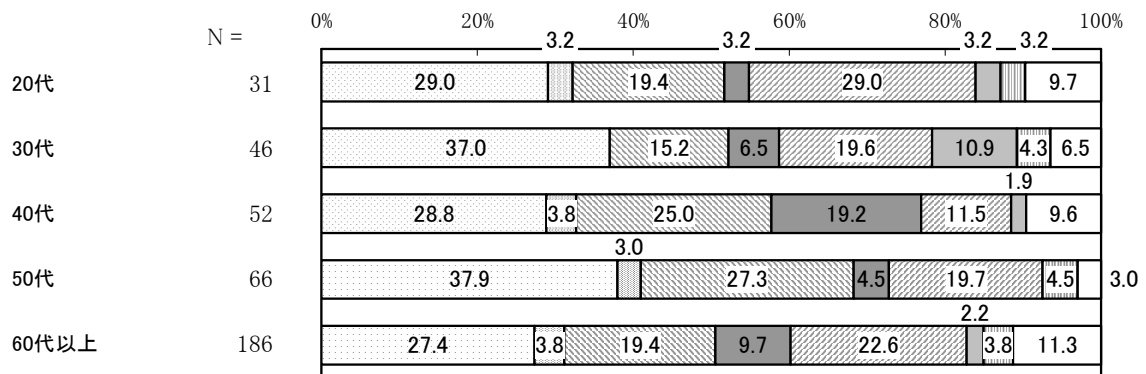
性別で見ると、女性で「家庭において家事・育児・介護などを女性の役割とする意識があること」の割合が高くなっています。また、男性で「社会全般に男性優位の考え方や慣行が根強いこと」の割合が高くなっています。



【年代別】

年代別でみると、他に比べ、20代で「男女共同参画の考え方が市民に広く浸透していないこと」の割合が、30代、50代で「家庭において家事・育児・介護などを女性の役割とする意識があること」の割合が高くなっています。また、40代では「家庭や地域社会より仕事を重視する意識が男性や女性にあること」の割合が高くなっています。

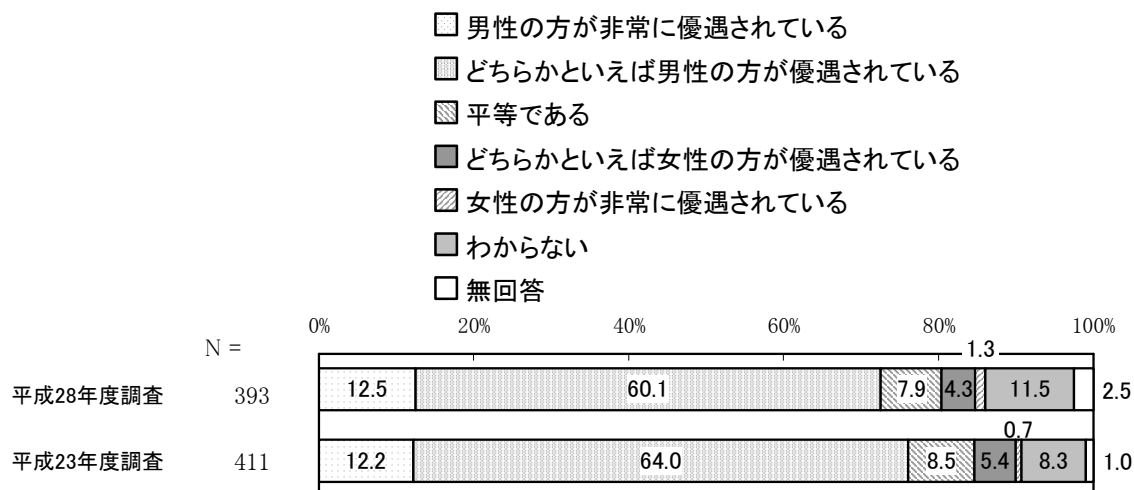
- 家庭において家事・育児・介護などを女性の役割とする意識があること
- 職場などにおいて、女性に不利な扱いがなされていること
- 社会全般に男性優位の考え方や慣行が根強いこと
- 家庭や地域社会より仕事を重視する意識が男性や女性にあること
- 男女共同参画の考え方が市民に広く浸透していないこと
- 十分達成されている
- その他
- 無回答



問 14 社会全体で見た場合は、男女の地位は平等になっていると思いますか。(1つに○)

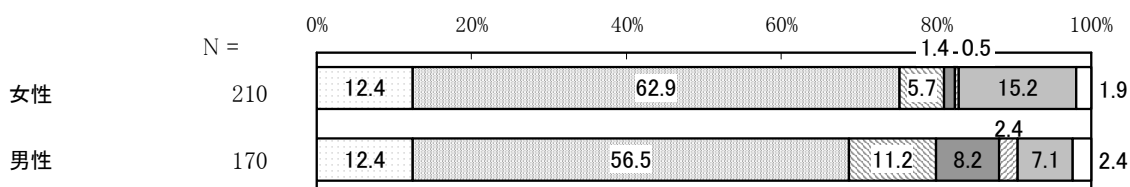
「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」をあわせた“男性の方が優遇されている”の割合が72.6%、「平等である」の割合が7.9%、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と「女性の方が非常に優遇されている」をあわせた“女性の方が優遇されている”の割合が5.6%となっています。

平成23年度調査と比べると、大きな差異はみられません。



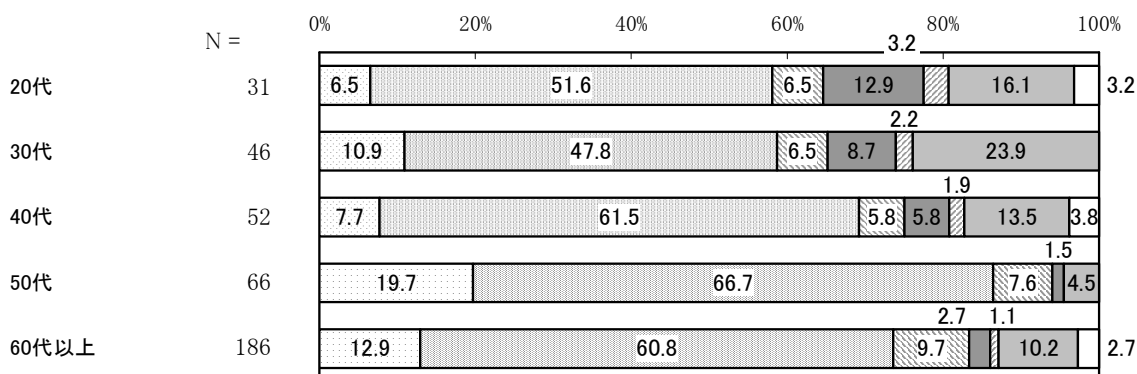
【性別】

性別で見ると、女性で“男性の方が優遇されている”の割合が高くなっています。また、男性で「平等である」の割合が高くなっています。



【年代別】

年代別で見ると、他に比べ、20代で“女性の方が優遇されている”の割合が高くなっています。また、50代で“男性の方が優遇されている”の割合が高くなっています。



【国・県の調査の比較と経年比較】

全国調査と比べると、「平等である」の割合が低くなっています。

愛知県調査と比べると、大きな差異はみられません。

単位：%

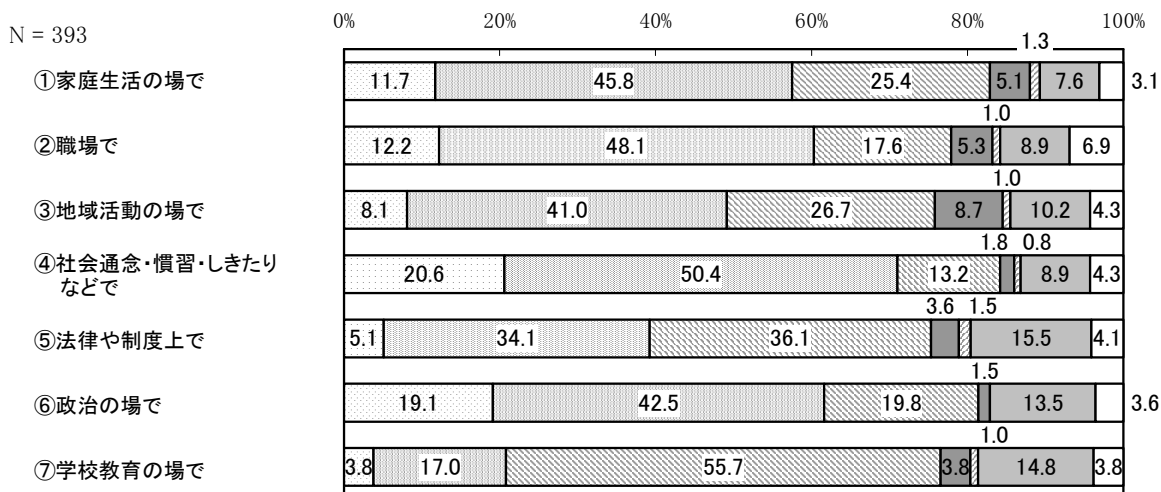
区分	男性の方が非常に 優遇されている	どちらかといえば 男性の方が優遇さ れている	平等である	どちらかといえば 女性の方が優遇さ れている	女性の方が非常に 優遇されている	わからない	無回答
田原市(H28.7)	12.5	60.1	7.9	4.3	1.3	11.5	2.5
女性	12.4	62.9	5.7	1.4	0.5	15.2	1.9
男性	12.4	56.5	11.2	8.2	2.4	7.1	2.4
田原市(H23.10)	12.2	64.0	8.5	5.4	0.7	8.3	1.0
女性	13.5	65.5	6.3	2.7	-	10.8	1.3
男性	10.8	61.8	11.3	8.6	1.6	5.4	0.5
田原市(H20.8)	11.6	58.0	6.9	6.4	0.7	12.8	3.5
女性	10.1	63.6	4.1	3.2	-	14.7	4.1
男性	13.2	51.1	10.4	10.4	1.6	11.0	2.2
愛知県(H26.11)	19.8	54.6	12.8	3.6	1.2	6.4	1.7
女性	25.2	56.1	9.5	1.5	0.5	6.0	1.1
男性	13.3	53.3	17.1	6.2	2.0	7.1	1.1
国(H24.10)	10.8	59.1	24.6	3.4	0.4	1.8	-
女性	12.7	62.1	19.8	2.5	0.2	2.6	-
男性	8.7	55.6	30.0	4.4	0.6	0.8	-

問 15 次のような分野において、現在、男女は平等になっていると思いますか。
 (①から⑦の項目についてそれぞれ1つずつ〇)

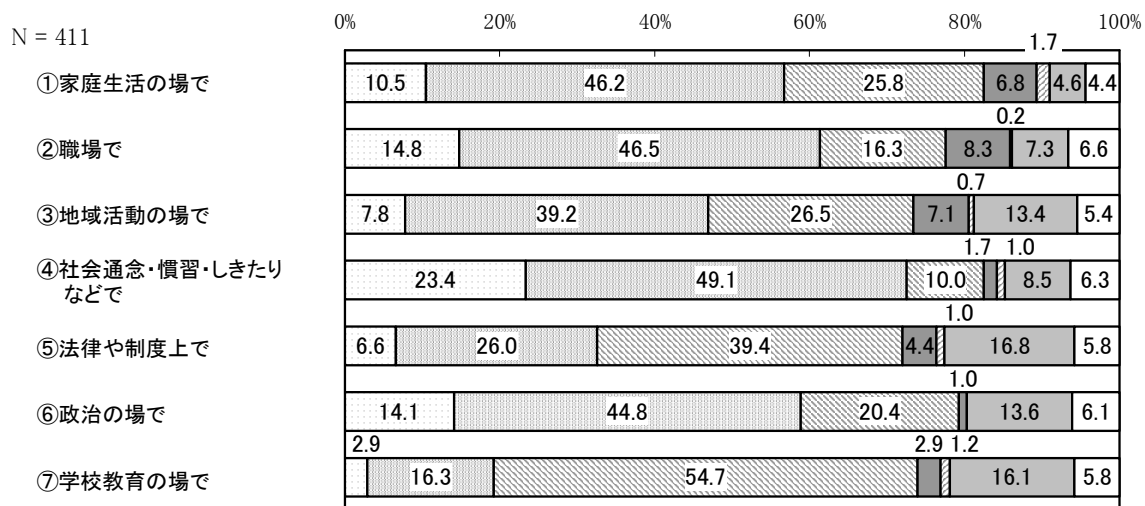
『④社会通念・慣習・しきたりなどで』で「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」をあわせた“男性の方が優遇されている”の割合が、『⑦学校教育の場で』で「平等である」の割合が、『③地域活動の場で』で「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と「女性の方が非常に優遇されている」をあわせた“女性の方が優遇されている”の割合が最も高くなっています。

平成 23 年度調査と比べると、『⑤法律や制度上で』で“男性の方が優遇されている”の割合が高くなっています。

- 男性の方が非常に優遇されている
- ▨ どちらかといえば男性の方が優遇されている
- ▩ 平等である
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- ▨ 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 無回答



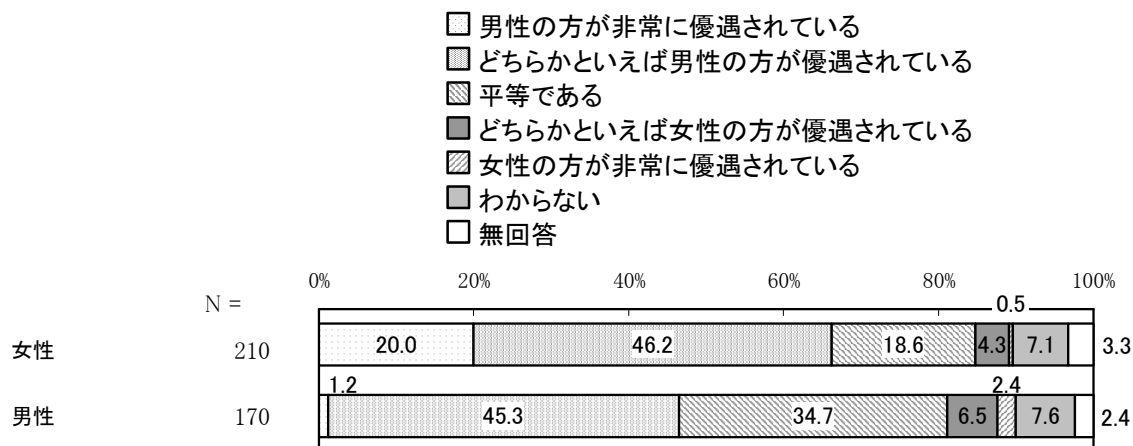
【平成 23 年度調査】



①家庭生活の中で

【性別】

性別で見ると、女性で“男性の方が優遇されている”の割合が高くなっています。また、男性で「平等である」の割合が高くなっています。



【国・県の調査の比較と経年比較】

全国調査と比べると、“男性の方が優遇されている”の割合が高くなっています。また、「平等である」の割合が低くなっています。

愛知県調査と比べると、“男性の方が優遇されている”の割合が高くなっています。また、“女性の方が優遇されている”の割合が低くなっています。

単位：%

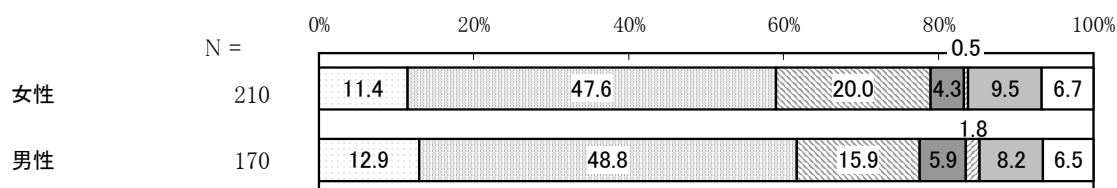
区分	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
田原市 (H28.7)	11.7	45.8	25.4	5.1	1.3	7.6	3.1
女性	20.0	46.2	18.6	4.3	0.5	7.1	3.3
男性	1.2	45.3	34.7	6.5	2.4	7.6	2.4
田原市 (H23.10)	10.5	46.2	25.8	6.8	1.7	4.6	4.4
女性	15.7	46.6	18.4	7.2	1.8	5.4	4.9
男性	4.3	45.2	34.9	6.5	1.6	3.8	3.8
田原市 (H20.8)	15.3	51.4	17.3	6.4	0.5	6.7	2.5
女性	20.3	53.0	11.5	6.0	0.5	6.0	2.8
男性	9.9	49.5	24.2	6.6	0.5	7.7	1.6
愛知県 (H26.11)	12.6	36.0	29.4	8.9	3.6	7.6	1.9
女性	17.0	41.3	22.8	7.2	2.0	8.2	1.5
男性	8.2	30.4	36.2	11.1	5.4	7.4	1.4
国 (H24.10)	8.5	34.7	47.0	6.1	1.3	2.3	-
女性	10.6	40.0	41.0	5.3	1.2	1.9	-
男性	6.3	28.8	53.8	7.1	1.3	2.7	-

②職場で

【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。

- 男性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等である
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 無回答



【国・県の調査の比較と経年比較】

全国調査と比べると、“男性の方が優遇されている”の割合が高くなっています。また、「平等である」の割合が低くなっています。

愛知県調査と比べると、“男性の方が優遇されている”の割合が低くなっています。

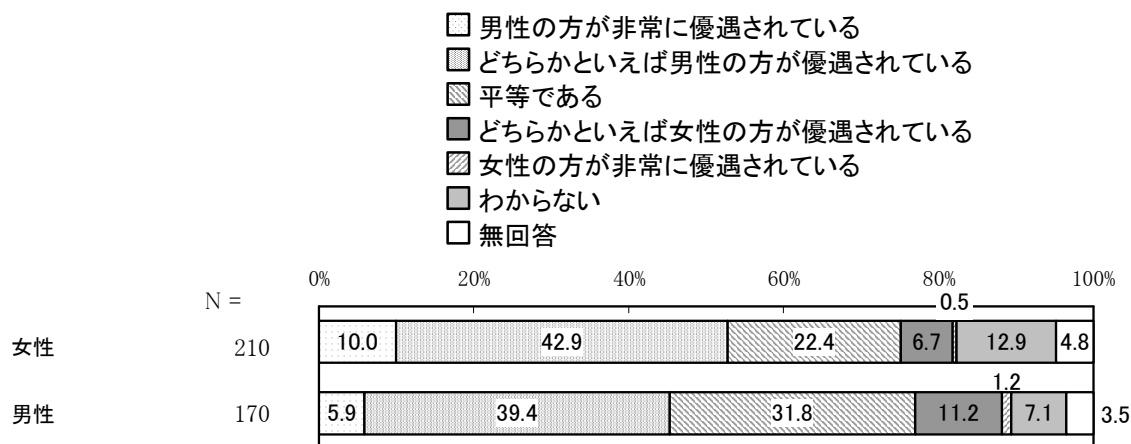
単位：%

区分	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
田原市 (H28.7)	12.2	48.1	17.6	5.3	1.0	8.9	6.9
女性	11.4	47.6	20.0	4.3	0.5	9.5	6.7
男性	12.9	48.8	15.9	5.9	1.8	8.2	6.5
田原市 (H23.10)	14.8	46.5	16.3	8.3	0.2	7.3	6.6
女性	18.8	43.5	13.9	5.4	-	9.9	8.5
男性	9.7	50.0	19.4	11.8	0.5	4.3	4.3
田原市 (H20.8)	16.3	45.2	16.5	5.2	1.2	10.1	5.4
女性	20.3	45.2	13.8	3.7	0.5	11.5	5.1
男性	12.1	45.1	19.2	7.1	2.2	8.8	5.5
愛知県 (H26.11)	25.6	41.6	15.0	5.2	1.9	7.6	3.0
女性	31.6	40.1	13.1	2.6	0.8	9.1	2.7
男性	18.5	43.3	18.0	8.5	3.1	6.3	2.3
国 (H24.10)	15.6	42.1	28.5	4.2	0.5	9.2	-
女性	17.2	42.0	25.3	3.3	0.3	11.9	-
男性	13.7	42.2	32.0	5.1	0.7	6.3	-

③地域活動の場で

【性別】

性別で見ると、女性で“男性の方が優遇されている”の割合が高くなっています。また、男性で「平等である」の割合が高くなっています。



【国・県の調査の比較と経年比較】

全国調査と比べると、“男性の方が優遇されている”の割合が高くなっています。また、「平等である」の割合が低くなっています。

愛知県調査と比べると、“男性の方が優遇されている”の割合が高くなっています。また、「平等」の割合が低くなっています。

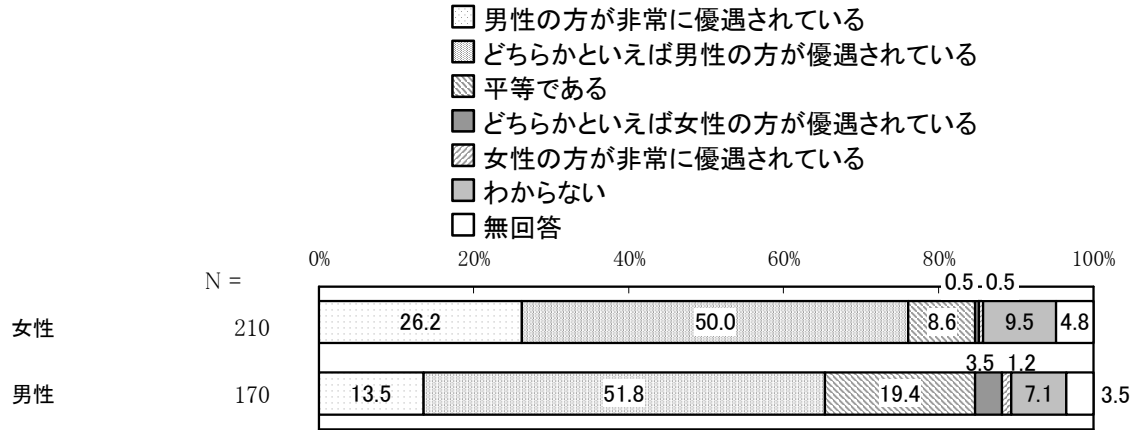
単位：%

区分	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
田原市 (H28.7)	8.1	41.0	26.7	8.7	1.0	10.2	4.3
女性	10.0	42.9	22.4	6.7	0.5	12.9	4.8
男性	5.9	39.4	31.8	11.2	1.2	7.1	3.5
田原市 (H23.10)	7.8	39.2	26.5	7.1	0.7	13.4	5.4
女性	9.9	37.7	22.9	5.4	0.4	16.6	7.2
男性	4.8	41.4	30.6	9.1	1.1	9.7	3.2
田原市 (H20.8)	8.1	39.8	27.7	6.9	0.7	12.3	4.4
女性	10.1	40.6	22.6	6.9	0.5	14.3	5.1
男性	6.0	39.6	33.0	6.6	1.1	10.4	3.3
愛知県 (H26.11)	6.5	27.7	39.0	8.2	1.5	14.7	2.4
女性	8.0	33.9	32.8	6.9	1.0	15.5	1.8
男性	4.6	21.0	46.8	9.6	2.0	14.5	1.5
国 (H24.10)	6.9	26.5	52.1	6.1	0.9	7.6	-
女性	7.7	30.6	47.7	5.2	0.6	8.2	-
男性	6.0	21.9	57.0	7.1	1.2	6.8	-

④社会通念・慣習・しきたりなどで

【性別】

性別でみると、女性で“男性の方が優遇されている”の割合が高くなっています。また、男性で「平等である」の割合が高くなっています。



【国・県の調査の比較と経年比較】

全国調査と比べると、「平等である」の割合が低くなっています。

愛知県調査と比べると、大きな差異はみられません。

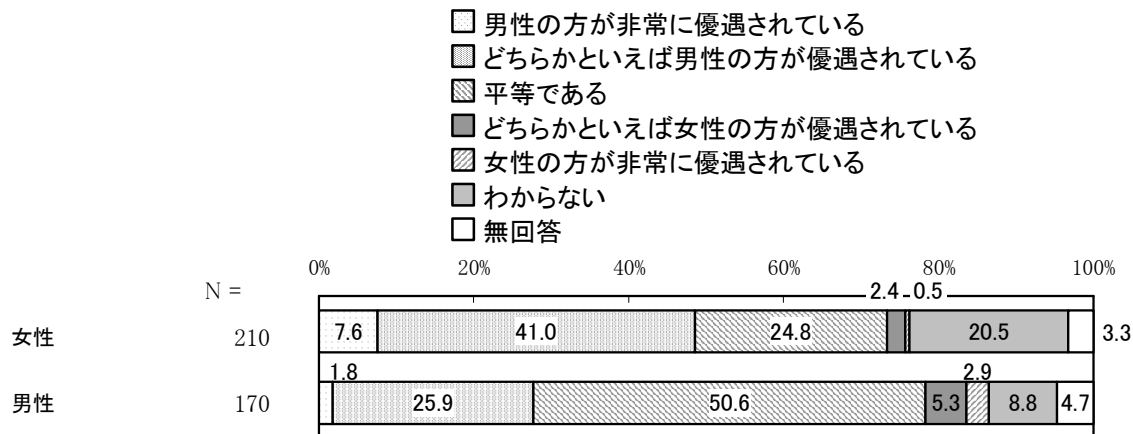
単位：%

区分	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
田原市 (H28.7)	20.6	50.4	13.2	1.8	0.8	8.9	4.3
女性	26.2	50.0	8.6	0.5	0.5	9.5	4.8
男性	13.5	51.8	19.4	3.5	1.2	7.1	3.5
田原市 (H23.10)	23.4	49.1	10.0	1.7	1.0	8.5	6.3
女性	27.8	44.4	5.8	0.9	0.9	11.7	8.5
男性	17.7	54.8	15.1	2.7	1.1	4.8	3.8
田原市 (H20.8)	20.5	50.1	10.1	3.0	0.7	11.1	4.4
女性	25.3	48.4	6.9	1.8	0.9	11.1	5.5
男性	14.8	52.7	14.3	3.3	0.5	11.5	2.7
愛知県 (H26.11)	28.3	45.6	13.2	2.5	0.7	7.5	2.3
女性	34.2	44.6	10.1	1.0	0.3	8.0	1.9
男性	21.4	47.6	16.9	4.5	1.1	7.1	1.4
国 (H24.10)	18.6	51.7	21.4	2.9	0.6	4.7	-
女性	20.5	54.0	17.1	2.6	0.4	5.4	-
男性	16.5	49.2	26.3	3.2	0.8	4.0	-

⑤法律や制度上で

【性別】

性別でみると、女性で「男性の方が優遇されている」の割合が高くなっています。また、男性で「平等である」の割合が高くなっています。



【国・県の調査の比較と経年比較】

全国調査と比べると、「平等である」の割合が低くなっています。

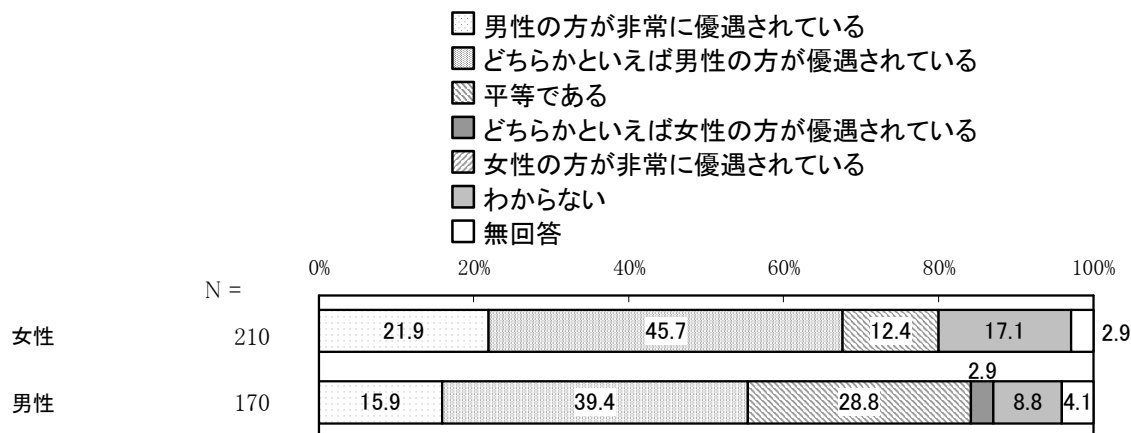
単位：%

区分	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
田原市(H28.7)	5.1	34.1	36.1	3.6	1.5	15.5	4.1
女性	7.6	41.0	24.8	2.4	0.5	20.5	3.3
男性	1.8	25.9	50.6	5.3	2.9	8.8	4.7
田原市(H23.10)	6.6	26.0	39.4	4.4	1.0	16.8	5.8
女性	8.5	31.4	24.2	2.7	0.9	24.7	7.6
男性	4.3	19.4	57.5	6.5	1.1	7.5	3.8
田原市(H20.8)	6.2	30.9	40.2	3.2	1.2	14.1	4.2
女性	8.3	38.2	30.0	1.8	-	16.1	5.5
男性	3.3	22.5	52.2	4.9	2.7	12.1	2.2
国(H24.10)	8.7	29.5	45.4	6.2	1.1	9.0	-
女性	10.9	34.0	37.5	4.8	0.7	12.1	-
男性	6.3	24.5	54.2	7.8	1.6	5.6	-

⑥政治の場で

【性別】

性別で見ると、女性で“男性の方が優遇されている”の割合が高くなっています。また、男性で「平等である」の割合が高くなっています。



【国・県の調査の比較と経年比較】

全国調査と比べると、“男性の方が優遇されている”の割合が低くなっています。

愛知県調査と比べると、「平等」の割合が高くなっています。また、“男性の方が優遇されている”の割合が低くなっています。

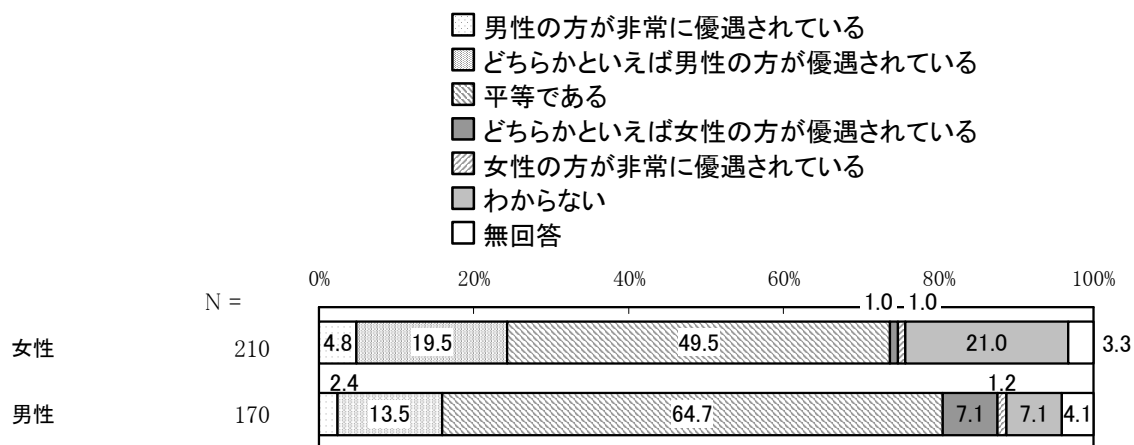
単位：%

区分	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
田原市(H28.7)	19.1	42.5	19.8	1.5	0.0	13.5	3.6
女性	21.9	45.7	12.4	0.0	0.0	17.1	2.9
男性	15.9	39.4	28.8	2.9	0.0	8.8	4.1
田原市(H23.10)	14.1	44.8	20.4	1.0	-	13.6	6.1
女性	19.7	45.7	9.0	0.4	-	17.5	7.6
男性	7.5	43.5	33.9	1.6	-	9.1	4.3
田原市(H20.8)	20.2	39.3	22.2	-	0.2	14.1	4.0
女性	25.8	41.9	12.9	-	-	15.2	4.1
男性	12.6	37.4	33.0	-	0.5	13.2	3.3
愛知県(H26.11)	37.0	39.7	9.8	1.0	1.0	9.6	2.0
女性	43.9	37.9	5.9	0.3	0.4	9.9	1.8
男性	28.8	42.1	14.8	1.8	1.7	9.6	1.2
国(H24.10)	30.0	44.0	18.6	0.9	0.3	6.3	-
女性	33.4	44.7	13.5	0.6	0.1	7.6	-
男性	26.1	43.2	24.2	1.3	0.4	4.8	-

⑦学校教育の場で

【性別】

性別でみると、女性で“男性の方が優遇されている”の割合が高くなっています。また、男性で「平等である」の割合が高くなっています。



【国・県の調査の比較と経年比較】

全国調査と比べると、“男性の方が優遇されている”の割合が高くなっています。また、「平等である」の割合が低くなっています。

愛知県調査と比べると、“男性の方が優遇されている”の割合が高くなっています。

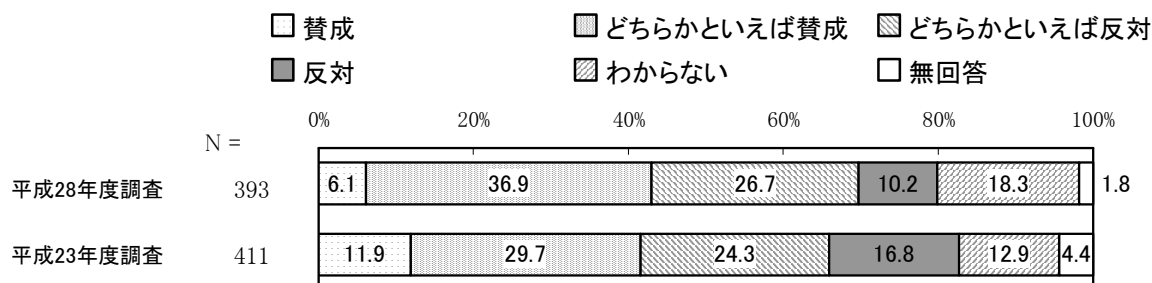
単位：%

区分	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
田原市(H28.7)	3.8	17.0	55.7	3.8	1.0	14.8	3.8
女性	4.8	19.5	49.5	1.0	1.0	21.0	3.3
男性	2.4	13.5	64.7	7.1	1.2	7.1	4.1
田原市(H23.10)	2.9	16.3	54.7	2.9	1.2	16.1	5.8
女性	4.0	21.5	44.8	1.3	1.3	19.3	7.6
男性	1.6	9.7	66.7	4.8	1.1	12.4	3.8
田原市(H20.8)	4.0	20.0	52.1	3.7	0.2	16.3	3.7
女性	5.5	22.6	47.9	2.8	0.5	16.1	4.6
男性	2.2	17.6	56.0	4.9	-	17.0	2.2
愛知県(H26.11)	2.4	13.2	57.7	3.9	1.2	18.5	3.0
女性	2.6	15.0	58.2	2.9	0.4	18.8	2.2
男性	2.2	10.6	58.4	5.2	2.0	19.0	2.6
国(H24.10)	2.4	11.0	67.0	3.0	0.7	15.8	-
女性	2.6	13.0	65.7	1.9	0.6	16.1	-
男性	2.2	8.8	68.5	4.3	0.8	15.4	-

問 16 あなたは、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方について、どう思いますか。(1つに〇)

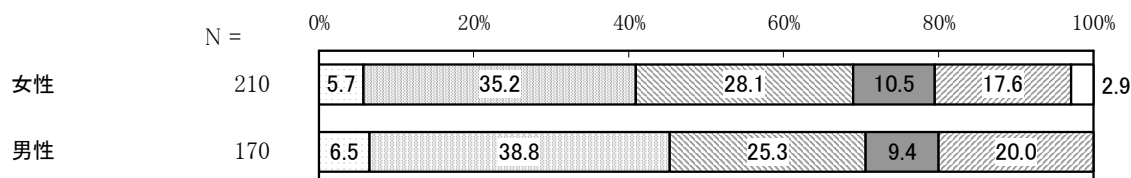
「賛成」と「どちらかといえば賛成」をあわせた“賛成”の割合が 43.0%、「どちらかといえば反対」と「反対」をあわせた“反対”の割合が 36.9%となっています。

平成 23 年度調査と比べると、「わからない」の割合が高くなっています。



【性別】

性別で見ると、大きな差異はみられません



【国・県の調査の比較と経年比較】

全国調査と比べると、“反対”の割合が低くなっています。

単位：%

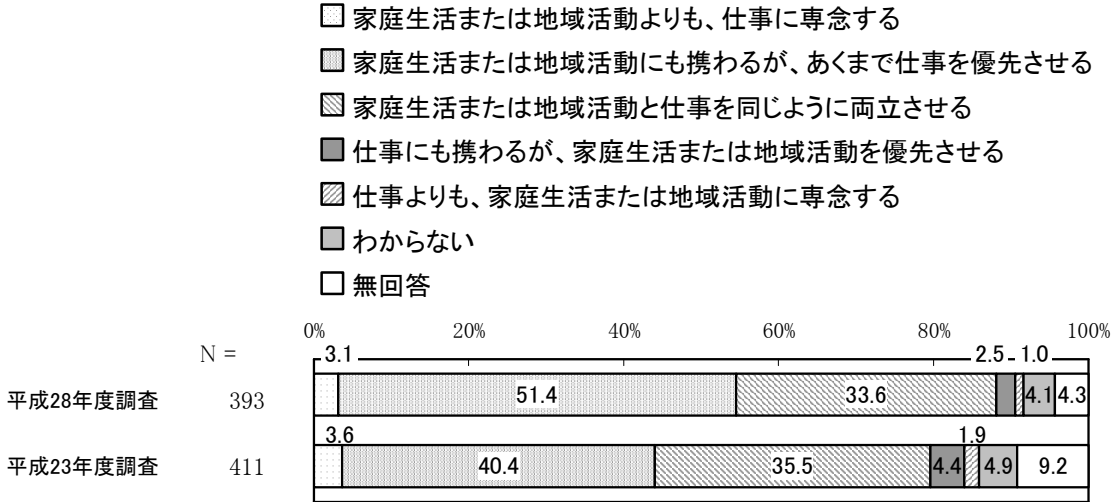
区分	賛成	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	反対	わからない	無回答
田原市(H28.7)	6.1	36.9	26.7	10.2	18.3	1.8
女性	5.7	35.2	28.1	10.5	17.6	2.9
男性	6.5	38.8	25.3	9.4	20.0	0.0
田原市(H23.10)	11.9	29.7	24.3	16.8	12.9	4.4
女性	11.2	24.7	24.2	20.2	13.5	6.3
男性	12.4	36.0	24.2	12.9	12.4	2.2
田原市(H20.8)	9.1	32.6	24.7	17.8	11.1	4.7
女性	7.4	30.0	25.3	21.2	9.7	6.5
男性	11.5	34.6	24.7	14.3	12.6	2.2
愛知県(H26.11)	7.4	38.5	26.7	13.6	11.9	1.9
女性	6.1	35.4	28.2	15.8	12.9	1.5
男性	8.5	42.5	25.4	10.8	11.1	1.7
国(H26.11)	12.5	32.1	33.3	16.1	6.0	-
女性	11.2	32.0	34.2	17.4	5.1	-
男性	14.2	32.3	32.0	14.5	7.0	-

問 17 仕事と、家庭生活または地域活動について、人の生き方として、あなたが望ましいと思うのは、どのような生き方でしょうか。

①男性の生き方

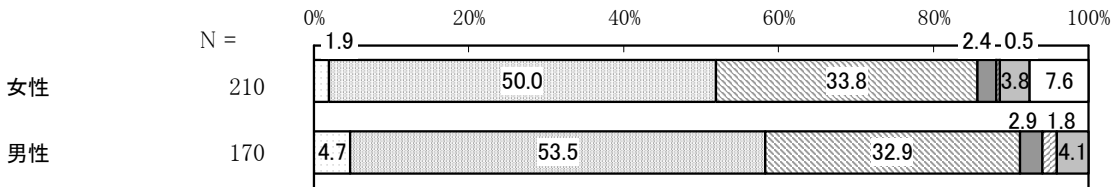
「家庭生活または地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させる」の割合が 51.4%と最も高く、次いで「家庭生活または地域活動と仕事を同じように両立させる」の割合が 33.6%となっています。

平成 23 年度調査と比べると、「家庭生活または地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させる」の割合が高くなっています。



【性別】

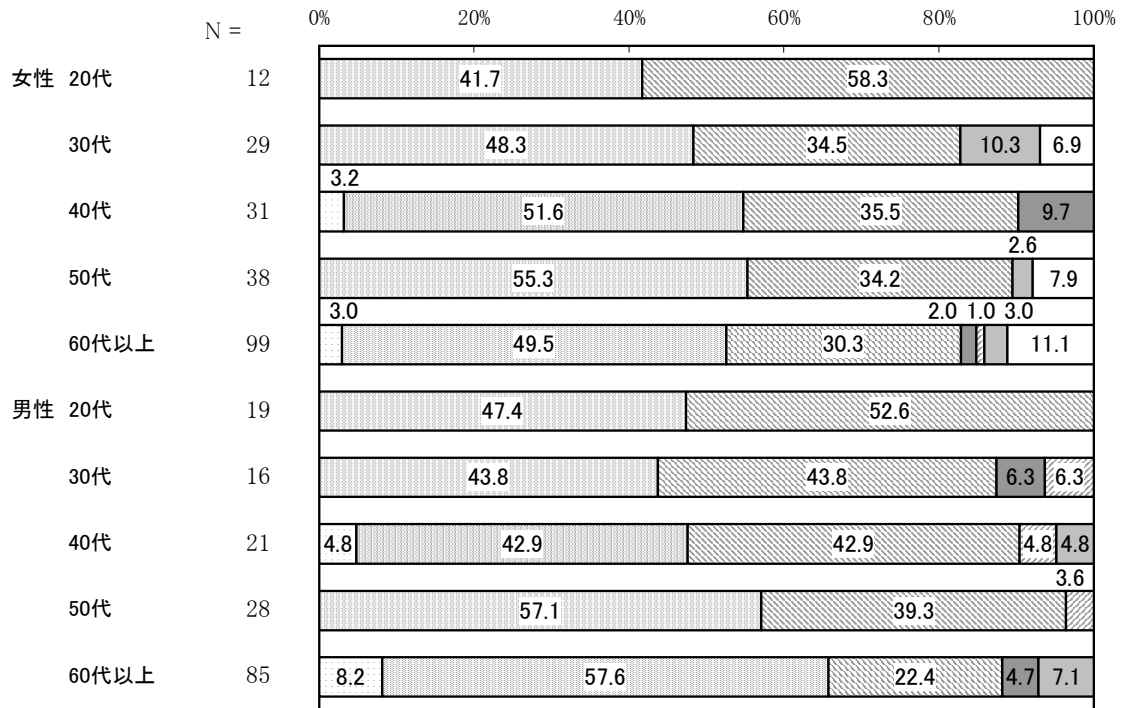
性別で見ると、大きな差異はみられません。



【性・年代別】

性・年代別で見ると、他に比べ、女性の20代で「家庭生活または地域活動と仕事を同じように両立させる」の割合が高くなっています。また、男性では年齢が高くなるにつれて「家庭生活または地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させる」の割合が高くなる傾向がみられます。

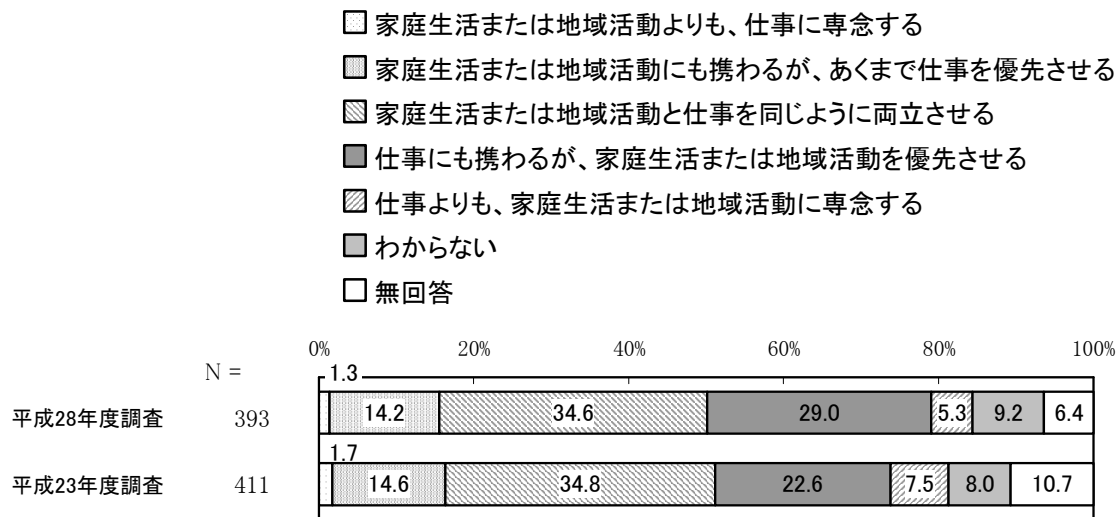
- 家庭生活または地域活動よりも、仕事に専念する
- 家庭生活または地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させる
- 家庭生活または地域活動と仕事を同じように両立させる
- 仕事にも携わるが、家庭生活または地域活動を優先させる
- 仕事よりも、家庭生活または地域活動に専念する
- わからない
- 無回答



②女性の生き方

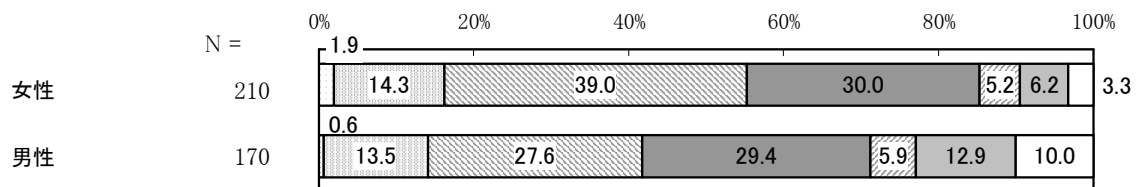
「家庭生活または地域活動と仕事を同じように両立させる」の割合が34.6%と最も高く、次いで「仕事にも携わるが、家庭生活または地域活動を優先させる」の割合が29.0%、「家庭生活または地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させる」の割合が14.2%となっています。

平成23年度調査と比べると、「仕事にも携わるが、家庭生活または地域活動を優先させる」の割合が高くなっています。



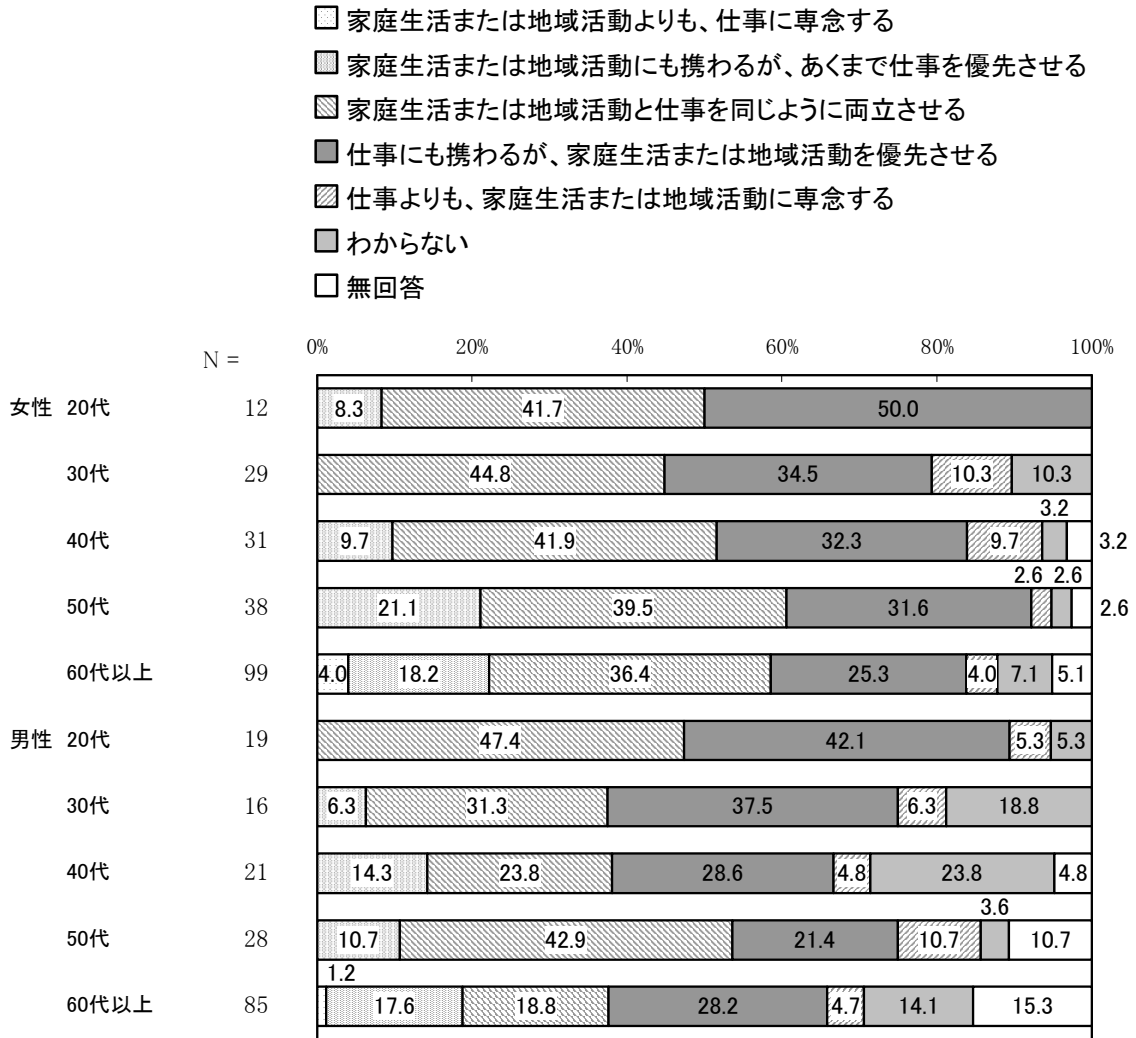
【性別】

性別で見ると、女性で「家庭生活または地域活動と仕事を同じように両立させる」の割合が高くなっています。



【性・年代別】

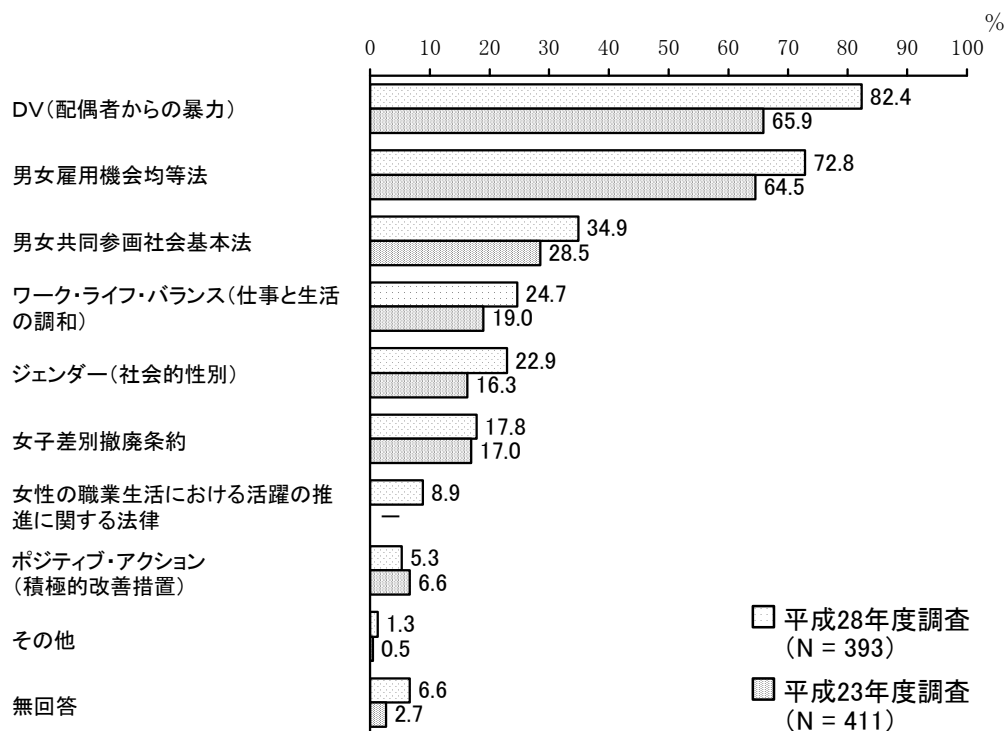
性・年代別で見ると、男女ともに 20 代で「仕事にも携わるが、家庭生活または地域活動を優先させる」の割合が高くなっています。



問 18 あなたは、次にあげる男女共同参画社会に関する言葉を知っていますか。
(知っている言葉すべてに○)

「DV（配偶者からの暴力）」の割合が 82.4%と最も高く、次いで「男女雇用機会均等法」の割合が 72.8%、「男女共同参画社会基本法」の割合が 34.9%となっています。

平成 23 年度調査と比べると、「DV（配偶者からの暴力）」「男女雇用機会均等法」「男女共同参画社会基本法」「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」「ジェンダー（社会的性別）」の割合が高くなっています。



※平成 23 年度調査には「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」の選択肢はありませんでした。
平成 23 年度調査には「知らない」の選択肢がありました。

3 結婚、家庭生活について

《配偶者またはパートナーと暮らしている方にお聞きします》

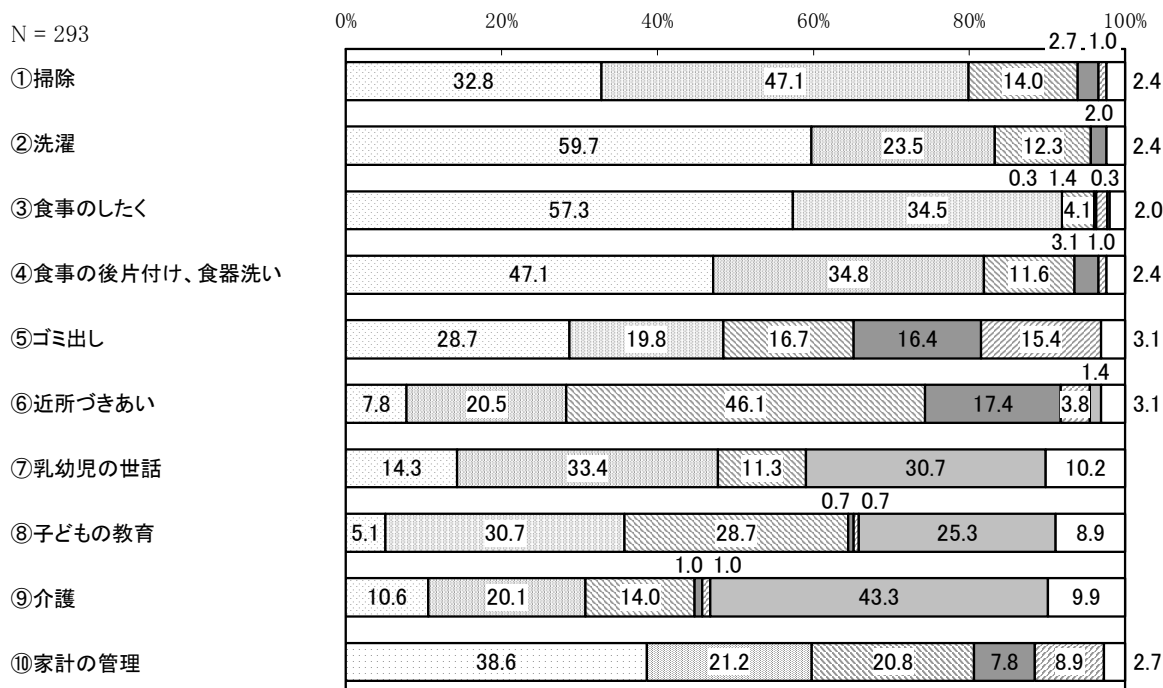
問 19 あなたのご家庭での役割について、現状をお答えください。

(①から⑩の項目についてそれぞれ1つずつ〇)

『②洗濯』『③食事のしたく』『④食事の後片付け、食器洗い』『⑤ゴミ出し』『⑩家計の管理』で「すべて女性が担当」の割合が、『①掃除』『⑦乳幼児の世話』『⑧子どもの教育』『⑨介護』で「主に女性が担当して男性は手伝う程度」の割合が、『⑥近所づきあい』で「男女同じ程度」の割合が高くなっています。

平成 23 年度調査と比べると、『③食事のしたく』『④食事の後片付け、食器洗い』で「主に女性が担当して男性は手伝う程度」の割合が、『⑤ゴミ出し』で「主に男性が担当して女性は手伝う程度」の割合が、『⑦乳幼児の世話』で「男女同じ程度」の割合が高くなっています。また、『①掃除』『④食事の後片付け、食器洗い』『⑤ゴミ出し』『⑦乳幼児の世話』で「すべて女性が担当」の割合が低くなっています。

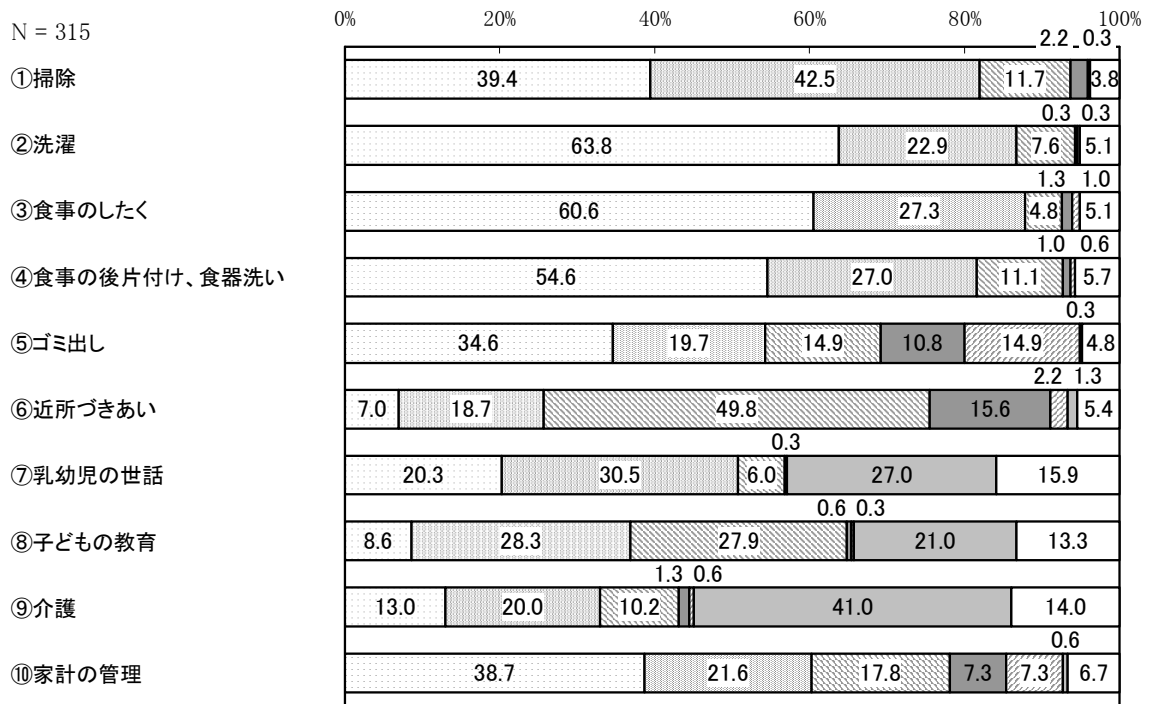
- すべて女性が担当
- ▨ 主に女性が担当して男性は手伝う程度
- ▩ 男女同じ程度
- 主に男性が担当して女性は手伝う程度
- ▧ すべて男性が担当
- 該当する人がいない・該当する選択肢がない
- 無回答



【平成 23 年度調査】

- すべて女性が担当
- ▨ 主に女性が担当して男性は手伝う程度
- ▩ 男女同じ程度
- 主に男性が担当して女性は手伝う程度
- ▧ すべて男性が担当
- 該当する人がいない・該当する選択肢がない
- 無回答

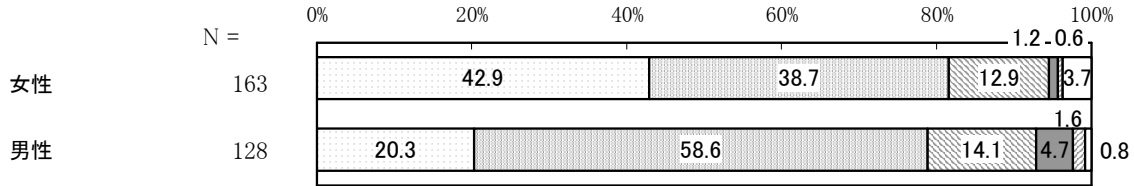
N = 315



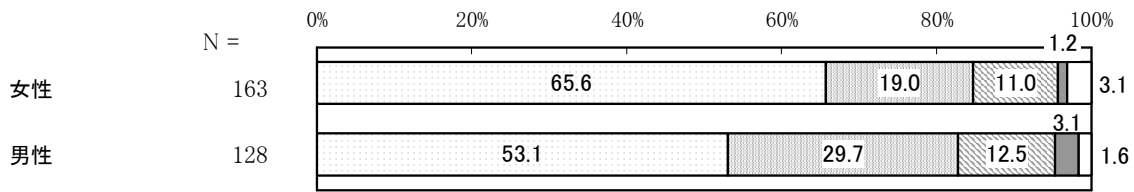
【性別】

- すべて女性が担当
- ▨ 主に女性が担当して男性は手伝う程度
- ▩ 男女同じ程度
- 主に男性が担当して女性は手伝う程度
- ▧ すべて男性が担当
- 該当する人がいない・該当する選択肢がない
- 無回答

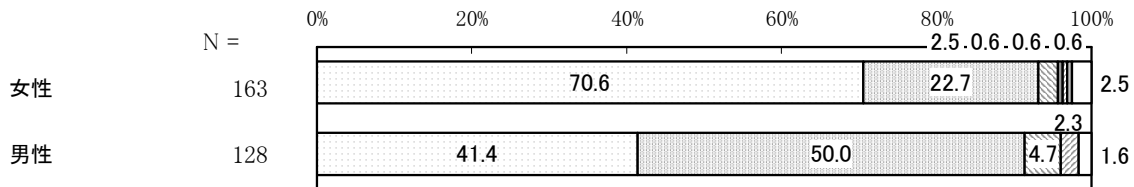
①掃除 性別で見ると、女性で「すべて女性が担当」の割合が高くなっています。また、男性で「主に女性が担当して男性は手伝う程度」の割合が高くなっています。



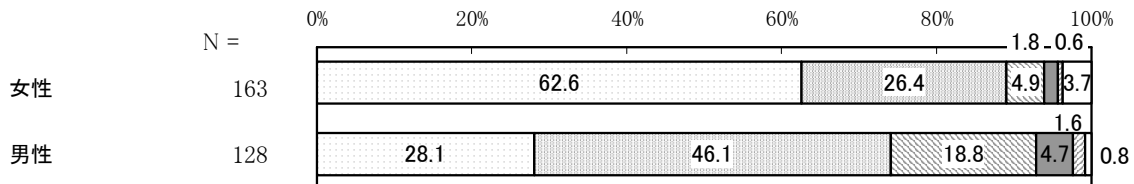
②洗濯 性別で見ると、女性で「すべて女性が担当」の割合が高くなっています。また、男性で「主に女性が担当して男性は手伝う程度」の割合が高くなっています。



③食事のしたく 性別で見ると、女性で「すべて女性が担当」の割合が高くなっています。また、男性で「主に女性が担当して男性は手伝う程度」の割合が高くなっています。



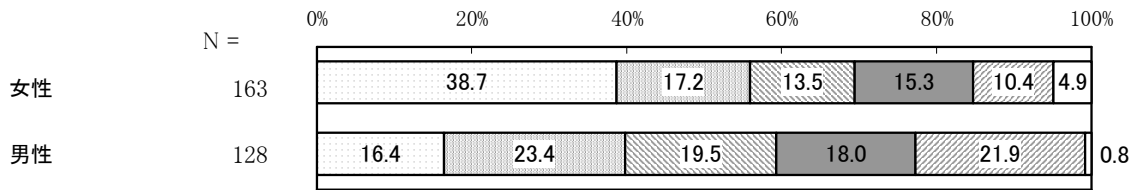
④食事の後片付け、食器洗い 性別で見ると、女性で「すべて女性が担当」の割合が高くなっています。また、男性で「主に女性が担当して男性は手伝う程度」「男女同じ程度」の割合が高くなっています。



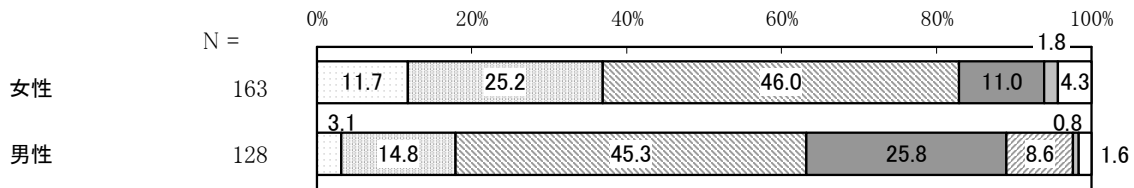
【性別】

- すべて女性が担当
- 主に女性が担当して男性は手伝う程度
- 男女同じ程度
- 主に男性が担当して女性は手伝う程度
- すべて男性が担当
- 該当する人がいない・該当する選択肢がない
- 無回答

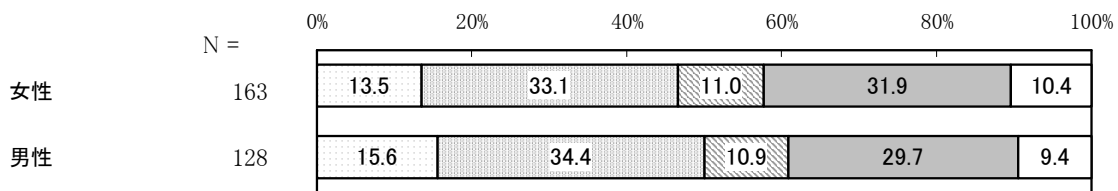
⑤ゴミ出し 性別で見ると、女性で「すべて女性が担当」の割合が高くなっています。また、男性で「主に女性が担当して男性は手伝う程度」「男女同じ程度」「すべて男性が担当」の割合が高くなっています。



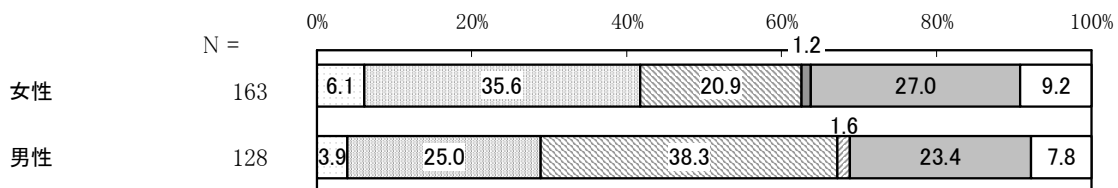
⑥近所づきあい 性別で見ると、女性で「すべて女性が担当」「主に女性が担当して男性は手伝う程度」の割合が高くなっています。また、男性で「主に男性が担当して女性は手伝う程度」の割合が高くなっています。



⑦乳幼児の世話 性別で見ると、大きな差異はみられません。



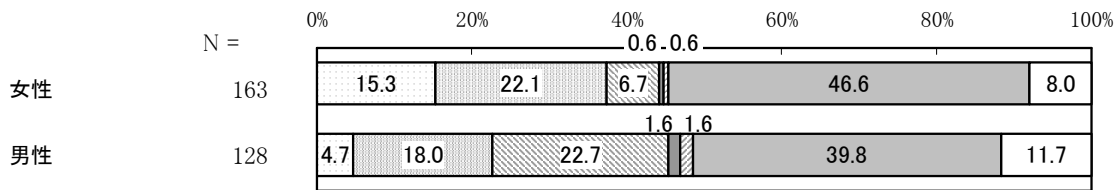
⑧子どもの教育 性別で見ると、女性で「主に女性が担当して男性は手伝う程度」の割合が高くなっています。また、男性で「男女同じ程度」の割合が高くなっています。



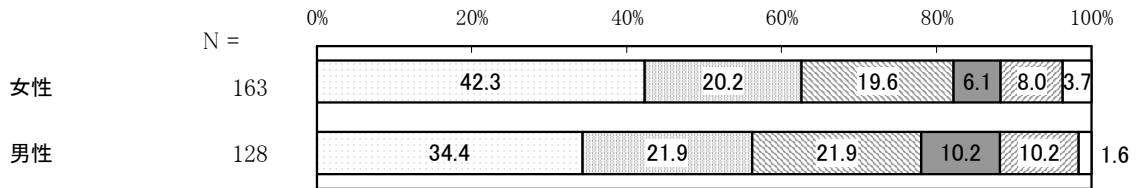
【性別】

- すべて女性が担当
- ▨ 主に女性が担当して男性は手伝う程度
- ▩ 男女同じ程度
- 主に男性が担当して女性は手伝う程度
- ▧ すべて男性が担当
- 該当する人がいない・該当する選択肢がない
- 無回答

⑨介護 性別で見ると、女性で「すべて女性が担当」の割合が高くなっています。また、男性で「男女同じ程度」の割合が高くなっています。



⑩家計の管理 性別で見ると、女性で「すべて女性が担当」の割合が高くなっています。



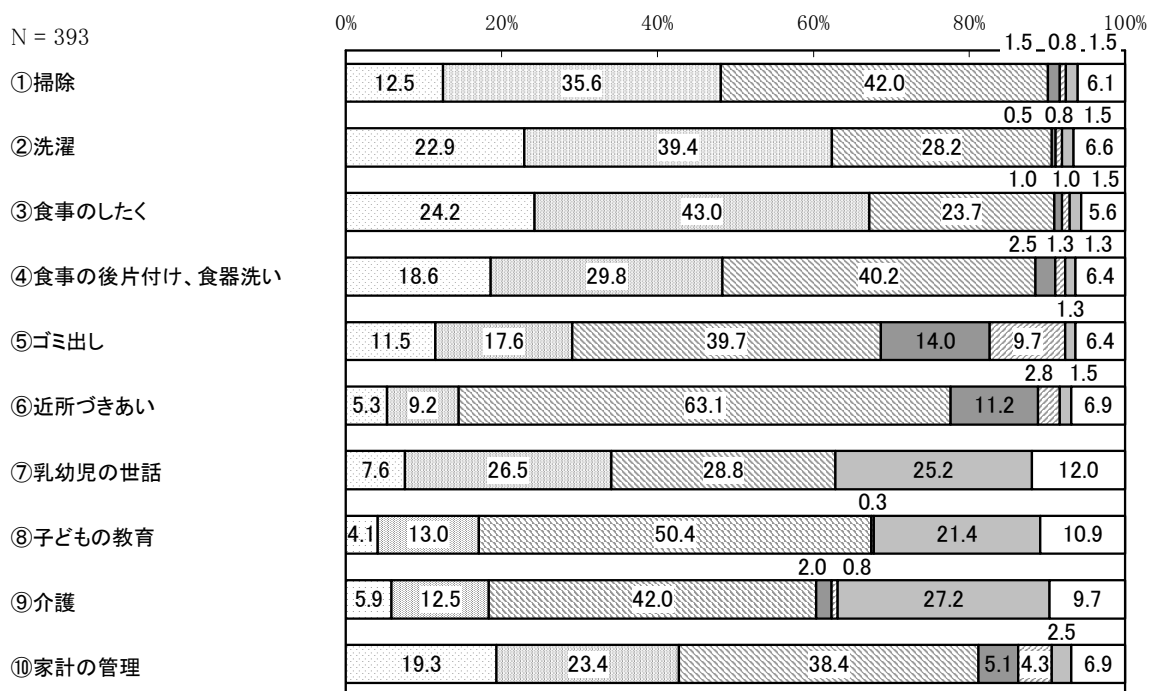
問 20 あなたのご家庭での役割について、理想をお答えください。
 (①から⑩の項目についてそれぞれ1つずつ〇)

『②洗濯』『③食事のしたく』で「主に女性が担当し男性は手伝う程度」の割合が、『①掃除』『④食事の後片付け、食器洗い』『⑤ゴミ出し』『⑥近所づきあい』『⑦乳幼児の世話』『⑧子どもの教育』『⑨介護』『⑩家計の管理』で「男女同じ程度」の割合が高くなっています。

平成 23 年度調査と比べると、『④食事の後片付け、食器洗い』で「男女同じ程度」の割合が高くなっています。また、『④食事の後片付け、食器洗い』で「主に女性が担当し男性は手伝う程度」の割合が、『⑦乳幼児の世話』『⑧子どもの教育』『⑨介護』で「男女同じ程度」の割合が低くなっています。

- すべて女性が担当
- 主に女性が担当し男性は手伝う程度
- ▨ 男女同じ程度
- 主に男性が担当し女性は手伝う程度
- ▨ すべて男性が担当
- 該当する人がいない・該当する選択肢がない
- 無回答

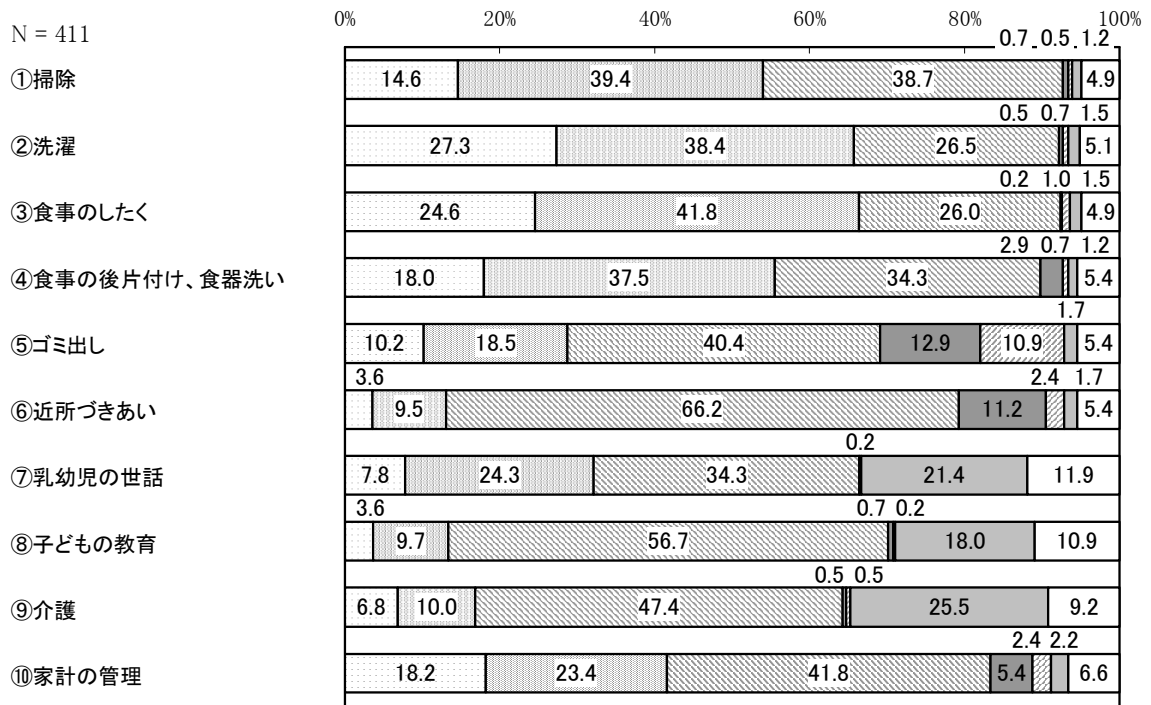
N = 393



【平成 23 年度調査】

- すべて女性が担当
- 主に女性が担当し男性は手伝う程度
- ▨ 男女同じ程度
- 主に男性が担当し女性は手伝う程度
- ▨ すべて男性が担当
- 該当する人がいない・該当する選択肢がない
- 無回答

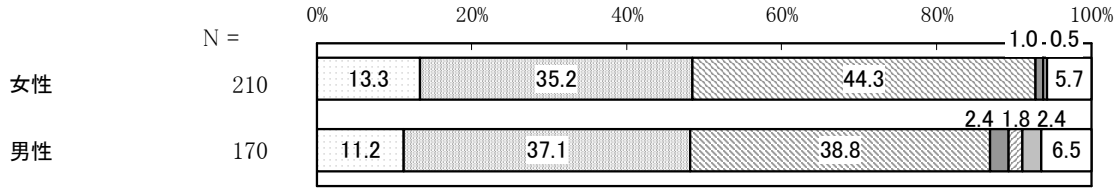
N = 411



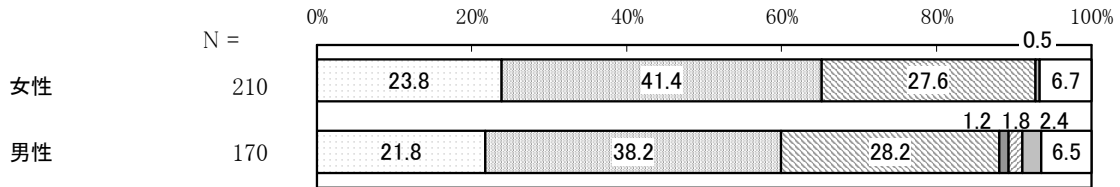
【性別】

- すべて女性が担当
- ▨ 主に女性が担当し男性は手伝う程度
- ▩ 男女同じ程度
- 主に男性が担当し女性は手伝う程度
- ▧ すべて男性が担当
- 該当する人がいない・該当する選択肢がない
- 無回答

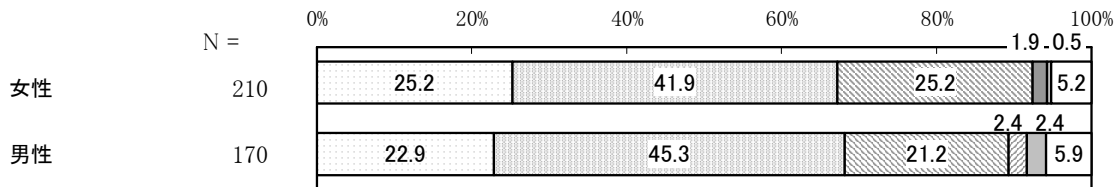
①掃除 性別で見ると、女性で「男女同じ程度」の割合が高くなっています。



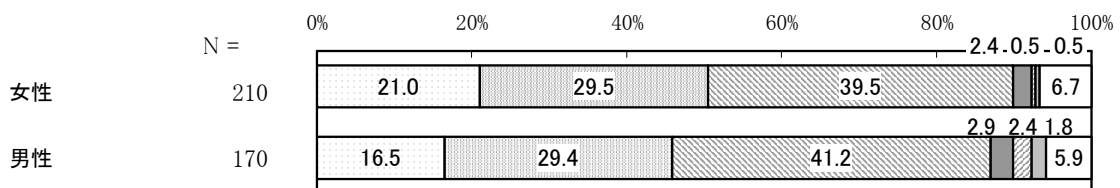
②洗濯 性別で見ると、大きな差異はみられません。



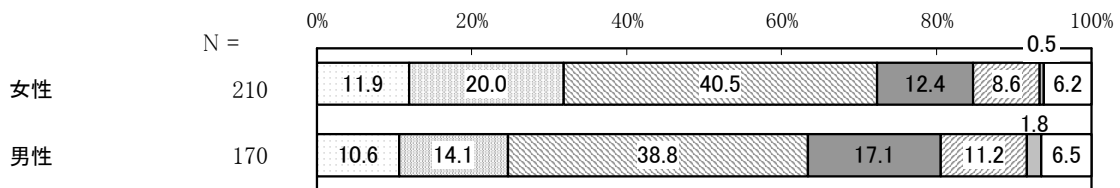
③食事のしたく 性別で見ると、大きな差異はみられません。



④食事の後片付け、食器洗い 性別で見ると、大きな差異はみられません。



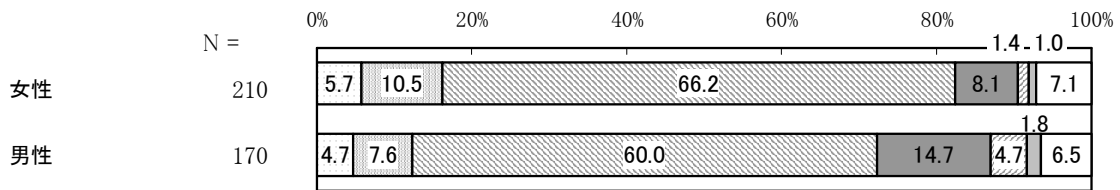
⑤ゴミ出し 性別で見ると、女性で「主に女性が担当し男性は手伝う程度」の割合が高くなっています。



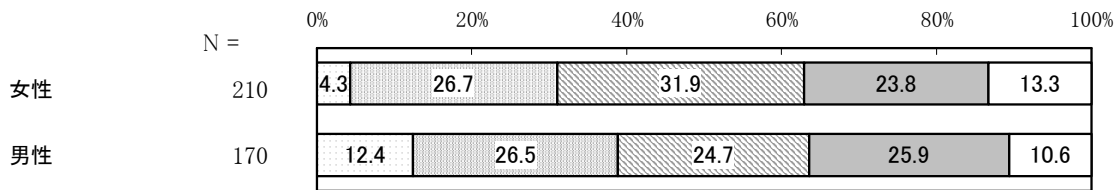
【性別】

- すべて女性が担当
- 主に女性が担当し男性は手伝う程度
- ▨ 男女同じ程度
- 主に男性が担当し女性は手伝う程度
- ▨ すべて男性が担当
- 該当する人がいない・該当する選択肢がない
- 無回答

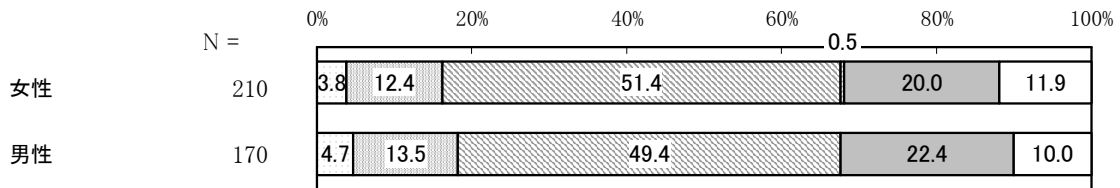
⑥近所づきあい 性別で見ると、女性で「男女同じ程度」の割合が高くなっています。また、男性で「主に男性が担当し女性は手伝う程度」の割合が高くなっています。



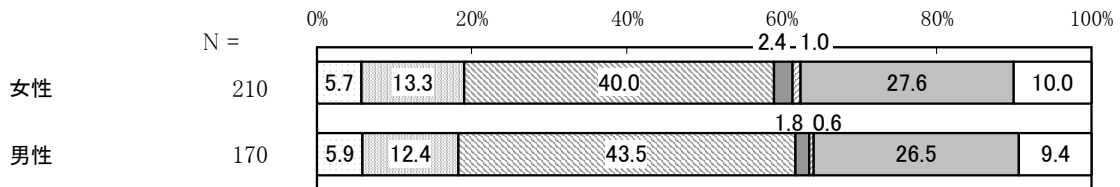
⑦乳幼児の世話 性別で見ると、女性で「男女同じ程度」の割合が高くなっています。また、男性で「すべて女性が担当」の割合が高くなっています。



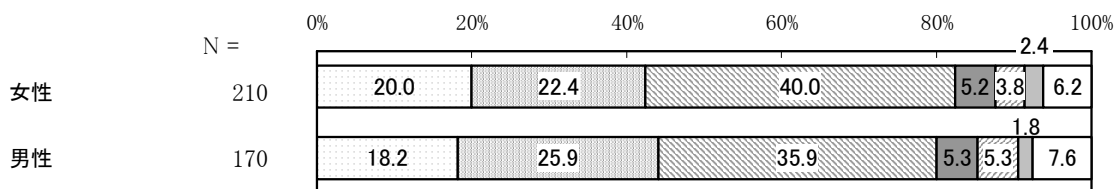
⑧子どもの教育 性別で見ると、大きな差異はみられません。



⑨介護 性別で見ると、大きな差異はみられません。



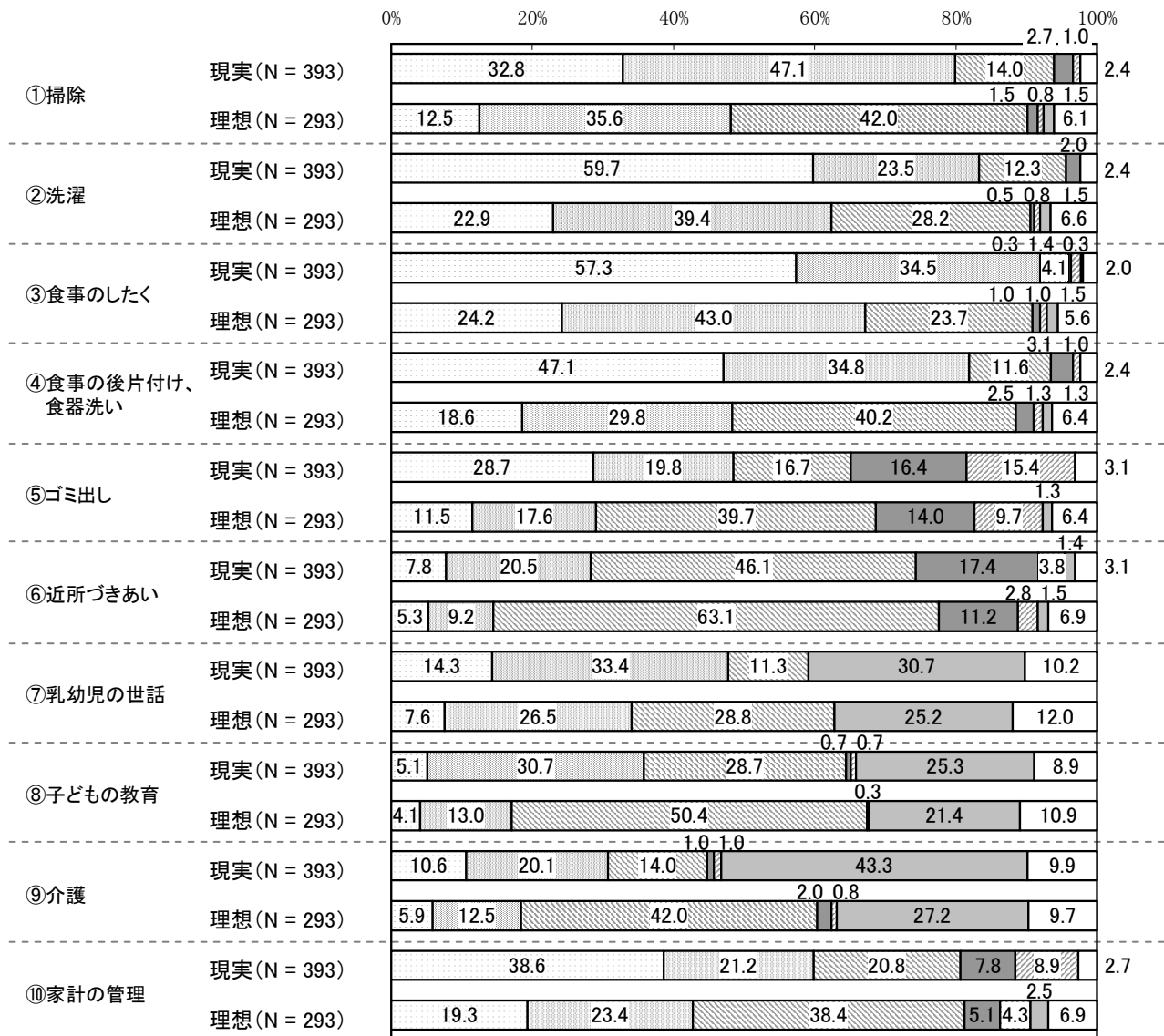
⑩家計の管理 性別で見ると、大きな差異はみられません。



【ご家庭での役割について、現実と理想の比較】

現実と理想を比べると、全ての項目で「男女同じ程度」の割合が理想よりも低くなっています。

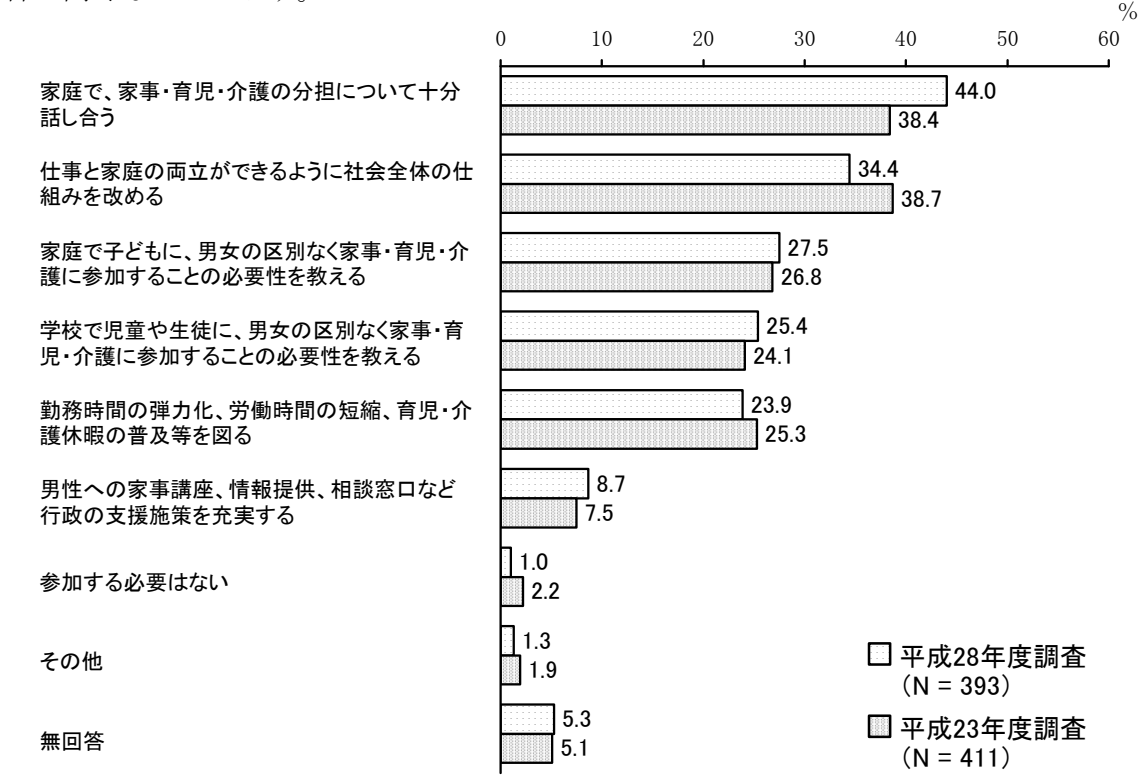
- すべて女性が担当
- ▨ 主に女性が担当し男性は手伝う程度
- ▩ 男女同じ程度
- 主に男性が担当し女性は手伝う程度
- ▧ すべて男性が担当
- 該当する人がいない・該当する選択肢がない
- 無回答



問 21 男性が家事・育児・介護に参加するためには、どのようにしたらよいと思いますか。(2つまで〇)

「家庭で、家事・育児・介護の分担について十分話し合う」の割合が44.0%と最も高く、次いで「仕事と家庭の両立ができるように社会全体の仕組みを改める」の割合が34.4%、「家庭で子どもに、男女の区別なく家事・育児・介護に参加することの必要性を教える」の割合が27.5%となっています。

平成23年度調査と比べると、「家庭で、家事・育児・介護の分担について十分話し合う」の割合が高くなっています。



【性別】

性別で見ると、女性で「家庭で子どもに、男女の区別なく家事・育児・介護に参加することの必要性を教える」「学校で児童や生徒に、男女の区別なく家事・育児・介護に参加することの必要性を教える」の割合が高くなっています。また、男性で「勤務時間の弾力化、労働時間の短縮、育児・介護休暇の普及等を図る」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数 (件)	家庭で、家事・育児・介護の分担について十分話し合う	仕事と家庭の両立ができるように社会全体の仕組みを改める	勤務時間の弾力化、労働時間の短縮、育児・介護休暇の普及等を図る	家庭で子どもに、男女の区別なく家事・育児・介護に参加することの必要性を教える	学校で児童や生徒に、男女の区別なく家事・育児・介護に参加することの必要性を教える	男性への家事講座、情報提供、相談窓口など行政の支援施策を充実する	参加する必要はない	その他	無回答
女性	210	43.3	36.7	20.0	32.4	27.1	8.6	—	1.4	4.3
男性	170	44.1	32.9	28.8	22.4	21.8	9.4	2.4	0.6	6.5

【年代別】

年代別でみると、他に比べ、20代で「家庭で、家事・育児・介護の分担について十分話し合う」の割合が、60代以上で「家庭で子どもに、男女の区別なく家事・育児・介護に参加することの必要性を教える」の割合が高くなっています。

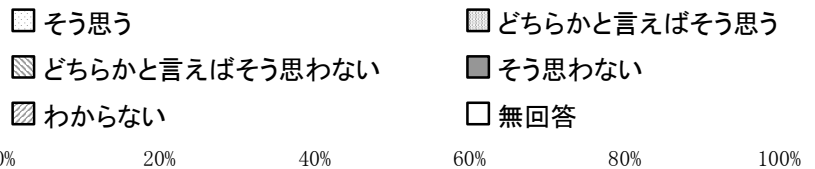
単位：%

区分	有効回答数(件)	家庭で、家事・育児・介護の分担について十分話し合う	仕事と家庭の両立ができるように社会全体の仕組みを改める	勤務時間の弾力化、労働時間の短縮、育児・介護休暇の普及等を図る	家庭で子どもに、男女の区別なく家事・育児・介護に参加することの必要性を教える	学校で児童や生徒に、男女の区別なく家事・育児・介護に参加することの必要性を教える	男性への家事講座、情報提供、相談窓口など行政の支援施策を充実する	参加する必要はない	その他	無回答
20代	31	51.6	25.8	38.7	19.4	25.8	12.9	3.2	—	3.2
30代	46	41.3	43.5	34.8	26.1	34.8	2.2	—	4.3	—
40代	52	30.8	40.4	26.9	21.2	30.8	7.7	—	1.9	7.7
50代	66	43.9	40.9	30.3	24.2	16.7	7.6	—	—	4.5
60代以上	186	46.2	30.1	16.7	32.8	24.2	10.8	1.6	0.5	6.5

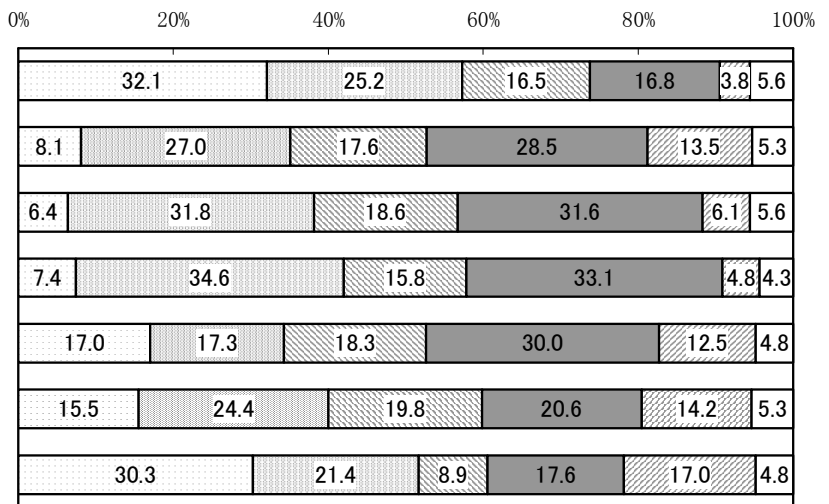
問 22 結婚、家庭、離婚について、あなたのご意見に最も近いものをお答え下さい。
 (①から⑦の項目についてそれぞれ1つずつ〇)

『①結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい』『⑦一般に、今の社会では離婚すると女性の方が不利である』で「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」をあわせた“そう思う”の割合が、『②女性の幸福は結婚にあるのだから、女性は結婚するほうがよい』『③女性は結婚したら、自分自身のことより、夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい』『④夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである』『⑤結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない』で「どちらかと言えばそう思わない」と「そう思わない」をあわせた“そう思わない”の割合が高くなっています。

平成 23 年度調査と比べると、『⑦一般に、今の社会では離婚すると女性の方が不利である』で“そう思う”の割合が高くなっています。また、『②女性の幸福は結婚にあるのだから、女性は結婚するほうがよい』で“そう思わない”の割合が高くなっています。

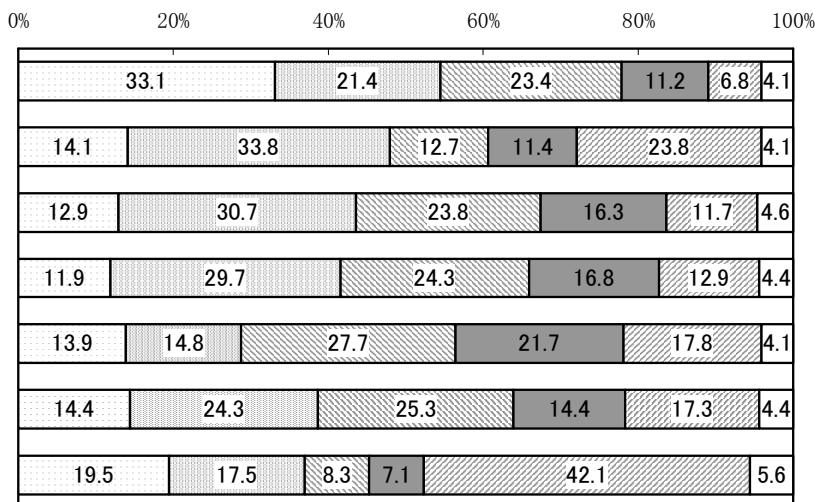


- N = 393
- ① 結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい
 - ② 女性の幸福は結婚にあるのだから、女性は結婚するほうがよい
 - ③ 女性は結婚したら、自分自身のことより、夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい
 - ④ 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである
 - ⑤ 結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない
 - ⑥ 結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい
 - ⑦ 一般に、今の社会では離婚すると女性の方が不利である



【平成 23 年度調査】

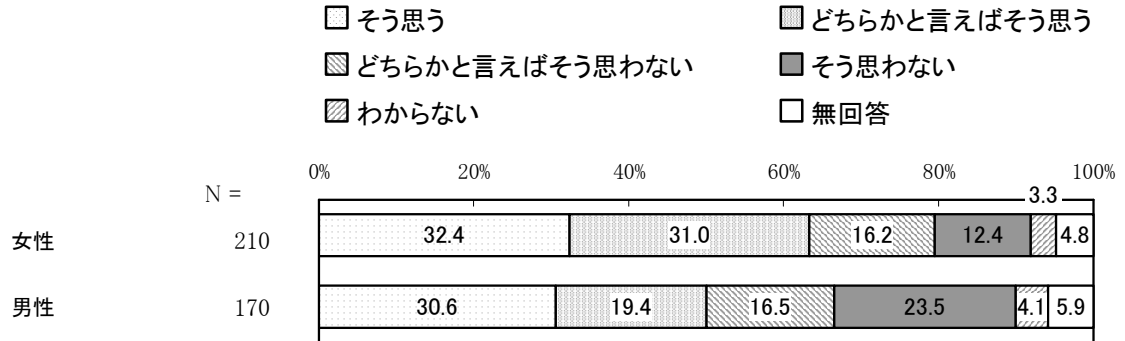
- N = 411
- ① 結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい
 - ② 女性の幸福は結婚にあるのだから、女性は結婚するほうがよい
 - ③ 女性は結婚したら、自分自身のことより、夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい
 - ④ 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである
 - ⑤ 結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない
 - ⑥ 結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい
 - ⑦ 一般に、今の社会では離婚すると女性の方が不利である



①結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい

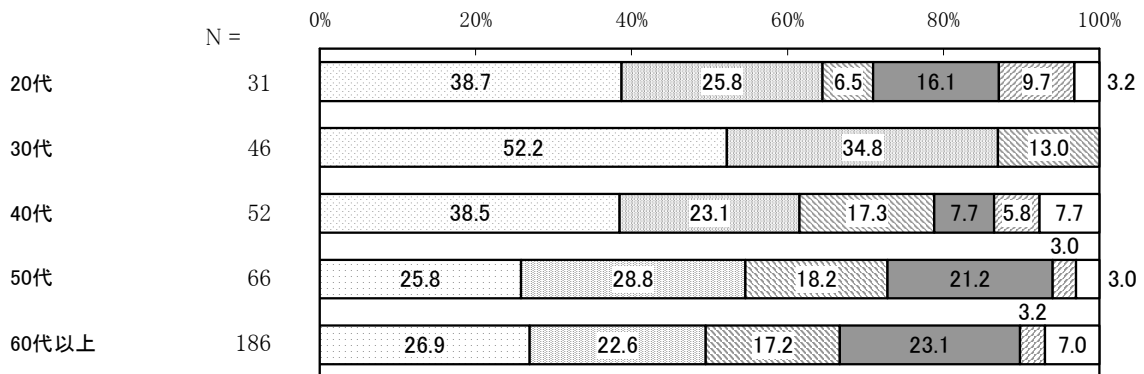
【性別】

性別でみると、女性で“そう思う”の割合が高くなっています。



【年代別】

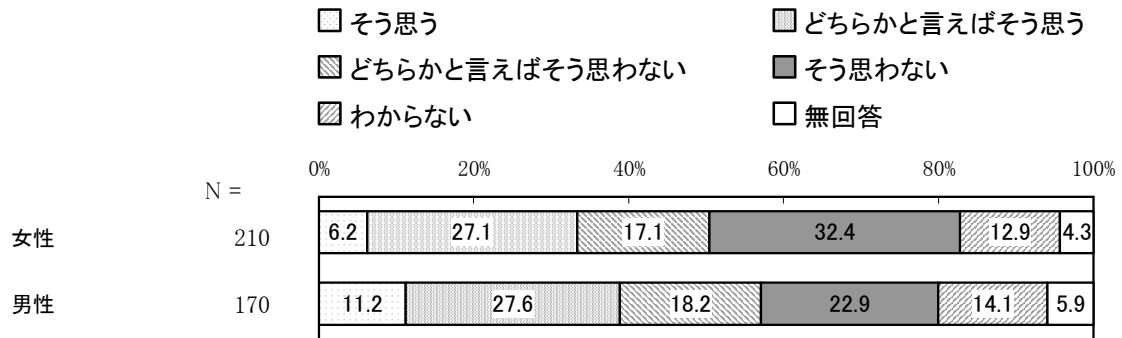
年代別でみると、他に比べ、30代で“そう思う”の割合が、50代以上で“そう思わない”の割合が高くなっています。



②女性の幸福は結婚にあるのだから、女性は結婚するほうがよい

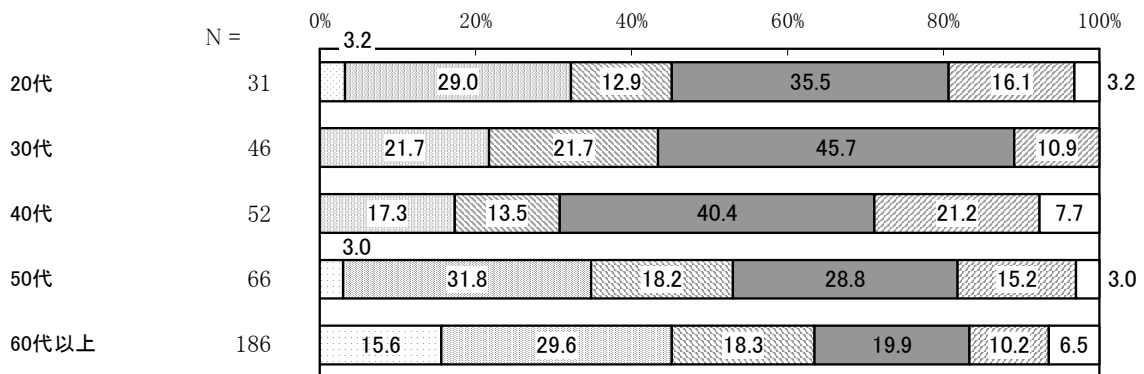
【性別】

性別で見ると、女性で“そう思わない”の割合が高くなっています。



【年代別】

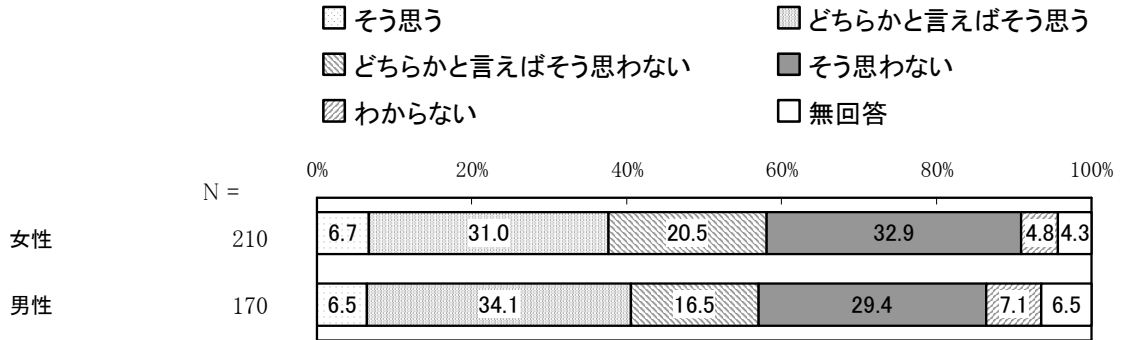
年代別で見ると、他に比べ、60代以上で“そう思う”の割合が高くなっています。また、30代では“そう思わない”の割合が高くなっています。



③女性は結婚したら、自分自身のことより、夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい

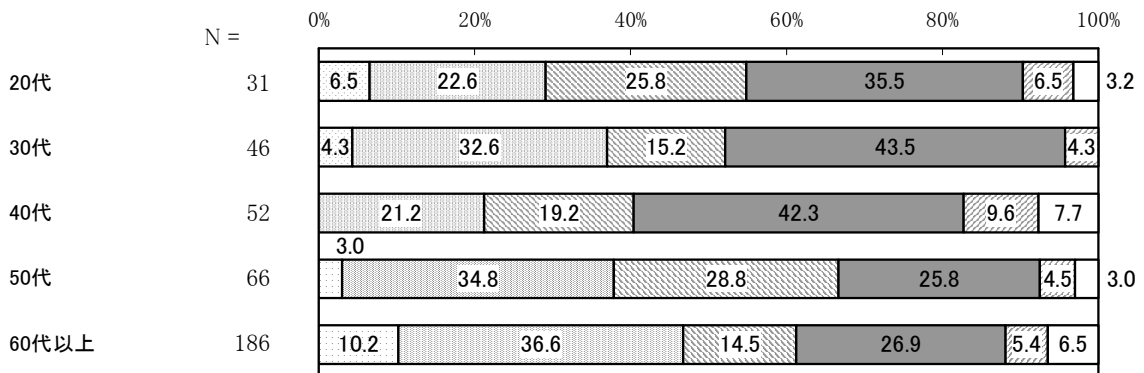
【性別】

性別でみると、女性で“そう思わない”の割合が高くなっています。



【年代別】

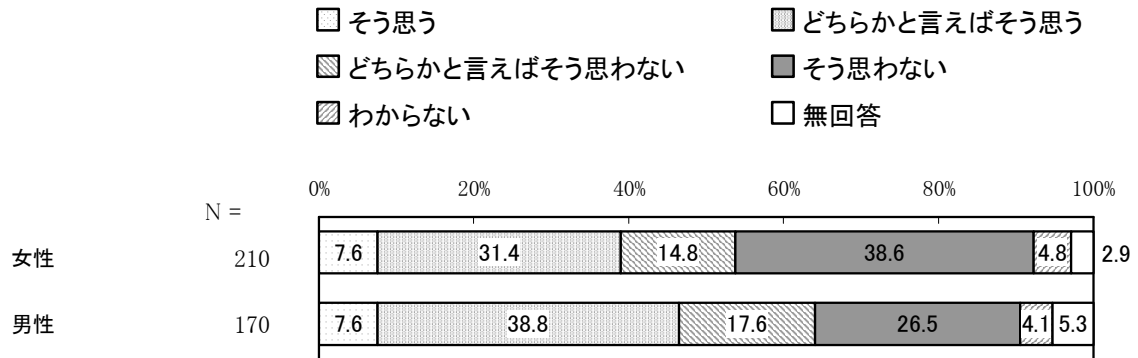
年代別でみると、他に比べ、60代以上で“そう思う”の割合が高くなっています。



④夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである

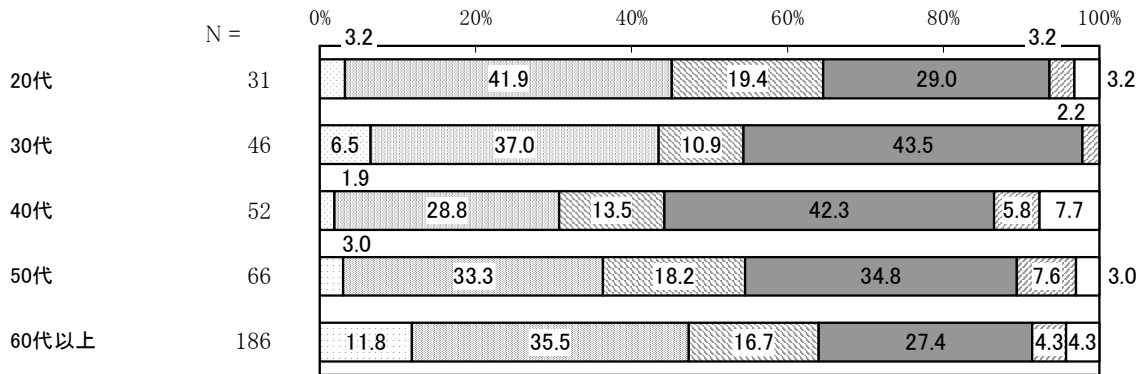
【性別】

性別でみると、女性で“そう思わない”の割合が高くなっています。



【年代別】

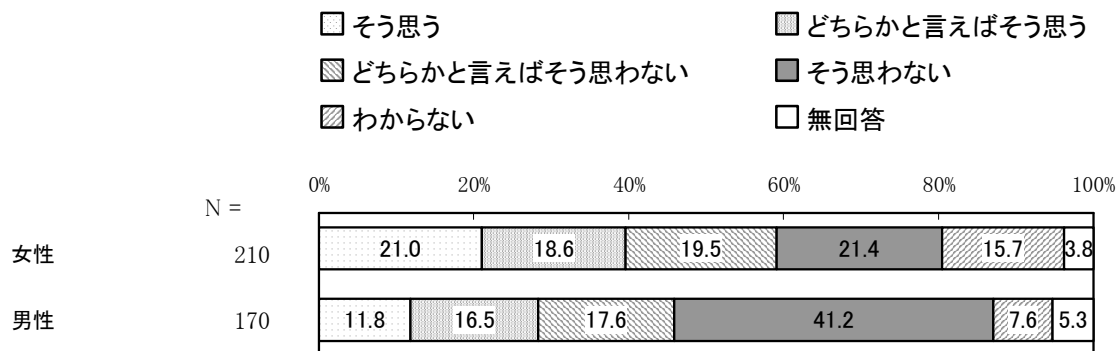
年代別でみると、他に比べ、30代から50代で“そう思わない”の割合が高くなっています。



⑤結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない

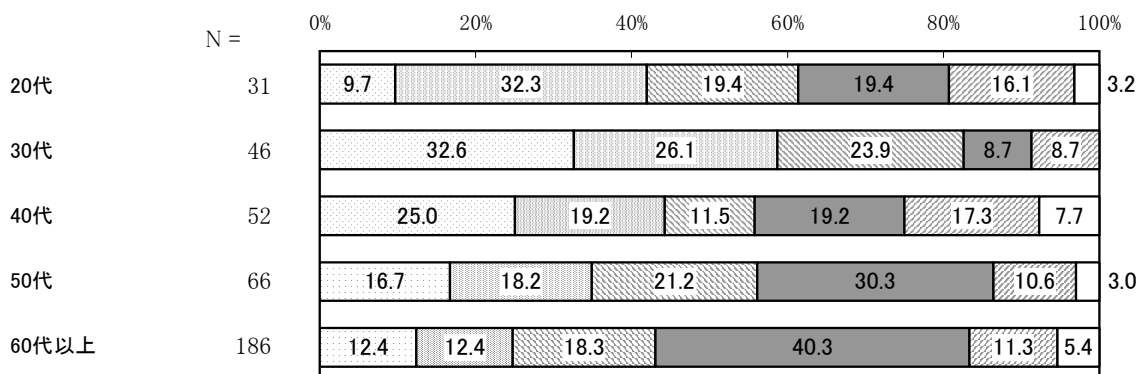
【性別】

性別でみると、女性で“そう思う”の割合が高くなっています。



【年代別】

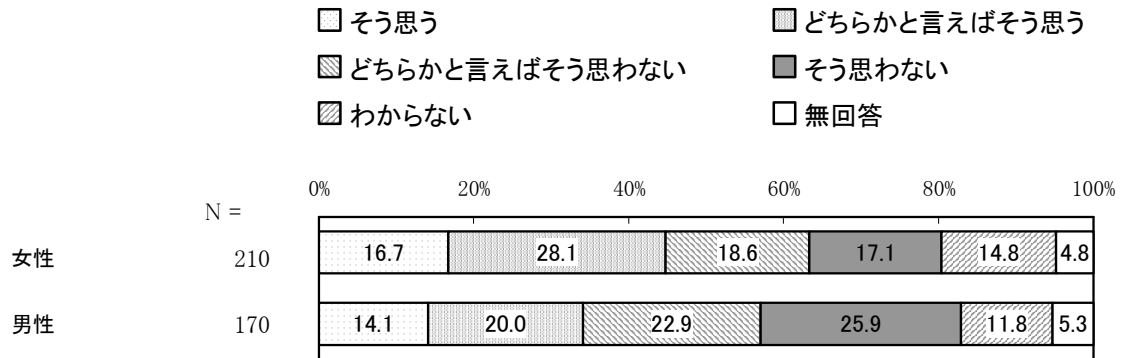
年代別でみると、他に比べ、30代で“そう思う”の割合が高くなっています。また、60代以上で“そう思わない”の割合が高くなっています。



⑥結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい

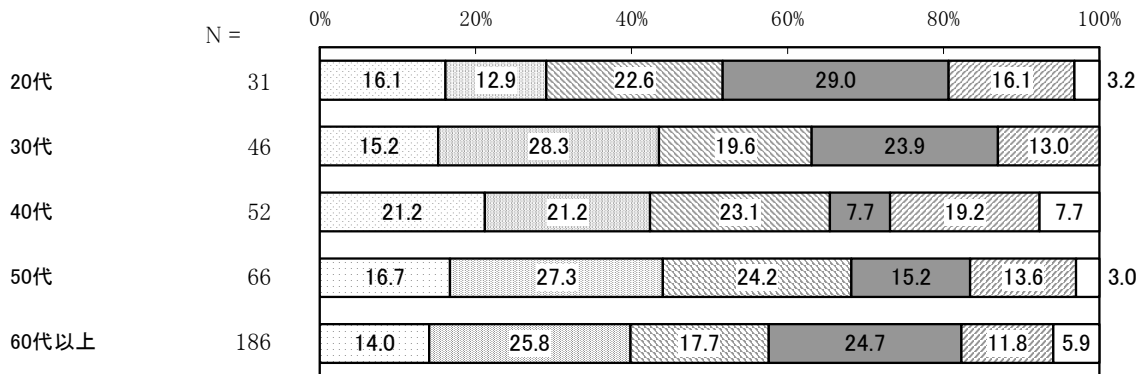
【性別】

性別でみると、女性で“そう思う”の割合が高くなっています。



【年代別】

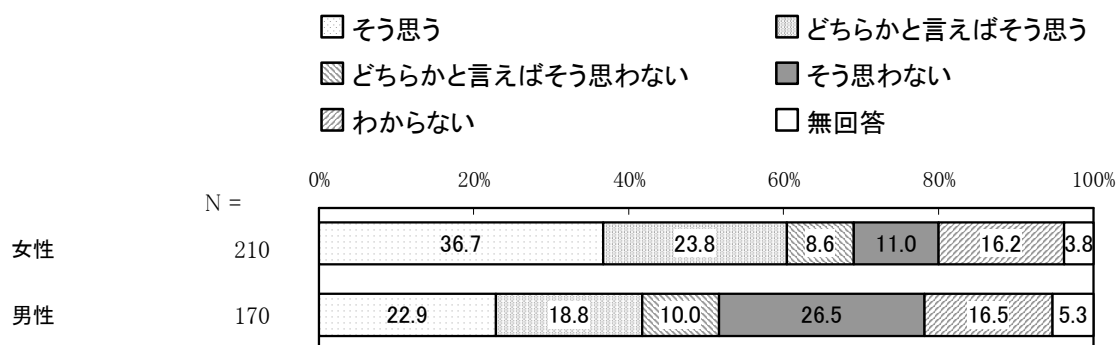
年代別でみると、他に比べ、20代で“そう思わない”の割合が高くなっています。



⑦一般に、今の社会では離婚すると女性の方が不利である

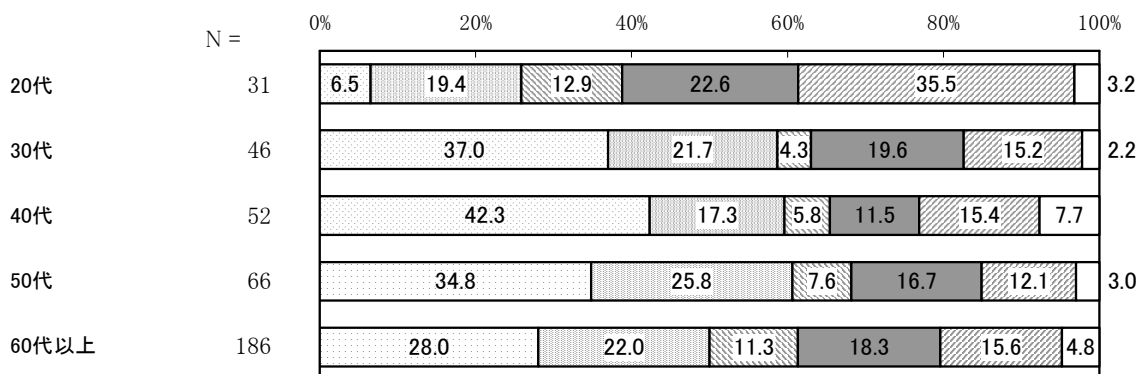
【性別】

性別でみると、女性で“そう思う”の割合が高くなっています。



【年代別】

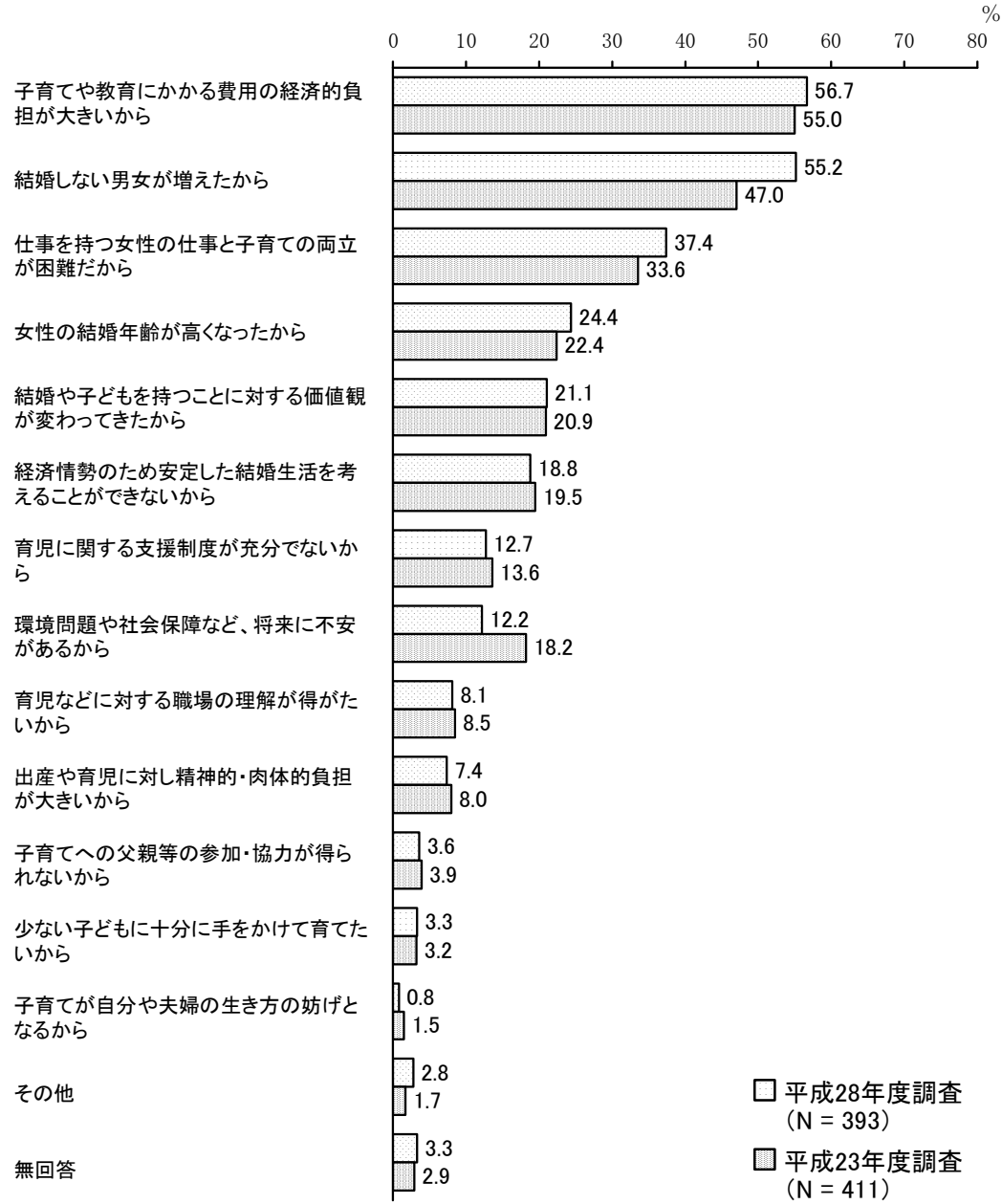
年代別でみると、他に比べ、30代から50代で“そう思う”の割合が高くなっています。



問 23 少子化が社会問題となっています。あなたが特に大きな要因と思うのはどれですか。(3つまで○)

「子育てや教育にかかる費用の経済的負担が大きいから」の割合が 56.7%と最も高く、次いで「結婚しない男女が増えたから」の割合が 55.2%、「仕事を持つ女性の仕事と子育ての両立が困難だから」の割合が 37.4%となっています。

平成 23 年度調査と比べると、「結婚しない男女が増えたから」の割合が高くなっています。また、「環境問題や社会保障など、将来に不安があるから」の割合が低くなっています。



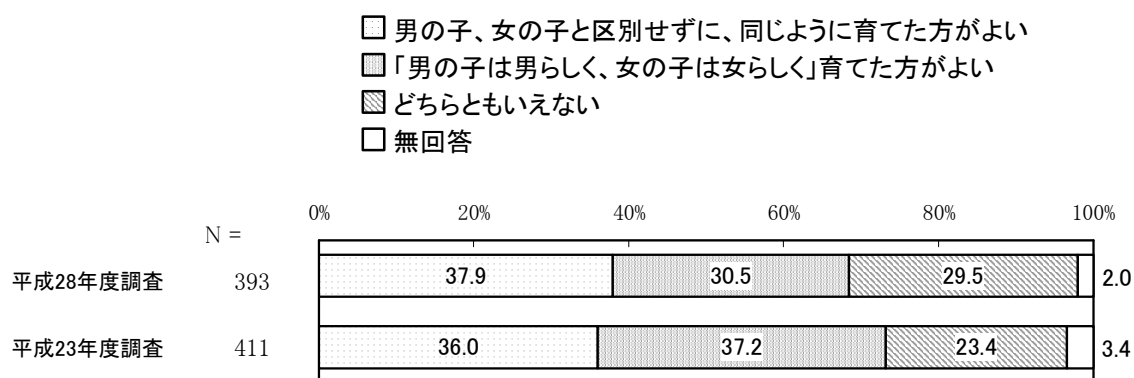
※平成 23 年度調査には「わからない」の選択肢がありました。

4 子育て、子どもの教育について

問 24 「男の子は男らしく、女の子は女らしく子どもを育てる」という考え方について、どのように思いますか。(1つに○)

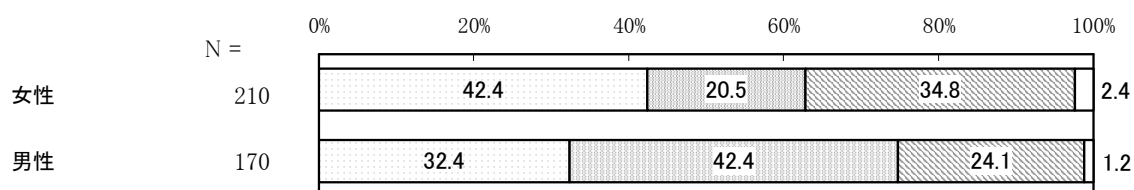
「男の子、女の子と区別せずに、同じように育てた方がよい」の割合が37.9%と最も高く、次いで「男の子は男らしく、女の子は女らしく」育てた方がよい」の割合が30.5%、「どちらともいえない」の割合が29.5%となっています。

平成23年度調査と比べると、「どちらともいえない」の割合が高くなっています。また、「男の子は男らしく、女の子は女らしく」育てた方がよい」の割合が低くなっています。



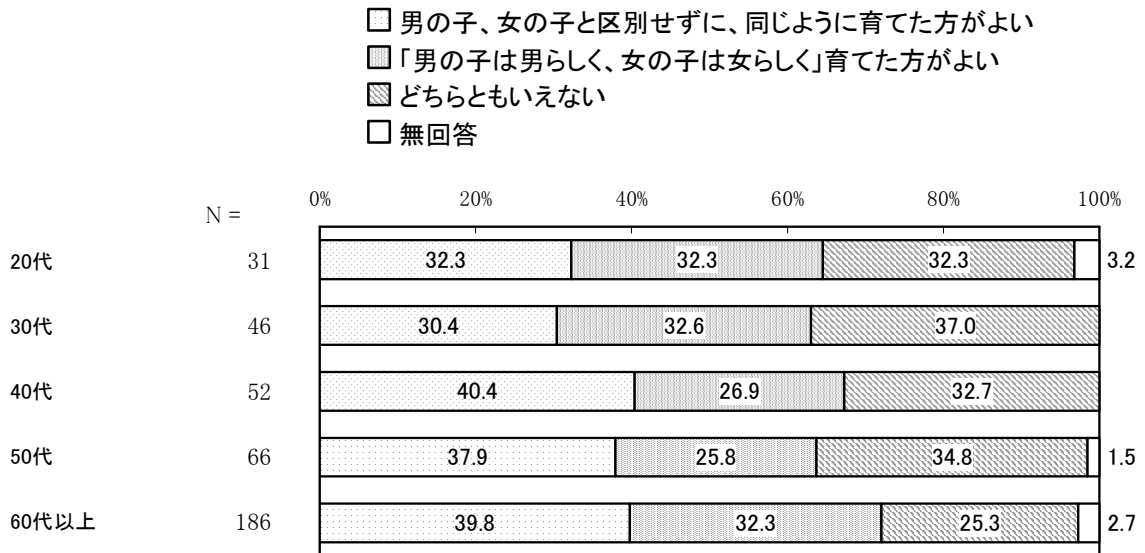
【性別】

性別で見ると、女性で「男の子、女の子と区別せずに、同じように育てた方がよい」の割合が高くなっています。また、男性で「男の子は男らしく、女の子は女らしく」育てた方がよい」の割合が高くなっています。



【年代別】

年代別でみると、他に比べ、40代以上で「男の子、女の子と区別せずに、同じように育てた方がよい」の割合が高くなっています。

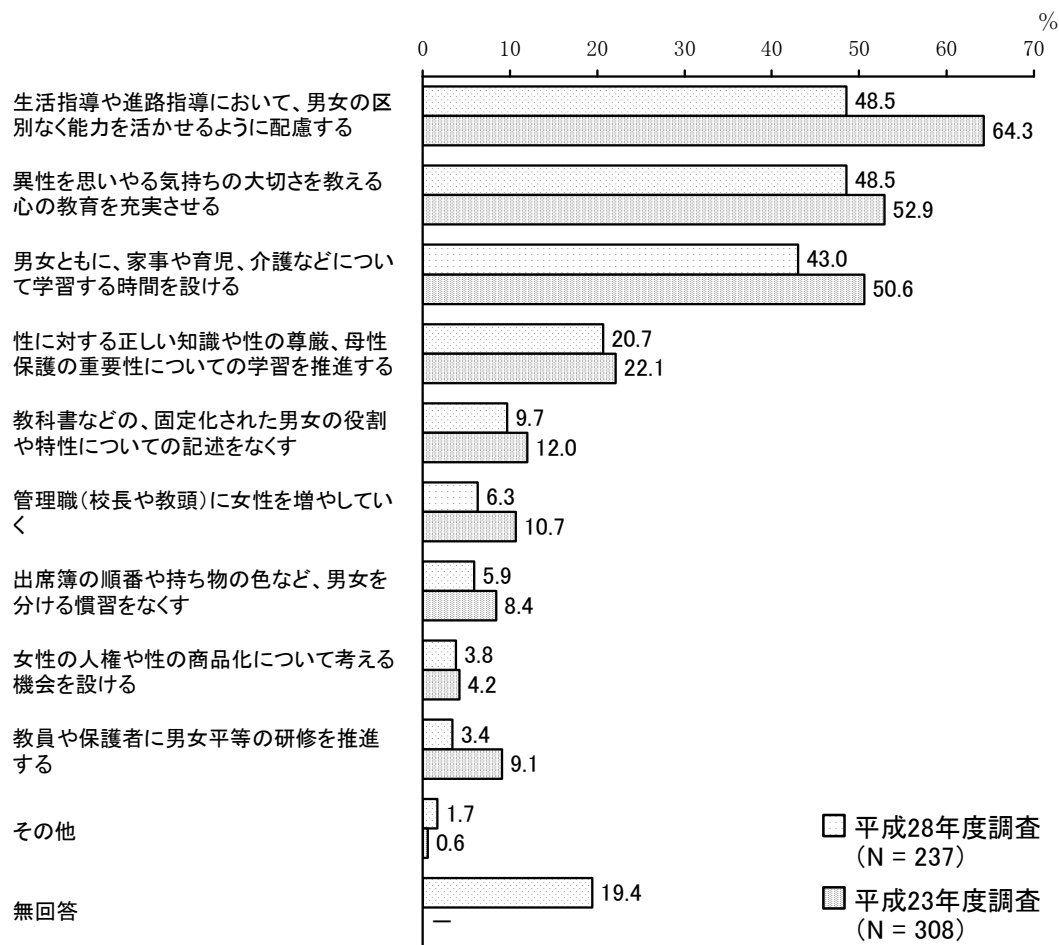


《子どもをお持ちの方にお聞きします》

問 25 男女平等の意識を育てるために、学校教育ではどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(3つまで○)

「生活指導や進路指導において、男女の区別なく能力を活かせるように配慮する」、「異性を思いやる気持ちの大切さを教える心の教育を充実させる」の割合が 48.5%と最も高く、次いで、「男女ともに、家事や育児、介護などについて学習する時間を設ける」の割合が 43.0%となっています。

平成 23 年度調査と比べると、「生活指導や進路指導において、男女の区別なく能力を活かせるように配慮する」「男女ともに、家事や育児、介護などについて学習する時間を設ける」「教員や保護者に男女平等の研修を推進する」の割合が低くなっています。



※平成 23 年度調査には「わからない」の選択肢がありました。

【性別】

性別でみると、男性で「生活指導や進路指導において、男女の区別なく能力を活かせるように配慮する」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	生活指導や進路指導において、男女の区別なく能力を活かせるように配慮する	教科書などの、固定化された男女の役割や特性についての記述をなくす	異性を思いやる気持ちの大切さを教える心の教育を充実させる	男女ともに、家事や育児、介護などについて学習する時間を設ける	性に対する正しい知識や性の尊厳、母性保護の重要性についての学習を推進する	女性の人権や性の商品化について考える機会を設ける	教員や保護者に男女平等の研修を推進する	管理職(校長や教頭)に女性を増やしていく	出席簿の順番や持ち物の色など、男女を分ける慣習をなくす	その他	無回答
女性	137	43.1	8.8	46.7	43.1	21.2	3.6	2.9	7.3	7.3	1.5	22.6
男性	99	56.6	11.1	51.5	42.4	20.2	4.0	4.0	5.1	4.0	2.0	15.2

【年代別】

年代別でみると、他に比べ、30代で「生活指導や進路指導において、男女の区別なく能力を活かせるように配慮する」の割合が、40代で「男女ともに、家事や育児、介護などについて学習する時間を設ける」の割合が高くなっています。また、50代では「異性を思いやる気持ちの大切さを教える心の教育を充実させる」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	生活指導や進路指導において、男女の区別なく能力を活かせるように配慮する	教科書などの、固定化された男女の役割や特性についての記述をなくす	異性を思いやる気持ちの大切さを教える心の教育を充実させる	男女ともに、家事や育児、介護などについて学習する時間を設ける	性に対する正しい知識や性の尊厳、母性保護の重要性についての学習を推進する	女性の人権や性の商品化について考える機会を設ける	教員や保護者に男女平等の研修を推進する	管理職(校長や教頭)に女性を増やしていく	出席簿の順番や持ち物の色など、男女を分ける慣習をなくす	その他	無回答
20代	20	45.0	15.0	40.0	20.0	5.0	—	—	—	10.0	—	50.0
30代	32	59.4	9.4	43.8	53.1	12.5	3.1	3.1	6.3	3.1	6.3	15.6
40代	43	46.5	9.3	41.9	62.8	27.9	—	—	9.3	11.6	—	9.3
50代	47	40.4	12.8	59.6	34.0	23.4	4.3	2.1	12.8	4.3	2.1	14.9
60代以上	93	49.5	7.5	48.4	39.8	22.6	6.5	6.5	3.2	4.3	1.1	21.5

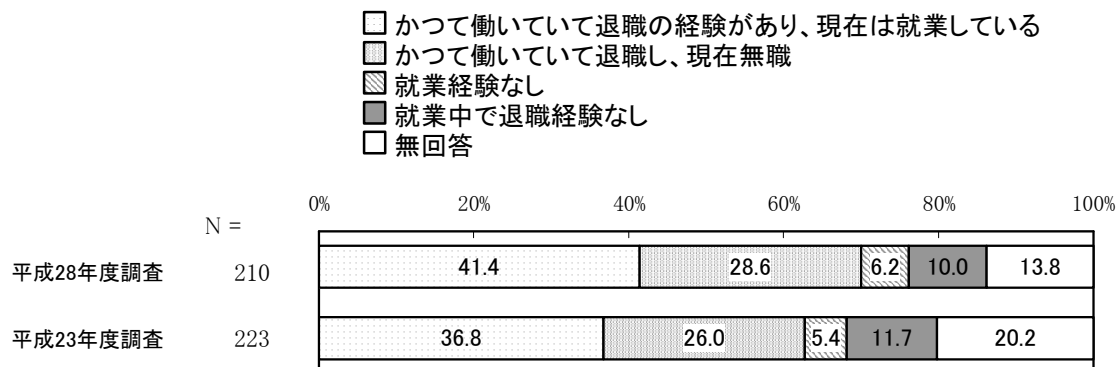
5 働くことについて

《問 26～29 は女性の方にお聞きします》

問 26 あなたの退職経験についてお答えください。(1つに○)

「かつて働いていて退職の経験があり、現在は就業している」の割合が 41.4%と最も高く、次いで「かつて働いていて退職し、現在無職」の割合が 28.6%、「就業中で退職経験なし」の割合が 10.0%となっています。

平成 23 年度調査と比べると、大きな差異はみられません。



【年代別】

年代別でみると、他に比べ、50代で「かつて働いていて退職の経験があり、現在は就業している」の割合が、20代で「就業経験なし」の割合が高くなっています。

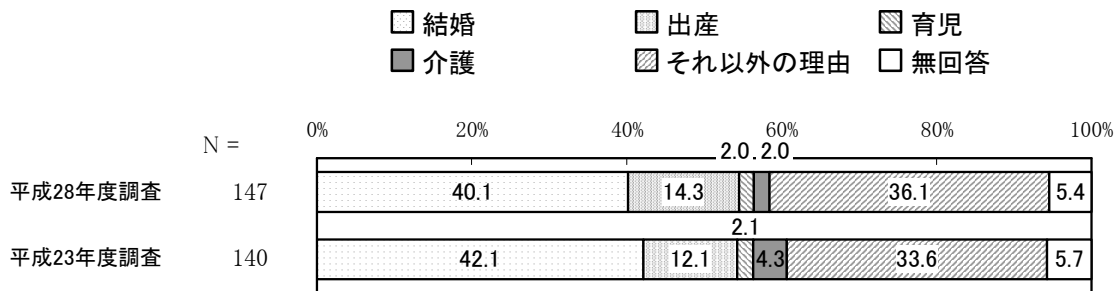


《【問 26】で「1. かつて働いていて退職の経験があり、現在は就業している」「2. かつて働いていて退職し、現在無職」と答えた方のみにお聞きします》

問 27 かつて退職した理由をお聞かせください。(1つに○)

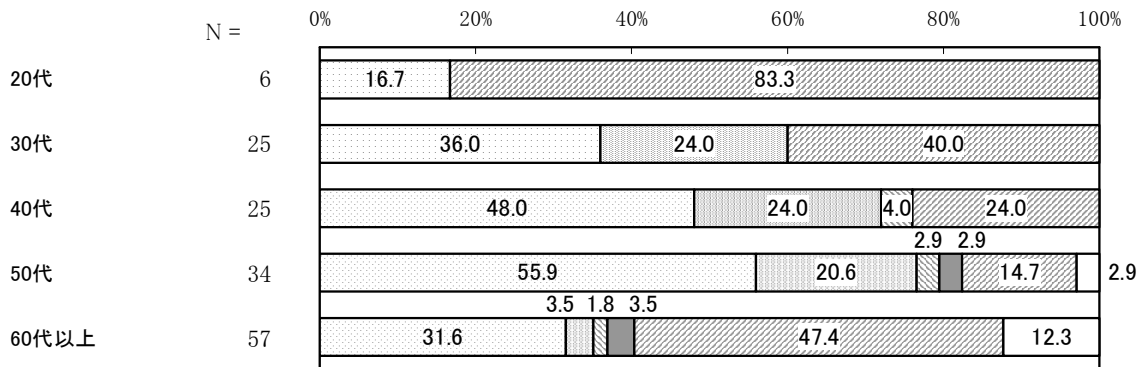
「結婚」の割合が40.1%と最も高く、次いで「それ以外の理由」の割合が36.1%、「出産」の割合が14.3%となっています。

平成23年度調査と比べると、大きな差異はみられません。



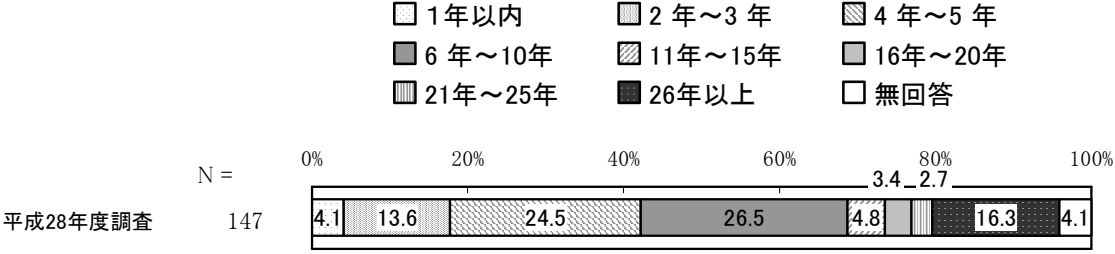
【年代別】

年代別でみると、他に比べ、50代で「結婚」の割合が高くなっています。



問 28 退職までの勤務年数をお聞かせください。(1つに○)

「6年～10年」の割合が26.5%と最も高く、次いで「4年～5年」の割合が24.5%、「26年以上」の割合が16.3%となっています。

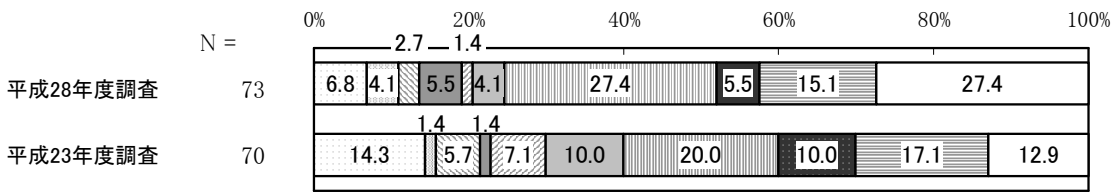


問 29 現在無職、または就業経験のない理由をお聞かせください。(1つに○)

「(働く意思はあるが) それ以外の理由」の割合が27.4%と最も高く、次いで「(働く意思はないそれ以外の理由)」の割合が15.1%となっています。

平成23年度調査と比べると、「(働く意思はあるが) それ以外の理由」の割合が高くなっています。また、「(働く意思はあるが) 育児により働けない」「(働く意思はあるが) 働きたい職種での雇用がない」「(働く意思はあるが) 職種を問わず雇用がない」の割合が低くなっています。

- (働く意思はあるが) 育児により働けない
- (働く意思はあるが) 家事により働けない
- (働く意思はあるが) 介護により働けない
- (働く意思はあるが) 配偶者もしくはパートナー、家族が女性は家において家事をすることが良いと思っているから
- (働く意思はあるが) 働きたい職種での雇用がない
- (働く意思はあるが) 職種を問わず雇用がない
- (働く意思はあるが) それ以外の理由
- (働く意思はない) 女性は家において家事をすることが良いと思っている
- (働く意思はない) それ以外の理由
- 無回答

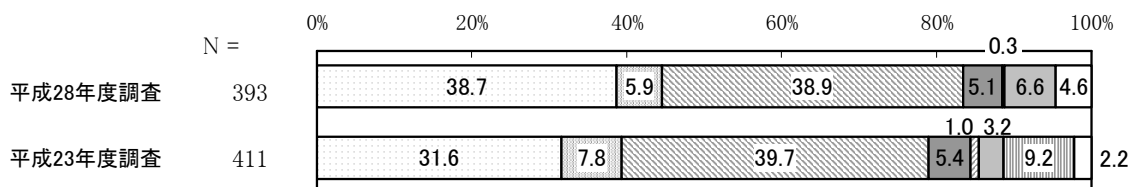


問 30 女性が職業（農業・商業など家業を含む）を持つことについて、あなたはどのようにお考えですか。（1つに○）

「子どもができれば職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」の割合が 38.9%と最も高く、次いで「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」の割合が 38.7%となっています。

平成 23 年度調査と比べると、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」の割合が高くなっています。

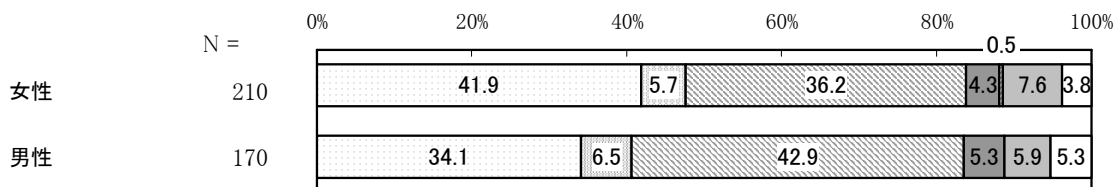
- 子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい
- 子どもができるまでは、職業を持つ方がよい
- 子どもができれば職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい
- 結婚するまでは職業を持つ方がよい
- 女性は職業を持たない方がよい
- その他
- わからない
- 無回答



※平成 28 年度調査では「わからない」の選択肢はありませんでした。

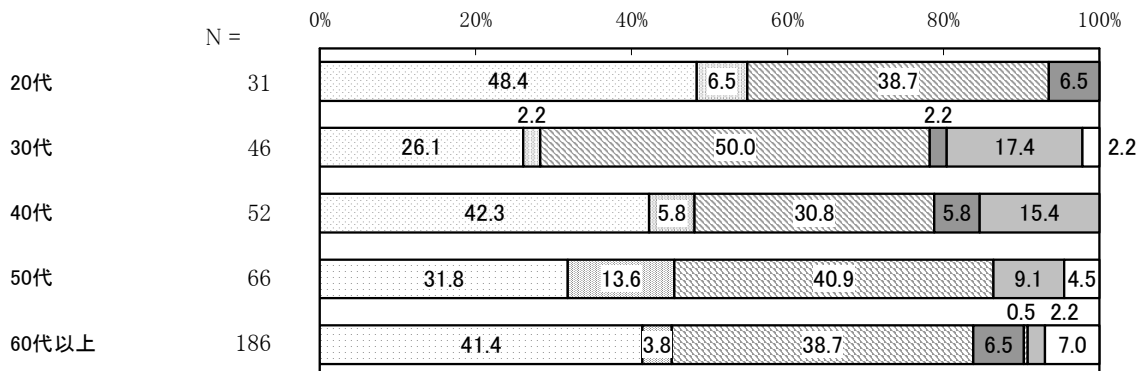
【性別】

性別で見ると、女性で「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」の割合が高くなっています。また、男性で「子どもができれば職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」の割合が高くなっています。



【年代別】

年代別で見ると、他に比べ、20代で「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」の割合が、50代で「子どもができるまでは、職業を持つ方がよい」の割合が高くなっています。また、30代で「子どもができれば職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」の割合が高くなっています。



【国・県の調査の比較と経年比較】

全国調査と比べると、「子どもができれば仕事をやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい」の割合が高くなっています。また、「子どもができるまでは、職業を持つほうがよい」の割合が低くなっています。

愛知県調査と比べると、「子どもができて、ずっと職業を持ち続けるほうがよい」の割合が高くなっています。また、「子どもができれば仕事をやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい」の割合が低くなっています。

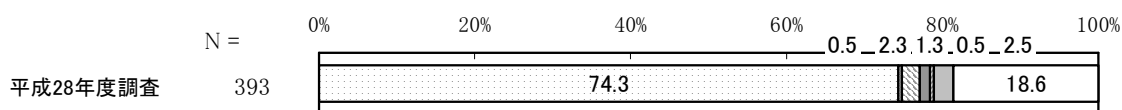
単位：%

区分	子どもができて、ずっと職業を続けるほうがよい	子どもができるまでは、職業を持つほうがよい	子どもができれば仕事をやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい	結婚するまでは職業を持つほうがよい	女性は職業を持たないほうがよい	その他	わからない	無回答
田原市(H28.7)	38.7	5.9	38.9	5.1	0.3	6.6	-	4.6
女性	41.9	5.7	36.2	4.3	0.5	7.6	-	3.8
男性	34.1	6.5	42.9	5.3	0.0	5.9	-	5.3
田原市(H23.10)	31.6	7.8	39.7	5.4	1.0	3.2	9.2	2.2
女性	34.5	6.7	36.8	5.4	0.4	3.1	10.8	2.2
男性	28.0	9.1	43.0	5.4	1.6	3.2	7.5	2.2
田原市(H20.8)	25.4	5.2	41.7	6.4	1.0	7.2	8.4	4.7
女性	21.7	3.2	42.4	6.5	0.9	9.7	10.6	5.1
男性	30.8	7.7	39.6	6.0	1.1	4.4	6.0	4.4
愛知県(H26.11)	30.7	7.3	47.1	3.3	0.6	5.4	3.6	2.1
女性	30.5	7.5	46.6	2.9	0.7	6.4	3.7	1.8
男性	31.1	6.9	48.5	3.5	0.6	4.0	3.5	1.7
国(H26.11)	44.8	11.7	31.5	5.8	2.2	2.0	1.9	-
女性	45.8	11.6	32.4	5.6	1.9	1.6	1.1	-
男性	43.5	11.7	30.4	6.2	2.6	2.6	3.0	-

問 31 同じ質問を、男性の場合についてもお伺いします。男性が職業（農業・商業など家業を含む）を持つことについて、あなたはどのようにお考えですか。（1つに○）

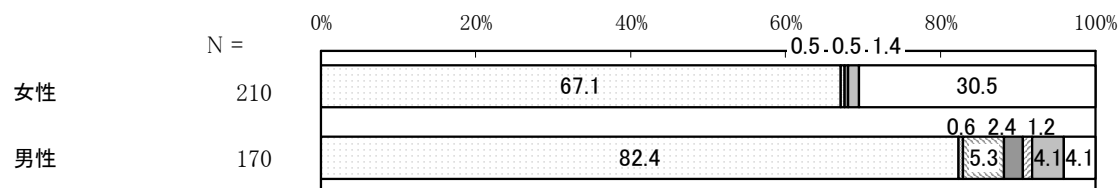
「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」の割合が 74.3%と最も高くなっています。

- 子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい
- 子どもができるまでは、職業を持つ方がよい
- 子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい
- 結婚するまでは職業を持つ方がよい
- 女性は職業を持たない方がよい
- その他
- 無回答



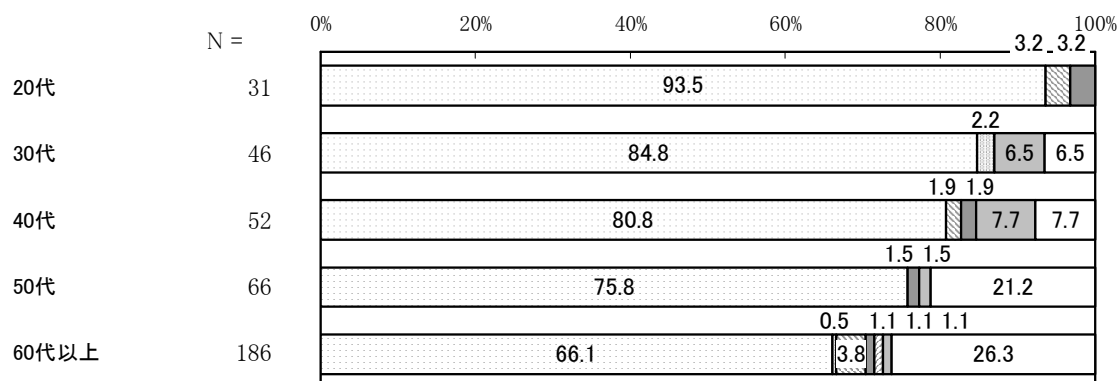
【性別】

性別でみると、男性で「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」の割合が高くなっています。



【年代別】

年代別でみると、年齢が低くなるにつれて「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」の割合が高くなっています。

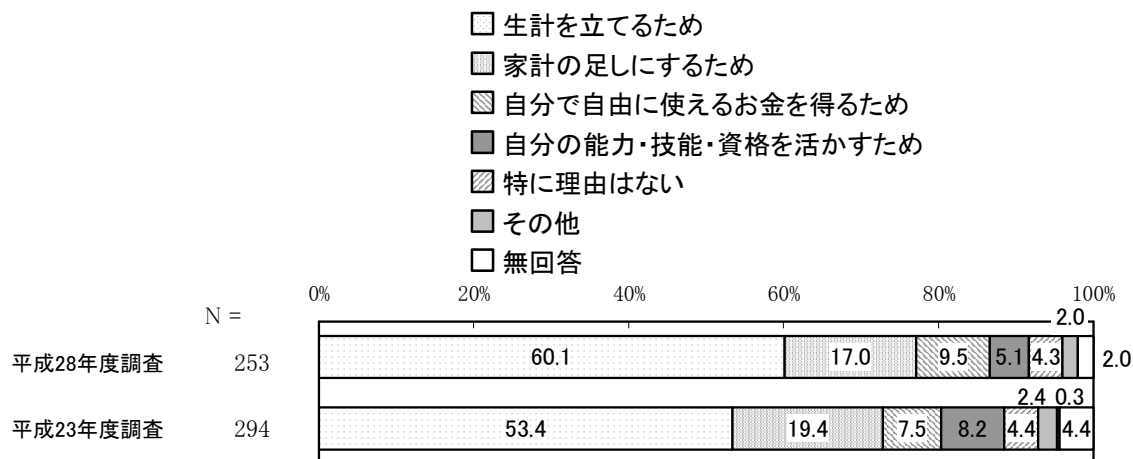


《仕事をしている方全員にお聞きします》

問 32 あなたが現在働いているのは、どのような理由からでしょうか。
(主なものを1つに○)

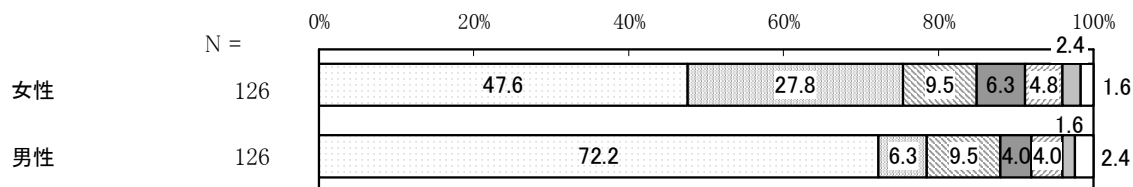
「生計を立てるため」の割合が60.1%と最も高く、次いで「家計の足しにするため」の割合が17.0%となっています。

平成23年度調査と比べると、「生計を立てるため」の割合が高くなっています。



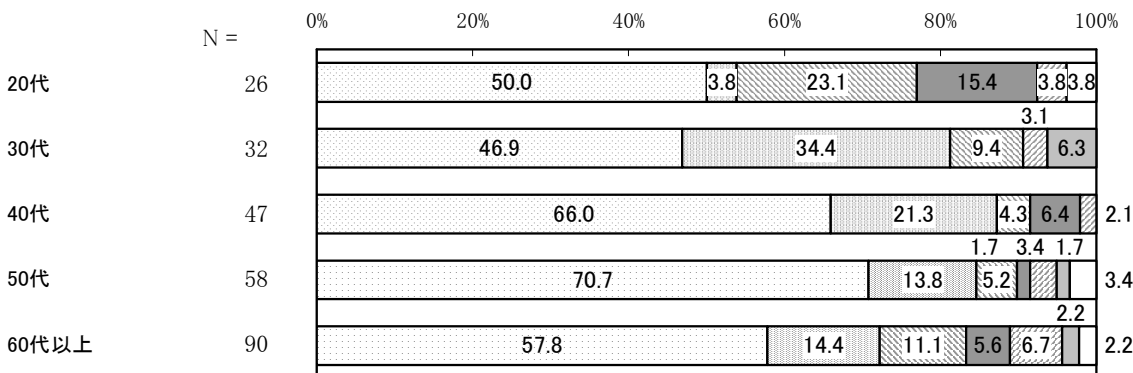
【性別】

性別でみると、女性で「家計の足しにするため」の割合が高くなっています。また、男性で「生計を立てるため」の割合が高くなっています。



【年代別】

年代別でみると、他に比べ、40代、50代で「生計を立てるため」の割合が、30代で「家計の足しにするため」の割合が高くなっています。また、20代で「自分で自由に使えるお金を得るため」の割合が高くなっています。

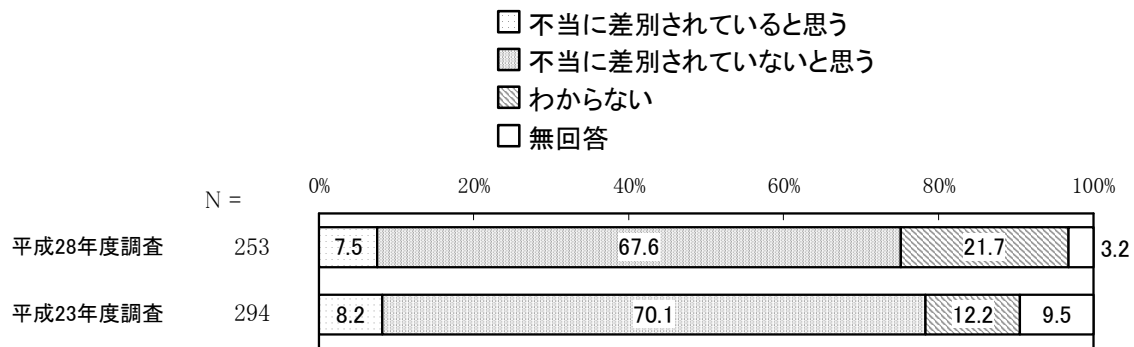


《仕事をしている方全員にお聞きします》

問 33 あなたの今の職場では、仕事の内容や待遇面で、女性は男性に比べ不当に差別されていると思いますか。不当に差別されていないと思いますか。(1つに○)

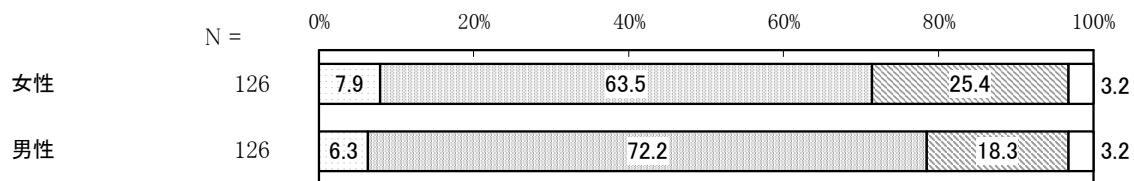
「不当に差別されていないと思う」の割合が67.6%と最も高く、次いで「わからない」の割合が21.7%となっています。

平成23年度調査と比べると、「わからない」の割合が高くなっています。



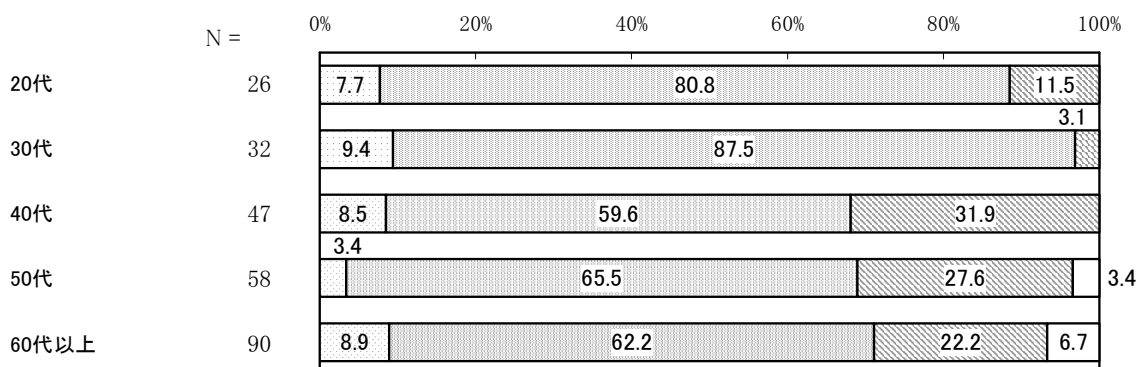
【性別】

性別でみると、男性で「不当に差別されていないと思う」の割合が高くなっています。



【年代別】

年代別でみると、他に比べ、30代で「不当に差別されていないと思う」の割合が高くなっています。



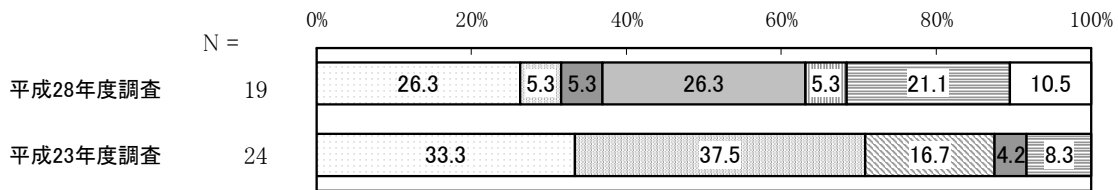
《問 33 で「1. 不当に差別されていると思う」と答えた方にお聞きします》

問 34 それは具体的にどのようなことですか。(1つに○)

「賃金に差別がある」、「結婚したり子どもが生まれたりすると勤め続けにくい雰囲気がある」の割合が 26.3%と最も高くなっています。

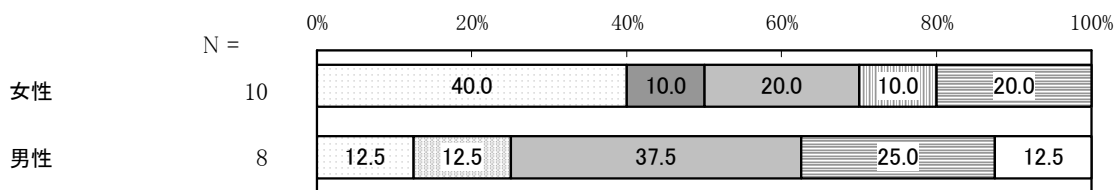
平成 23 年度調査と比べると、「結婚したり子どもが生まれたりすると勤め続けにくい雰囲気がある」「女性は定年まで勤め続けにくい雰囲気がある」の割合が高くなっています。また、「賃金に差別がある」「昇進、昇格に差別がある」「能力が正当に評価されない」の割合が低くなっています。

- 賃金に差別がある
- 昇進、昇格に差別がある
- 能力が正当に評価されない
- 補助的な仕事しかやらせてもらえない
- 女性を幹部職員に登用しない
- 結婚したり子どもが生まれたりすると勤め続けにくい雰囲気がある
- 女性は定年まで勤め続けにくい雰囲気がある
- 教育・訓練を受ける機会が少ない
- その他
- 無回答



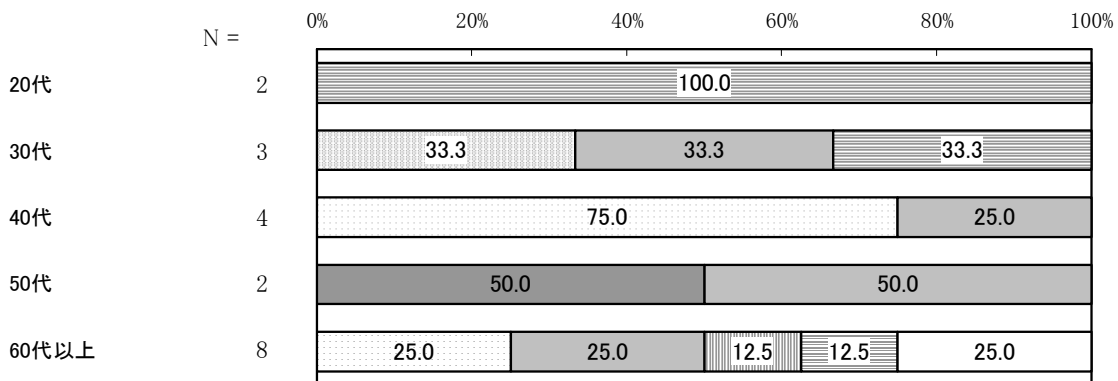
【性別】

性別でみると、女性で「賃金に差別がある」の割合が高くなっています。



【年代別】

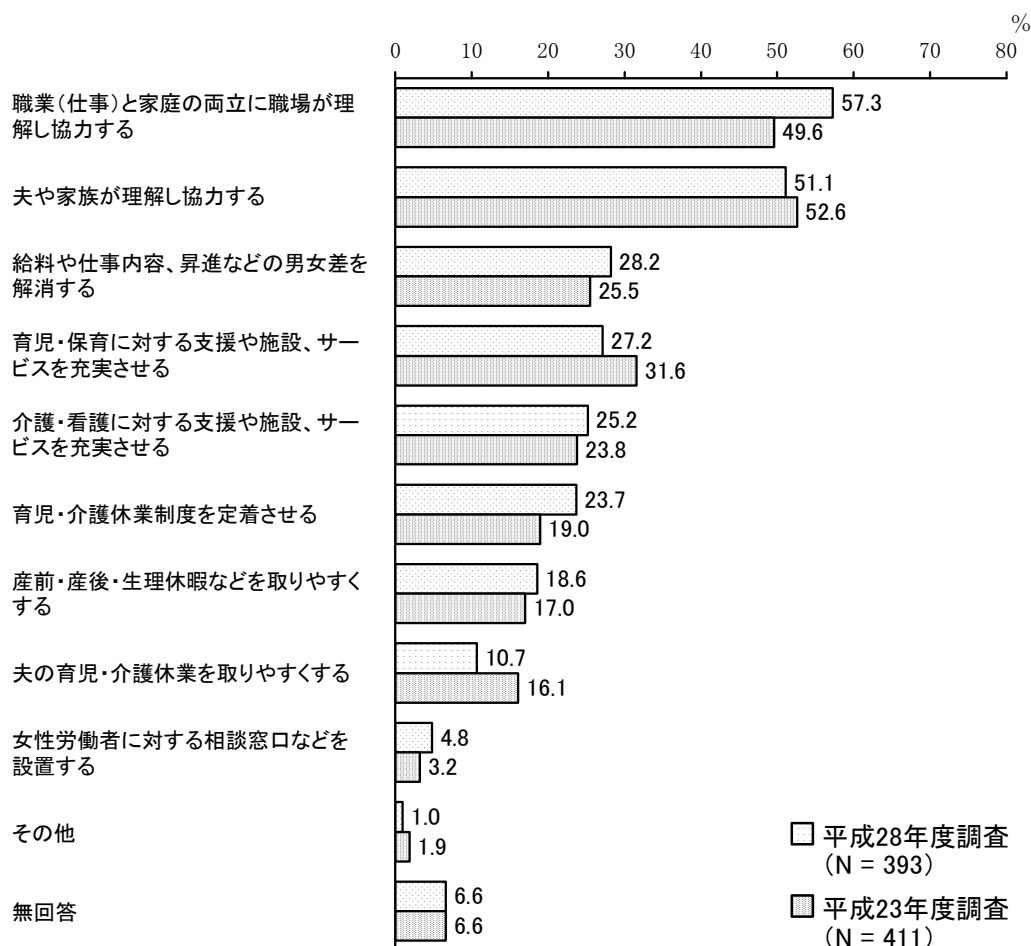
回答者数が少ないため、参考にとどめます。



問 35 女性が安心して働ける環境をつくるために、どのようなことが必要だと思いますか。(3つまで○)

「職業（仕事）と家庭の両立に職場が理解し協力する」の割合が 57.3%と最も高く、次いで「夫や家族が理解し協力する」の割合が 51.1%、「給料や仕事内容、昇進などの男女差を解消する」の割合が 28.2%となっています。

平成 23 年度調査と比べると、「職業（仕事）と家庭の両立に職場が理解し協力する」の割合が高くなっています。また、「夫の育児・介護休業を取りやすくする」の割合が低くなっています。



【性別】

性別でみると、女性で「職業（仕事）と家庭の両立に職場が理解し協力する」「夫や家族が理解し協力する」「介護・看護に対する支援や施設、サービスを充実させる」の割合が高くなっています。また、男性で「給料や仕事内容、昇進などの男女差を解消する」「育児・介護休業制度を定着させる」「夫の育児・介護休業を取りやすくする」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	給料や仕事内容、昇進などの男女差を解消する	職業（仕事）と家庭の両立に職場が理解し協力する	夫や家族が理解し協力する	育児・介護休業制度を定着させる	夫の育児・介護休業を取りやすくする	産前・産後・生理休暇などを取りやすくする	育児・保育に対する支援や施設、サービスを充実させる	介護・看護に対する支援や施設、サービスを充実させる	女性労働者に対する相談窓口などを設置する	その他	無回答
女性	210	25.7	61.4	55.2	20.5	8.1	17.6	27.6	28.1	4.8	—	7.6
男性	170	31.2	53.5	46.5	28.2	13.5	18.8	27.6	21.2	4.7	2.4	4.7

【年代別】

年代別でみると、他に比べ、20代で「育児・介護休業制度を定着させる」「産前・産後・生理休暇などを取りやすくする」「育児・保育に対する支援や施設、サービスを充実させる」の割合が高くなっています。また、40代で「夫や家族が理解し協力する」の割合が高くなっています。

単位：％

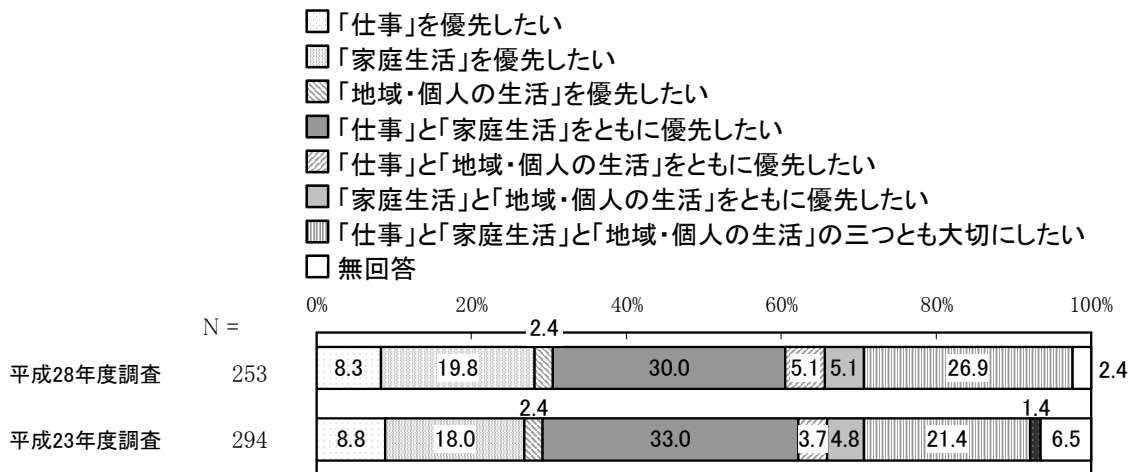
区分	有効回答数（件）	給料や仕事内容、昇進などの男女差を解消する	職業（仕事）と家庭の両立に職場が理解し協力する	夫や家族が理解し協力する	育児・介護休業制度を定着させる	夫の育児・介護休業を取りやすくする	産前・産後・生理休暇などを取りやすくする	育児・保育に対する支援や施設、サービスを充実させる	介護・看護に対する支援や施設、サービスを充実させる	女性労働者に対する相談窓口などを設置する	その他	無回答
20代	31	35.5	54.8	32.3	35.5	29.0	41.9	41.9	3.2	3.2	—	—
30代	46	21.7	69.6	54.3	17.4	13.0	28.3	41.3	19.6	2.2	—	2.2
40代	52	32.7	63.5	59.6	26.9	11.5	28.8	26.9	17.3	1.9	—	—
50代	66	28.8	54.5	50.0	27.3	12.1	9.1	22.7	34.8	9.1	1.5	3.0
60代以上	186	26.9	55.9	51.6	21.5	6.5	12.4	23.1	29.6	4.8	1.6	10.8

《仕事をしている方にお聞きします》

問 36 生活の中で仕事、家庭生活、地域・個人の生活で何を優先しますか。(あなたの希望に該当するもの1つに○)

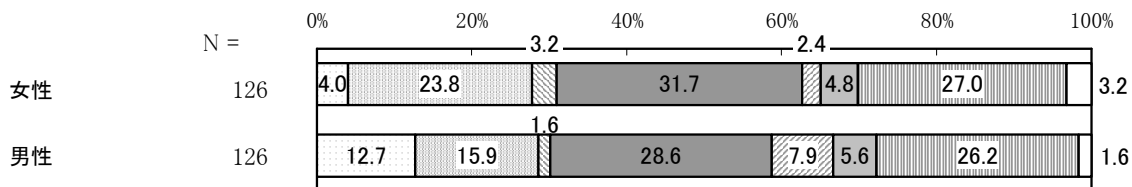
「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」の割合が30.0%と最も高く、次いで「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の三つとも大切にしたい」の割合が26.9%、「家庭生活」を優先したい」の割合が19.8%となっています。

平成 23 年度調査と比べると、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の三つとも大切にしたい」の割合が高くなっています。



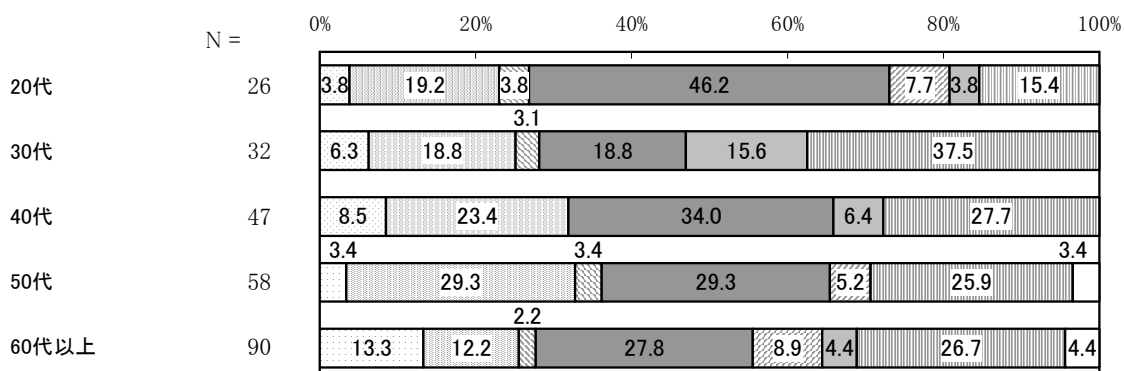
【性別】

性別でみると、女性で「家庭生活」を優先したい」の割合が高くなっています。また、男性で「仕事」を優先したい」「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい」の割合が高くなっています。



【年代別】

年代別でみると、他に比べ、20代で「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」の割合が、30代で「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい」の割合が高くなっています。また、50代で「家庭生活」を優先したい」の割合が高くなっています。



【国・県の調査の比較と経年比較】

全国調査と比べると、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したいの割合が高くなっています。また、「家庭生活」を優先したいの割合が低くなっています。

愛知県調査と比べると、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したいの割合が高くなっています。また、「家庭生活」を優先したい「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したいの割合が低くなっています。

単位：%

区分	「仕事」を優先したい	「家庭生活」を優先したい	「地域・個人の生活」を優先したい	「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の三つとも大切にしたい	その他	わからない	無回答
田原市(H28.7)	8.3	19.8	2.4	30.0	5.1	5.1	26.9	-	-	2.4
女性	4.0	23.8	3.2	31.7	2.4	4.8	27.0	-	-	3.2
男性	12.7	15.9	1.6	28.6	7.9	5.6	26.2	-	-	1.6
田原市(H23.10)	8.8	18.0	2.4	33.0	3.7	4.8	21.4	-	1.4	6.5
女性	4.9	21.1	2.8	31.0	3.5	4.2	21.8	-	2.1	8.5
男性	12.7	15.3	2.0	34.7	4.0	5.3	21.3	-	0.7	4.0
田原市(H20.8)	4.8	21.9	2.6	27.8	1.7	9.0	27.8	4.8		3.5
女性	2.1	25.6	2.4	23.4	1.6	11.1	29.6	2.1		3.5
男性	8.0	17.5	2.9	33.1	2.0	6.6	25.6	8.0		3.6
愛知県(H26.11)	7.2	25.9	3.0	31.3	2.6	10.3	14.6	1.1	1.9	2.1
女性	3.1	32.2	2.2	26.6	2.2	13.1	15.7	1.5	2.2	1.4
男性	11.6	19.0	4.0	36.8	2.8	7.7	13.6	0.8	1.7	2.2
国(H24.10)	9.8	27.6	2.4	30.5	3.5	9.0	15.9	-	1.4	-
女性	3.5	33.6	2.4	29.7	2.4	10.8	16.3	-	1.3	-
男性	16.8	20.8	2.4	31.4	4.7	7.1	15.5	-	1.4	-

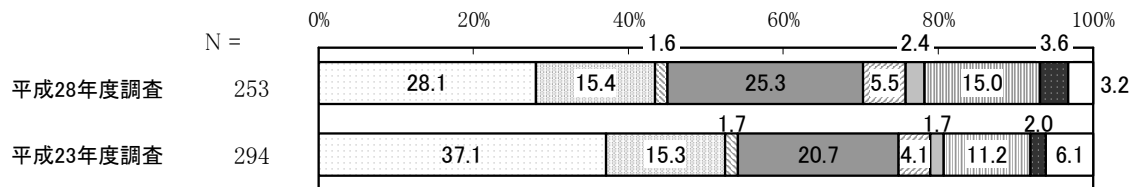
《仕事をしている方にお聞きします》

問 37 生活の中で仕事、家庭生活、地域・個人の生活で何を優先しますか。
(あなたの現在の状況に該当するもの1つに○)

「仕事」を優先している」の割合が 28.1%と最も高く、次いで「仕事」と「家庭生活」をともに優先している」の割合が 25.3%、「家庭生活」を優先している」の割合が 15.4%となっています。

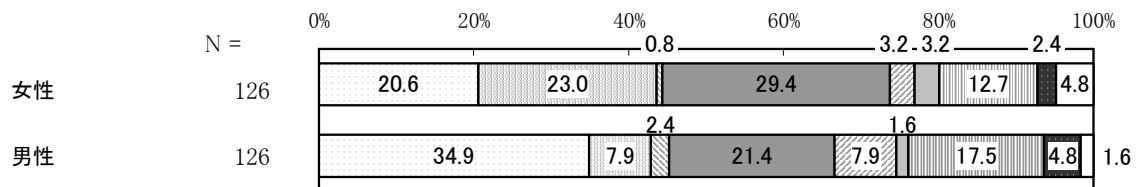
平成 23 年度調査と比べると、「仕事」を優先している」の割合が低くなっています。

- 「仕事」を優先している
- ▨ 「家庭生活」を優先している
- ▩ 「地域・個人の生活」を優先している
- 「仕事」と「家庭生活」をともに優先している
- ▤ 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している
- ▥ 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
- ▦ 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の三つとも大切にしている
- わからない
- 無回答



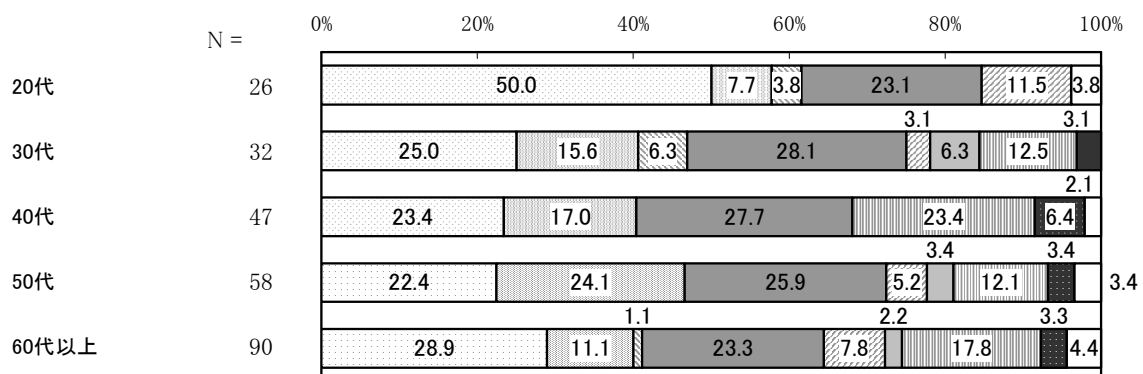
【性別】

性別でみると、女性で「家庭生活」を優先している」「仕事」と「家庭生活」をともに優先している」の割合が高くなっています。また、男性で「仕事」を優先している」の割合が高くなっています。



【年代別】

年代別でみると、他に比べ、20代で「仕事」を優先している」の割合が、40代で「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の三つとも大切にしている」の割合が高くなっています。また、50代で「家庭生活」を優先している」の割合が高くなっています。



【国・県の調査の比較と経年比較】

全国調査と比べると、「仕事」と「家庭生活」をともに優先している」「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している」の割合が高くなっています。また、「家庭生活」を優先している」の割合が低くなっています。

愛知県調査と比べると、「仕事」と「家庭生活」をともに優先している」「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している」の割合が高くなっています。また、「仕事」を優先している」「家庭生活」を優先している」の割合が低くなっています。

単位：%

区分	「仕事」を優先している	「家庭生活」を優先している	「地域・個人の生活」を優先している	「仕事」と「家庭生活」をともに優先している	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の三つとも大切にしている	その他	わからない	無回答
田原市(H28.7)	28.1	15.4	1.6	25.3	5.5	2.4	15.0	-	3.6	3.2
女性	20.6	23.0	0.8	29.4	3.2	3.2	12.7	-	2.4	4.8
男性	34.9	7.9	2.4	21.4	7.9	1.6	17.5	-	4.8	1.6
田原市(H23.10)	37.1	15.3	1.7	20.7	4.1	1.7	11.2	-	2.0	6.1
女性	26.8	21.1	2.1	23.2	0.7	2.1	14.1	-	2.8	7.0
男性	46.7	10.0	1.3	18.7	7.3	1.3	8.7	-	1.3	4.7
田原市(H20.8)	30.2	23.4	2.5	20.2	3.2	5.8	8.4	1.0	5.1	
女性	16.2	36.0	2.1	19.9	2.2	8.0	9.5	1.0	5.2	
男性	46.9	8.5	3.0	20.6	4.4	3.3	7.2	0.9	5.2	
愛知県(H26.11)	39.2	22.3	2.3	18.2	3.0	5.3	3.5	1.2	3.1	1.8
女性	24.7	35.1	2.3	18.4	2.7	7.5	3.7	1.2	3.0	1.4
男性	55.9	7.4	2.3	18.3	3.7	2.8	3.2	1.2	3.5	1.5
国(H24.10)	26.1	32.8	2.7	21.1	3.7	6.8	5.2	-	1.6	-
女性	15.7	45.3	2.4	20.0	2.3	8.2	4.6	-	1.4	-
男性	37.7	18.9	3.0	22.3	5.2	5.2	6.0	-	1.7	-

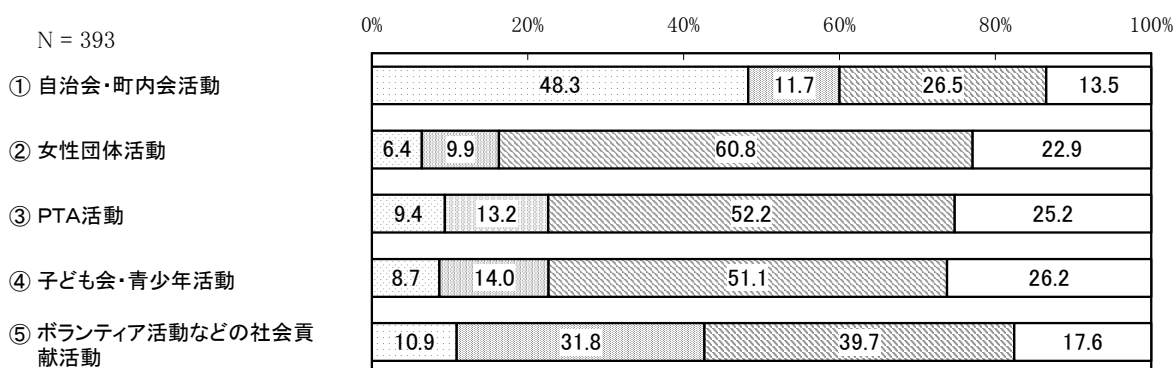
6 地域活動・社会活動について

問 38 あなたは、どのような地域活動に参加していますか。また、今後参加したいと思う地域活動は何ですか。(①から⑤の項目についてそれぞれ1つずつ○、⑥の項目については、該当する場合に、活動内容を記入のうえ1つに○)

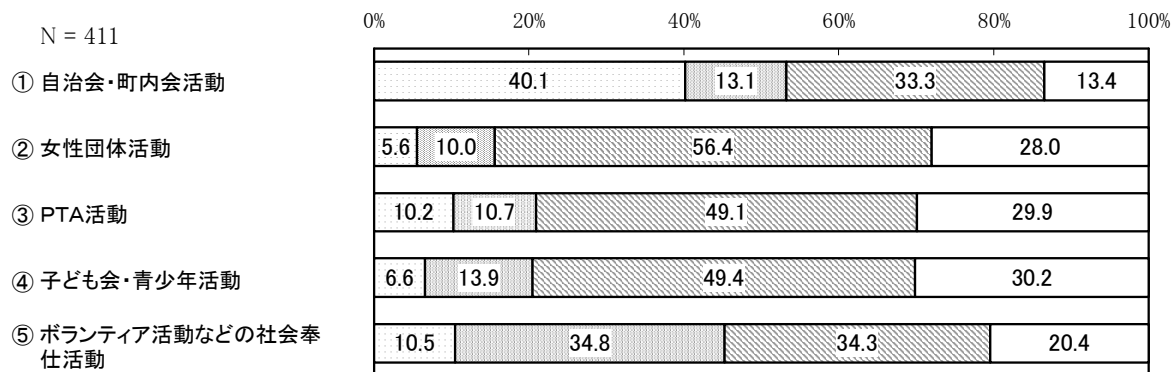
『①自治会・町内会活動』で「現在、参加している活動」の割合が、『⑤ボランティア活動などの社会貢献活動』で「今後、参加したい活動」の割合が、『②女性団体活動』『③PTA活動』『④子ども会・青少年活動』の割合が高くなっています。

平成23年度調査と比べると、『①自治会・町内会活動』で「現在、参加している活動」の割合が、『⑤ボランティア活動などの社会貢献活動』で「特に参加していない、参加したいと思わない活動」の割合が高くなっています。また、『①自治会・町内会活動』で「特に参加していない、参加したいと思わない活動」の割合が低くなっています。

- 現在、参加している活動
- 今後、参加したい活動
- 特に参加していない、参加したいと思わない活動
- 無回答



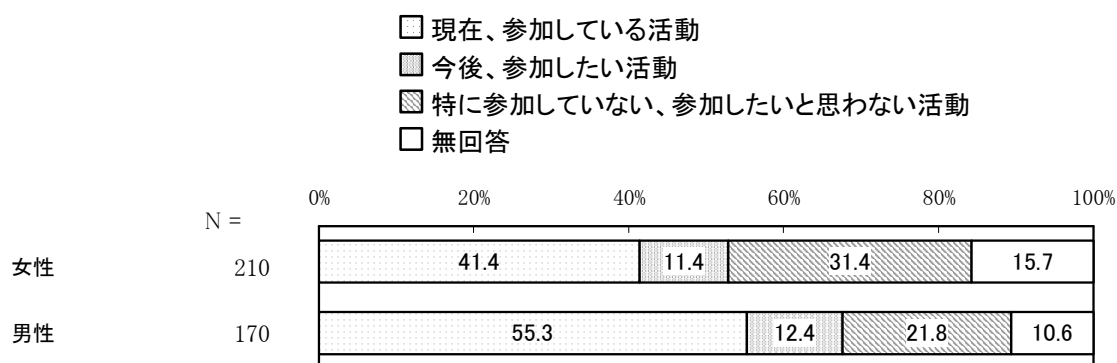
【平成23年度調査】



①自治会・町内会活動

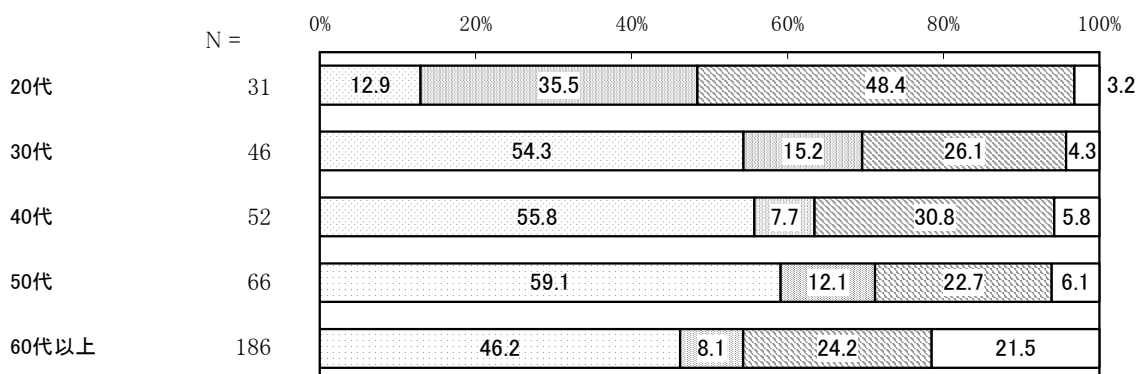
【性別】

性別でみると、女性で「特に参加していない、参加したいと思わない活動」の割合が高くなっています。また、男性で「現在、参加している活動」の割合が高くなっています。



【年代別】

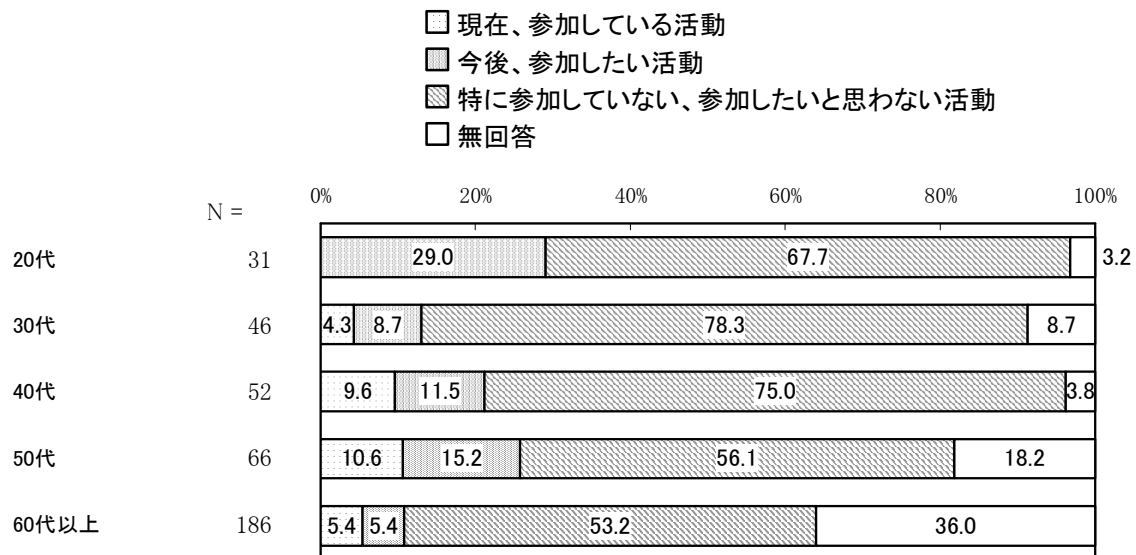
年代別でみると、他に比べ、30代から50代で「現在、参加している活動」の割合が高くなっています。また、20代で「特に参加していない、参加したいと思わない活動」の割合が高くなっています。



②女性団体活動

【年代別】

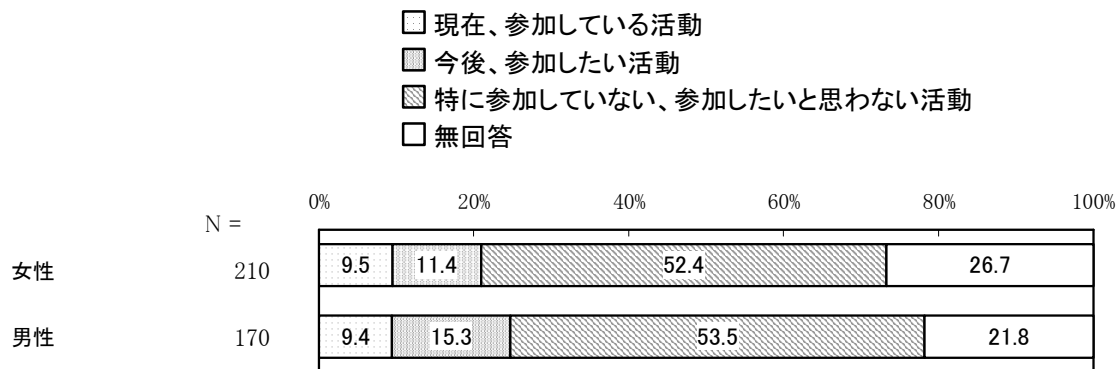
年代別でみると、他に比べ、20代で「今後、参加したい活動」の割合が高くなっています。また、30代、40代で「特に参加していない、参加したいと思わない活動」の割合が高くなっています。



③ P T A 活動

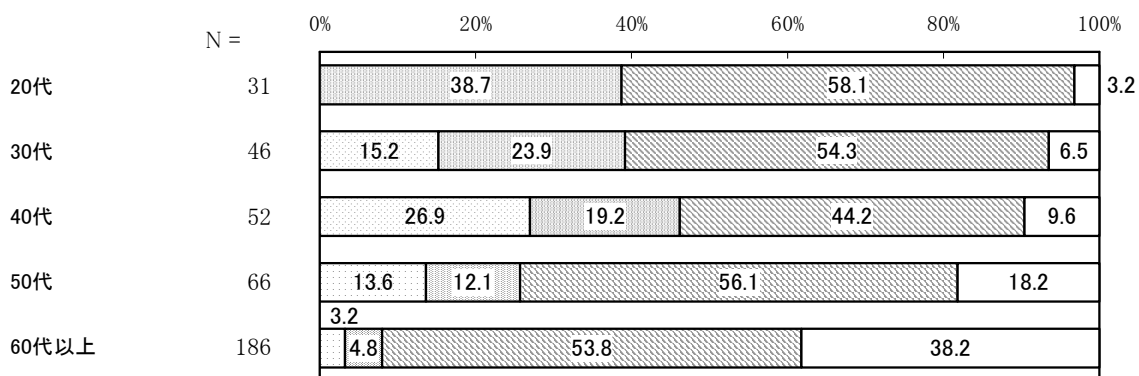
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



【年代別】

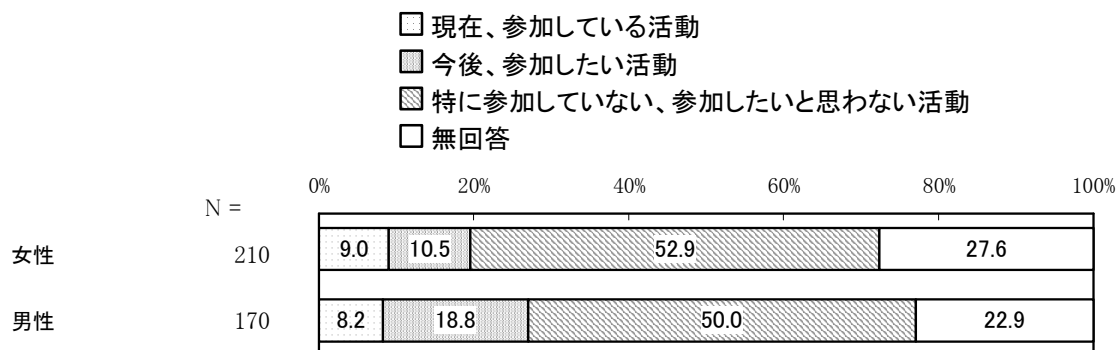
年代別でみると、他に比べ、40代で「現在、参加している活動」の割合が高くなっています。また、20代で「今後、参加したい活動」の割合が高くなっています。



④子ども会・青少年活動

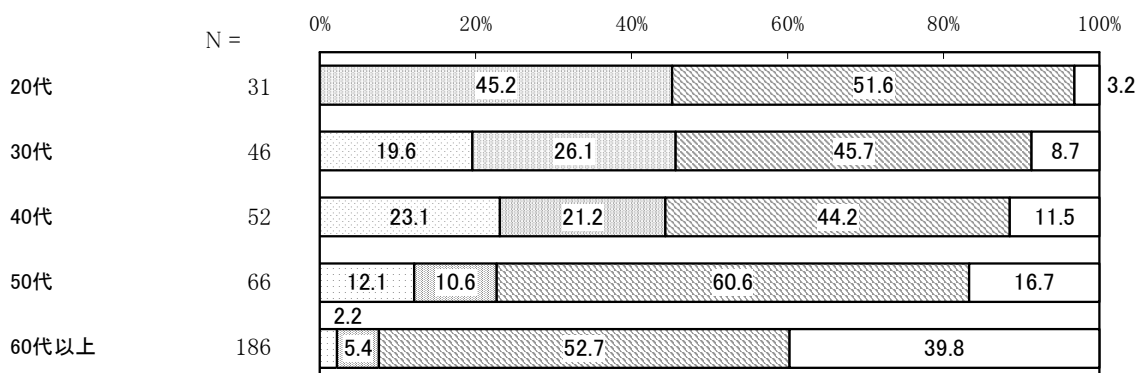
【性別】

性別でみると、男性で「今後、参加したい活動」の割合が高くなっています。



【年代別】

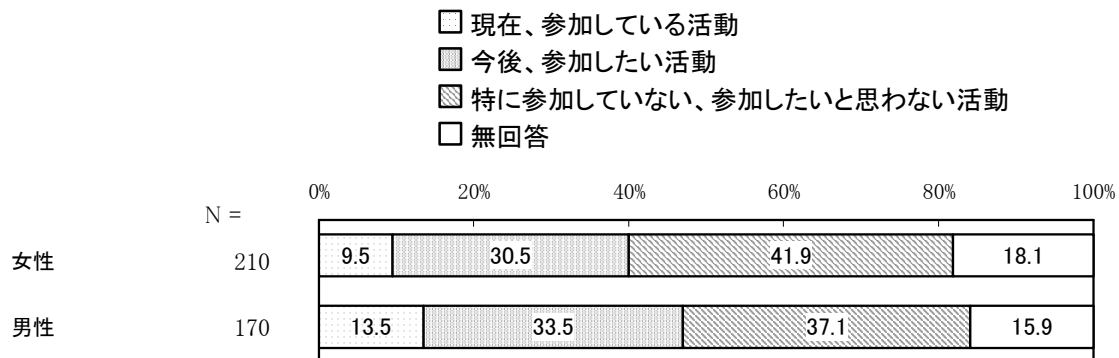
年代別でみると、他に比べ、20代で「今後、参加したい活動」の割合が高くなっています。また、50代で「特に参加していない、参加したいと思わない活動」の割合が高くなっています。



⑤ ボランティア活動などの社会貢献活動

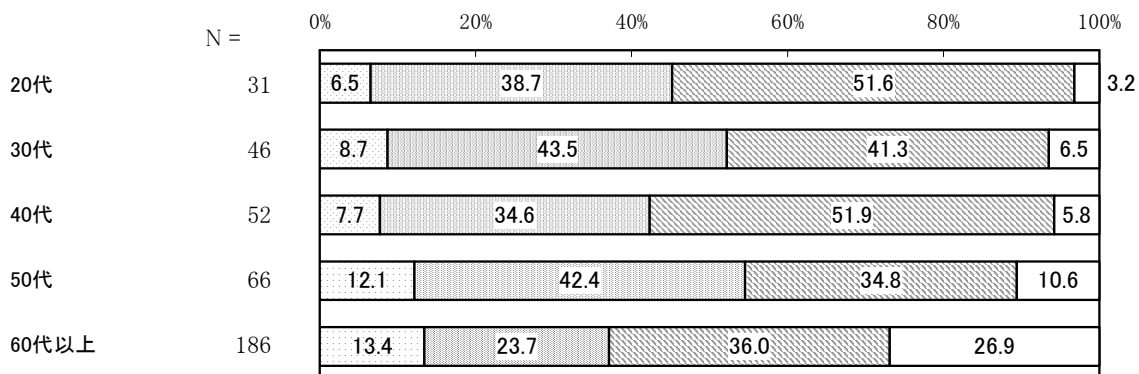
【性別】

性別で見ると、大きな差異はみられません。



【年代別】

年代別で見ると、他に比べ、30代、50代で「今後、参加したい活動」の割合が高くなっています。また、20代、40代で「特に参加していない、参加したいと思わない活動」の割合が高くなっています。



⑥その他

現在、参加している活動

- ・ 老人絵画クラブ
- ・ 田原市遺族連合会
- ・ 町内会自治会等の依頼
- ・ スポーツ少年団指導者
- ・ 広報等のよび掛けなど
- ・ しおさい大学
- ・ 社内での有志活動
- ・ 町内のお祭り
- ・ ボランティアガイド
- ・ はつらつシニア体操教室
- ・ 地域同好会活動
- ・ 環境整備
- ・ うたおう会
- ・ スポーツ
- ・ 巖王寺世話人会

今後、参加したい活動

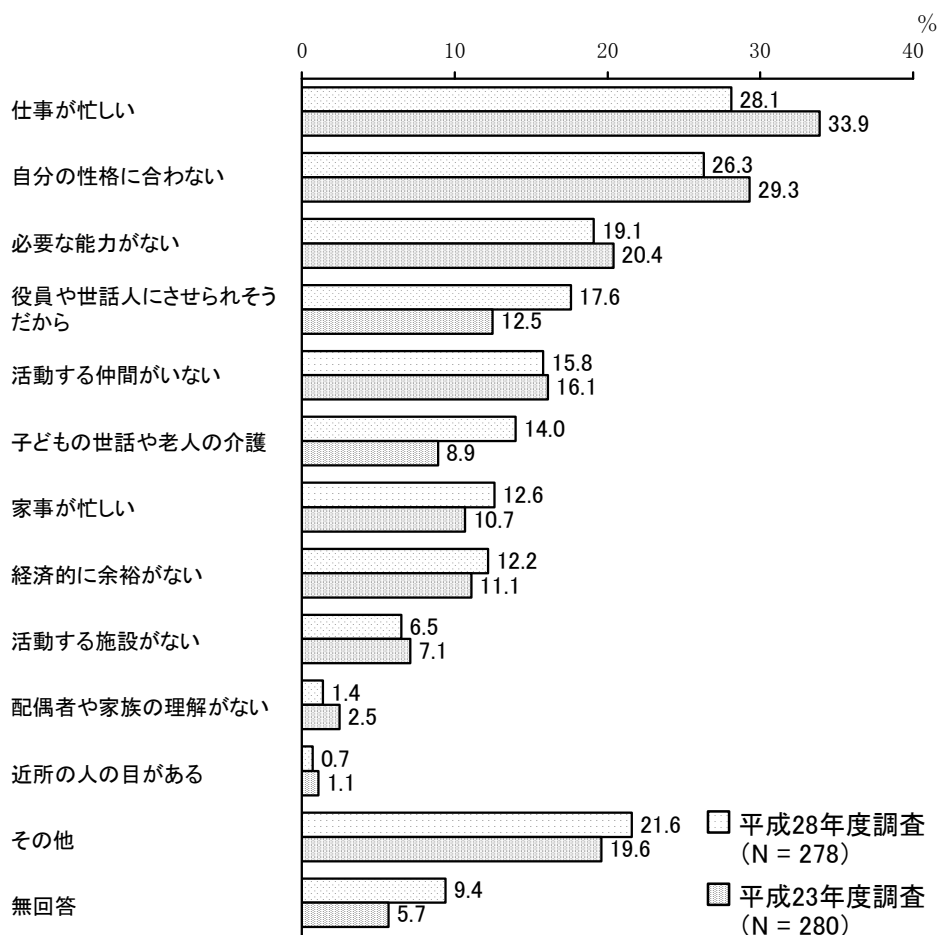
回答はありませんでした。

《問 38 で「特に参加していない、参加したいと思わない活動」をひとつでも選んだ方にお聞きします》

問 39 地域活動に参加していない主な理由は何ですか。(3つまで○)

「仕事が忙しい」の割合が28.1%と最も高く、次いで「自分の性格に合わない」の割合が26.3%、「必要な能力がない」の割合が19.1%となっています。

平成23年度調査と比べると、「役員や世話人にさせられそうだから」「子どもの世話や老人の介護」の割合が高くなっています。また、「仕事が忙しい」の割合が低くなっています。



【性別】

性別でみると、女性で「子どもの世話や老人の介護」「家事が忙しい」の割合が高くなっています。また、男性で「役員や世話人にさせられそうだから」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	子どもの世話や老人の介護	仕事が忙しい	家事が忙しい	経済的に余裕がない	配偶者や家族の理解がない	必要な能力がない	近所の人の目がある	自分の性格に合わない	活動する仲間がない	活動する施設がない	役員や世話人にさせられそうだから	その他	無回答
女性	147	18.4	28.6	19.0	11.6	2.7	19.0	0.7	25.9	15.6	8.8	13.6	19.7	8.2
男性	122	9.0	27.9	4.9	11.5	—	17.2	0.8	25.4	15.6	4.1	23.0	24.6	10.7

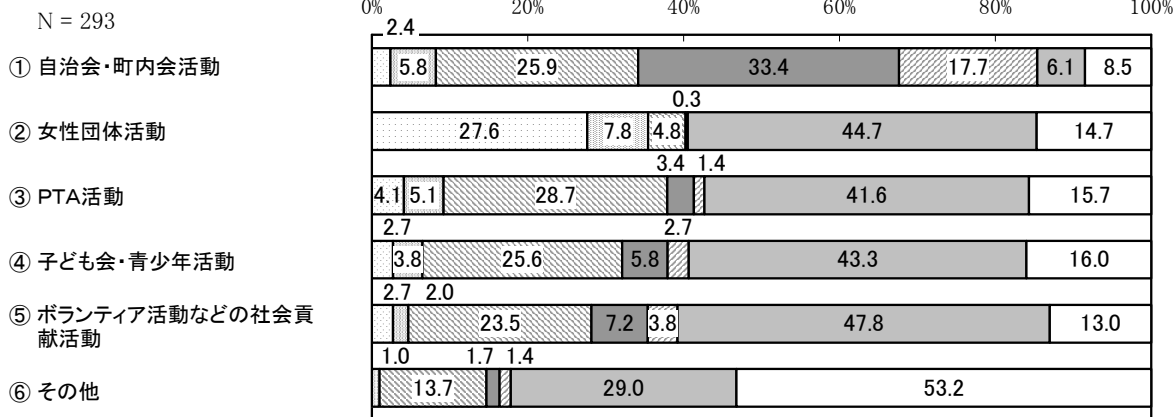
《配偶者またはパートナーと暮らしている方にお聞きします》

問 40 地域活動の中で、あなたのご家庭での男女の役割分担について、現状をお答えください。(①から⑥の項目についてそれぞれ1つずつ〇)

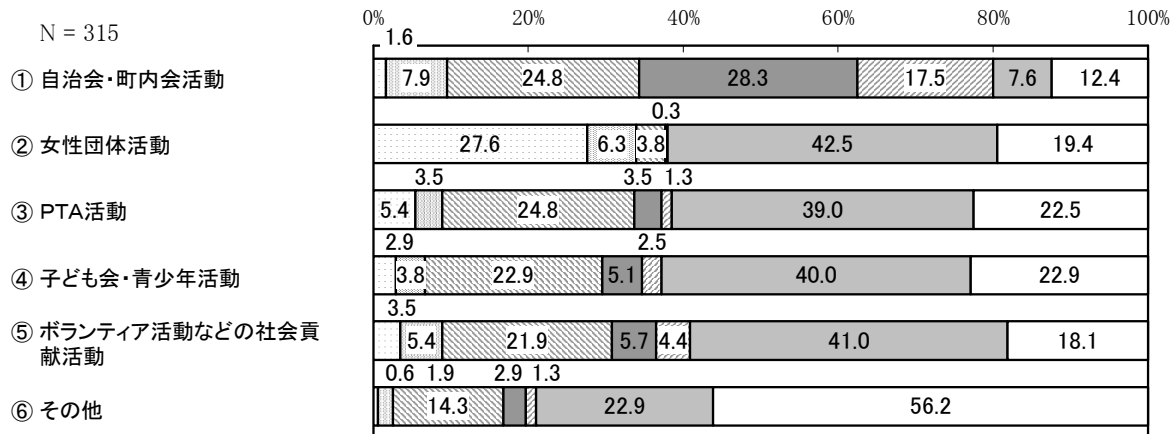
『②女性団体活動』で「すべて女性が担当」の割合が、『③PTA活動』『④子ども会・青少年活動』『⑤ボランティア活動などの社会貢献活動』で「男女同じ程度」の割合が、『①自治会・町内会活動』で「主に男性が担当して女性は手伝う程度」の割合が高くなっています。

平成 23 年度調査と比べると、『①自治会・町内会活動』で「主に男性が担当して女性は手伝う程度」の割合が、『⑤ボランティア活動などの社会貢献活動』で「どちらも参加していない」の割合が高くなっています。

- すべて女性が担当
- 主に女性が担当して男性は手伝う程度
- 男女同じ程度
- 主に男性が担当して女性は手伝う程度
- すべて男性が担当
- どちらも参加していない
- 無回答



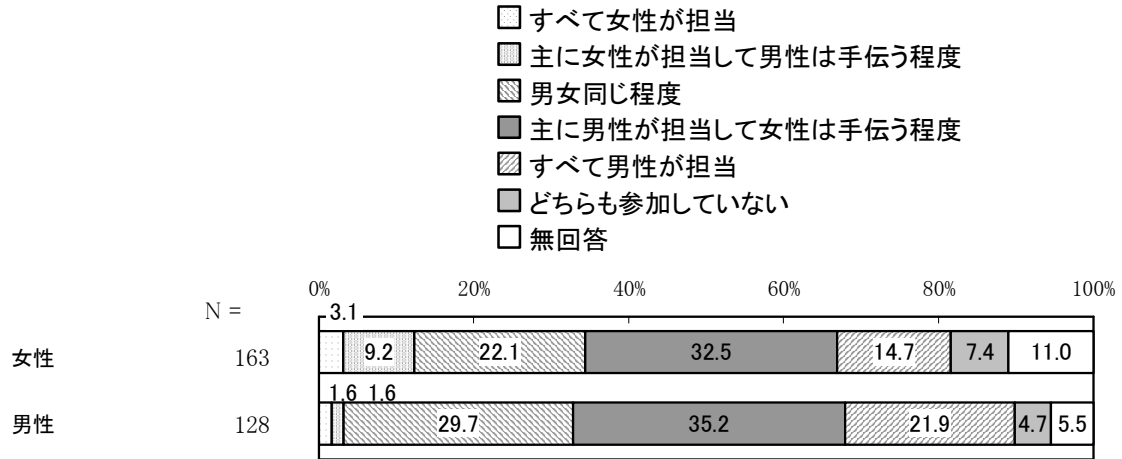
【平成 23 年度調査】



①自治会・町内会活動

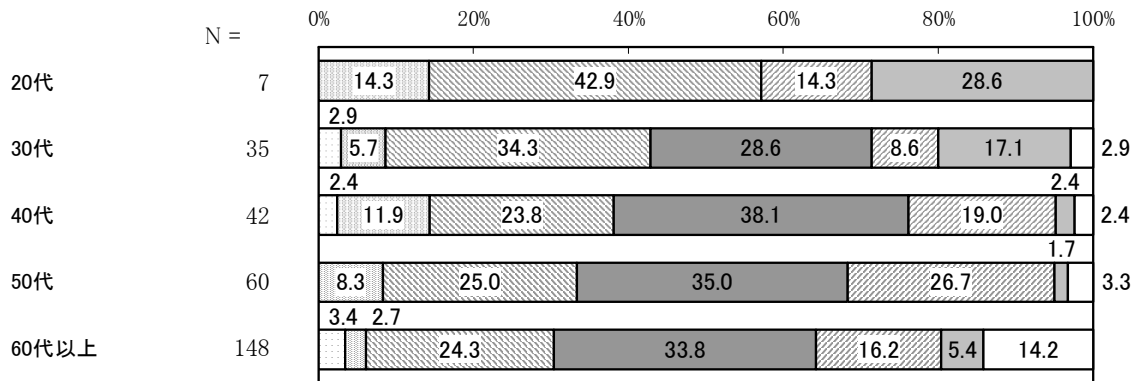
【性別】

性別でみると、女性で「主に女性が担当して男性は手伝える程度」の割合が高くなっています。また、男性で「男女同じ程度」「すべて男性が担当」の割合が高くなっています。



【年代別】

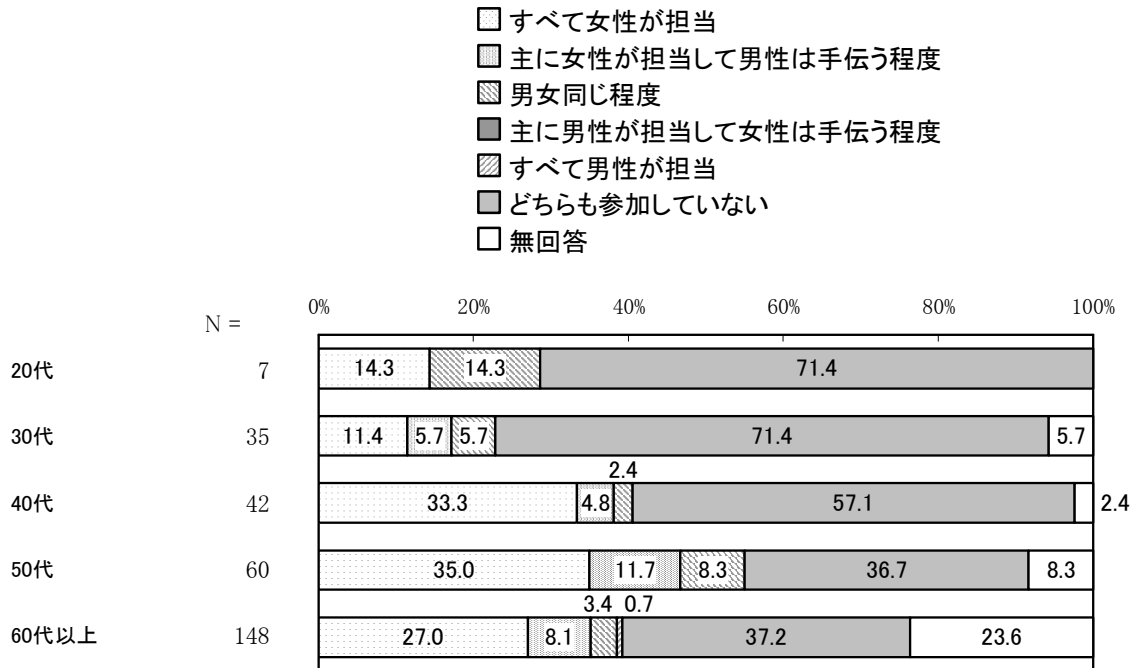
年代別でみると、他に比べ、50代で「すべて男性が担当」の割合が高くなっています。



②女性団体活動

【年代別】

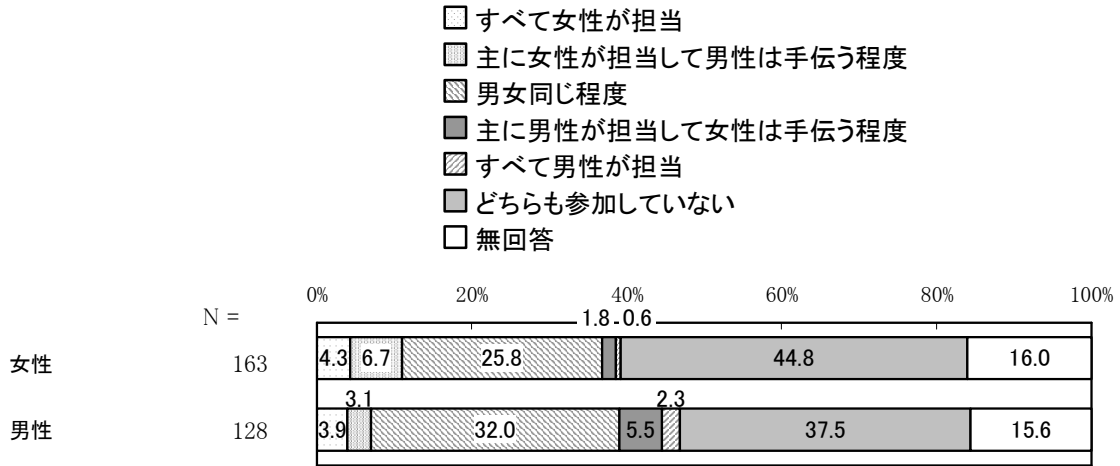
年代別で見ると、他に比べ、20代、30代で「どちらも参加していない」の割合が高くなっています。また、40代、50代で「すべて女性が担当」の割合が高くなっています。



③ P T A 活動

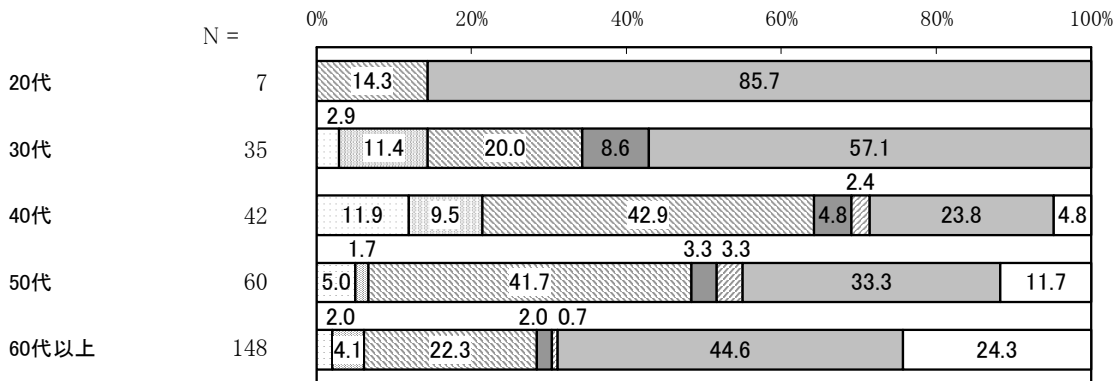
【性別】

性別で見ると、女性で「どちらも参加していない」の割合が高くなっています。また、男性で「男女同じ程度」の割合が高くなっています。



【年代別】

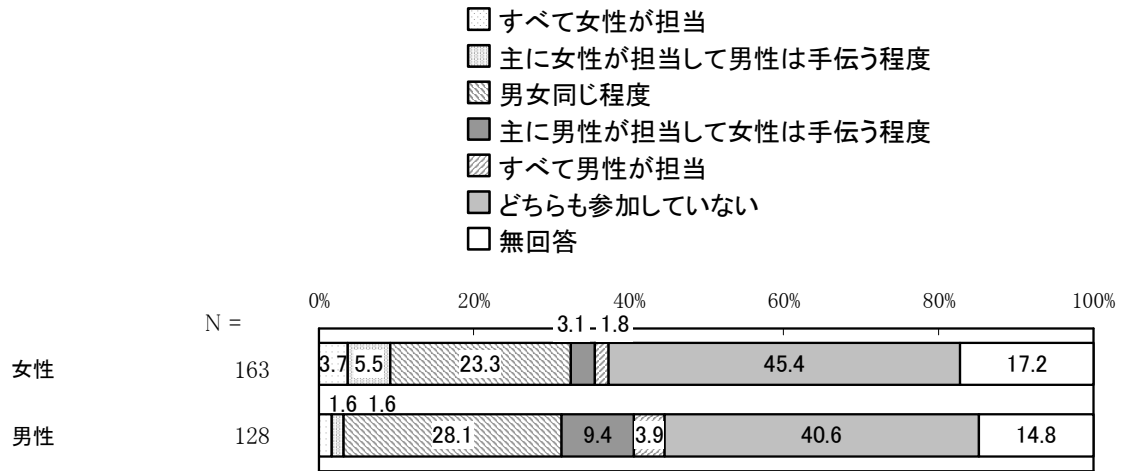
年代別で見ると、他に比べ、40代、50代で「男女同じ程度」の割合が高くなっています。



④子ども会・青少年活動

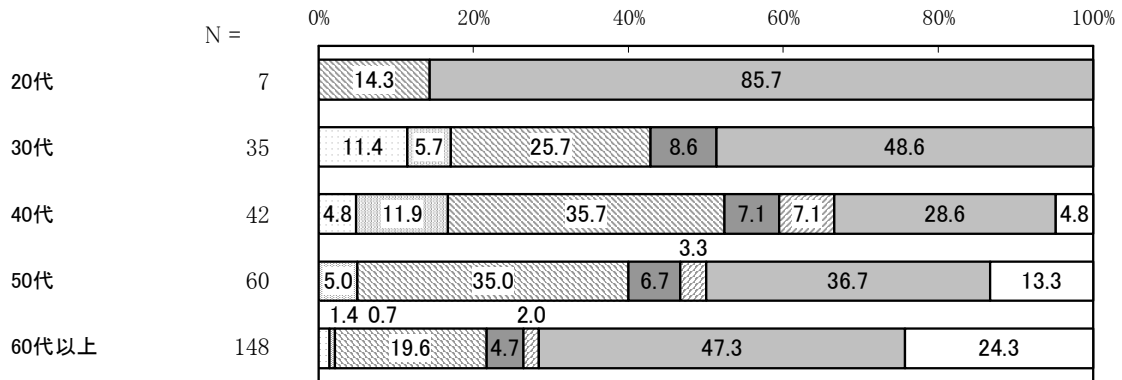
【性別】

性別で見ると、男性で「主に男性が担当して女性は手伝う程度」の割合が高くなっています。



【年代別】

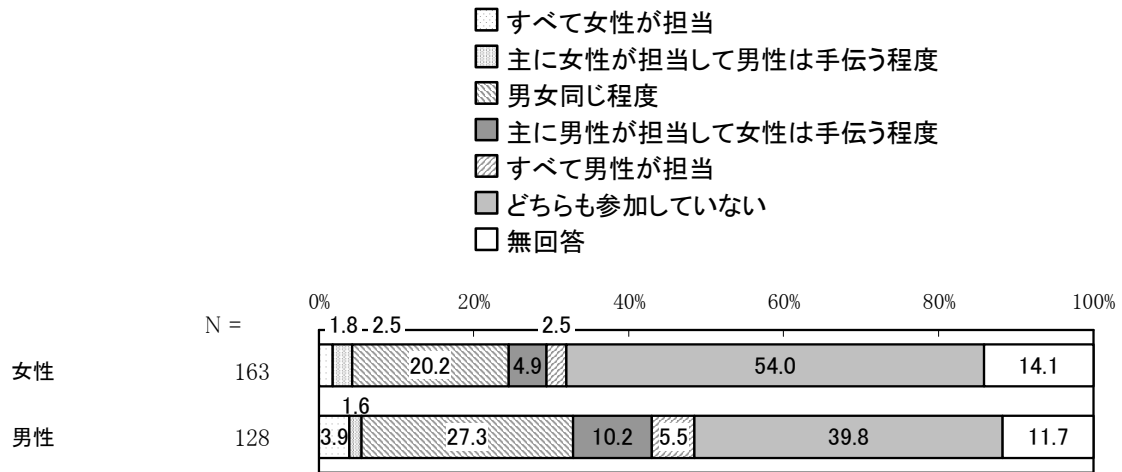
年代別で見ると、他に比べ、30代、60代以上で「どちらも参加していない」の割合が高くなっています。また、40代、50代で「男女同じ程度」の割合が高くなっています。



⑤ ボランティア活動などの社会貢献活動

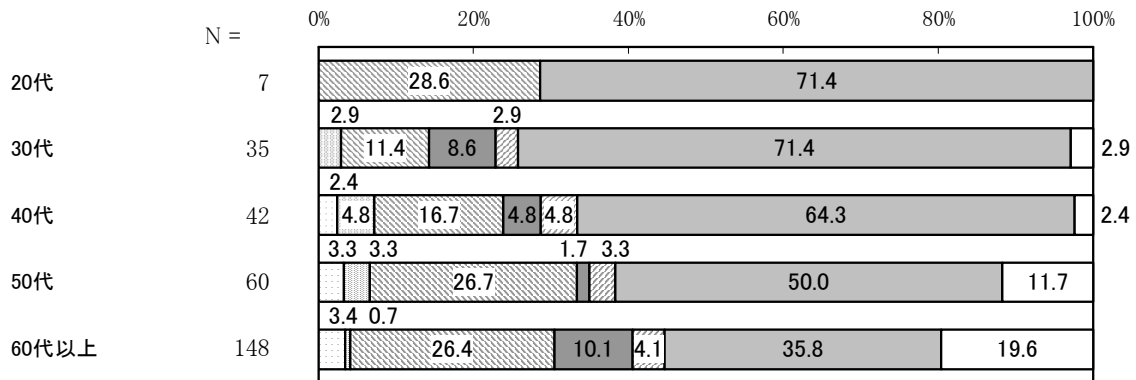
【性別】

性別で見ると、女性で「どちらも参加していない」の割合が高くなっています。また、男性で「男女同じ程度」「主に男性が担当して女性は手伝う程度」の割合が高くなっています。



【年代別】

年代別で見ると、他に比べ、20代、30代で「どちらも参加していない」の割合が高くなっています。また、50代以上で「男女同じ程度」の割合が高くなっています。

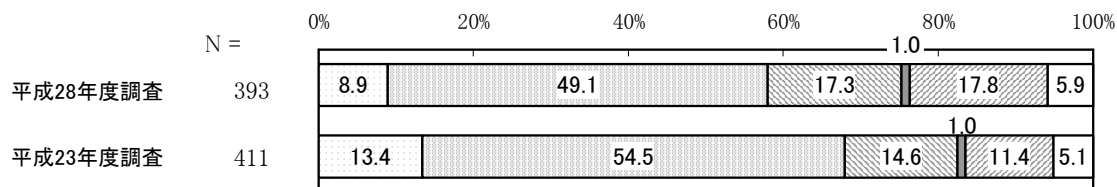


問 41 女性が地域社会を代表する立場として、施策づくりに参画する場合、その割合についてどう思いますか。(地域社会を代表する立場の例としては、市議会議員、行政の委員、地域団体の代表者・役員等です。) (1つに○)

「今よりもう少し女性の代表者が増えると良い」の割合が49.1%と最も高く、次いで「わからない」の割合が17.8%、「現状のままで良い」の割合が17.3%となっています。

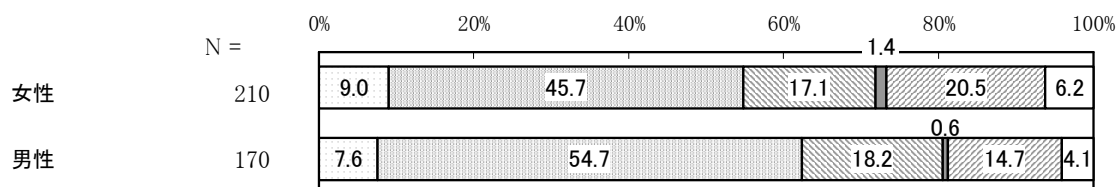
平成23年度調査と比べると、「わからない」の割合が高くなっています。また、「今よりもう少し女性の代表者が増えると良い」の割合が低くなっています。

- 半分は女性の代表者が占めるべきだと思う
- 今よりもう少し女性の代表者が増えると良い
- 現状のままで良い
- 女性の代表者は必要ない
- わからない
- 無回答



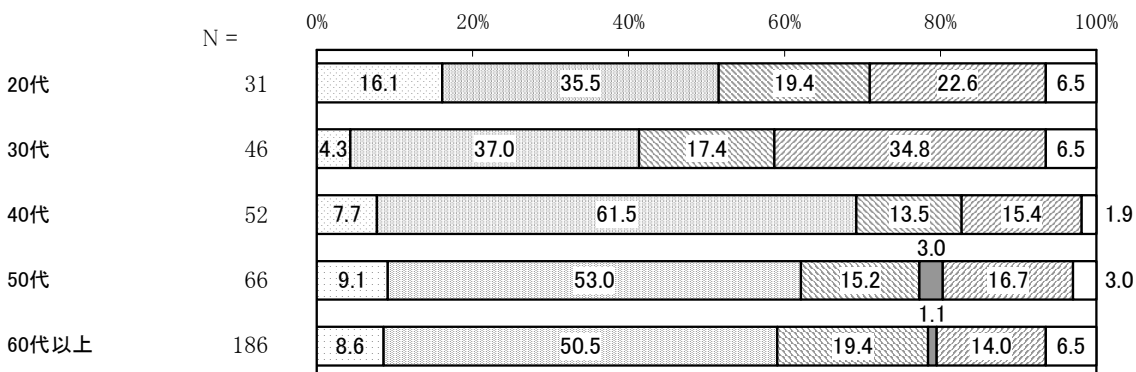
【性別】

性別でみると、男性で「今よりもう少し女性の代表者が増えると良い」の割合が高くなっています。



【年代別】

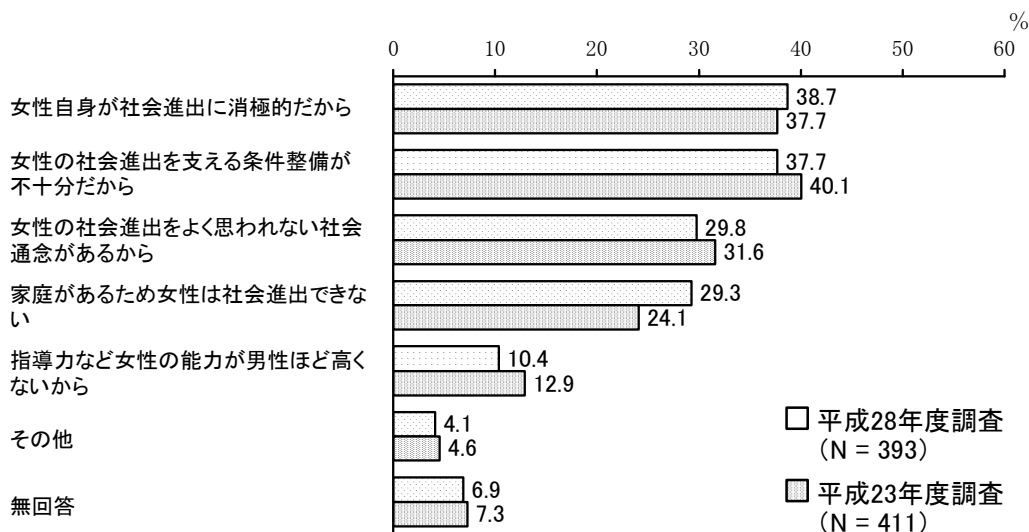
年代別でみると、他に比べ、20代で「半分は女性の代表者が占めるべきだと思う」の割合が高くなっています。また、40代で「今よりもう少し女性の代表者が増えると良い」の割合が高くなっています。



問 42 田原市では、法令・条例設置委員への女性の登用率が約20%と低いですが、それはどのような理由からだと思えますか。(2つまで○)

「女性自身が社会進出に消極的だから」の割合が38.7%と最も高く、次いで「女性の社会進出を支える条件整備が不十分だから」の割合が37.7%、「女性の社会進出をよく思われない社会通念があるから」の割合が29.8%となっています。

平成23年度調査と比べると、「家庭があるため女性は社会進出できない」の割合が高くなっています。



【性別】

性別でみると、女性で「女性自身が社会進出に消極的だから」「女性の社会進出をよく思われない社会通念があるから」の割合が高くなっています。また、男性で「女性の社会進出を支える条件整備が不十分だから」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	女性自身が社会進出に消極的だから	女性の社会進出をよく思われない社会通念があるから	女性の社会進出を支える条件整備が不十分だから	家庭があるため女性社会進出できない	指導力など女性の能力が男性ほど高くないから	その他	無回答
女性	210	41.4	32.4	31.9	27.1	10.0	4.8	8.1
男性	170	35.9	27.1	45.3	31.2	11.8	3.5	4.1

【年代別】

年代別でみると、他に比べ、30代で「家庭があるため女性は社会進出できない」の割合が高くなっています。また、40代で「女性自身が社会進出に消極的だから」の割合が高くなっています。

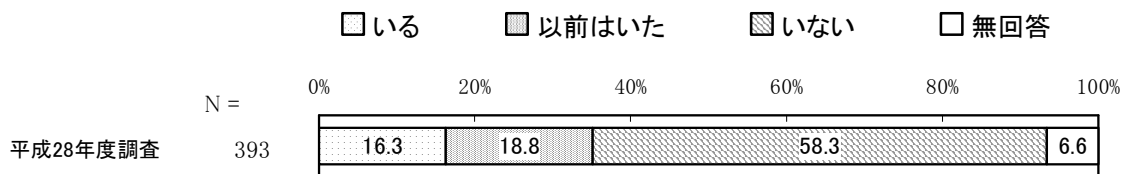
単位：%

区分	有効回答数 (件)	女性自身が社会進出に消極的だから	女性の社会進出をよく思わない社会通念があるから	女性の社会進出を支える条件整備が不十分だから	家庭があるため女性社会進出できない	指導力など女性の能力が男性ほど高くないから	その他	無回答
20代	31	41.9	25.8	38.7	29.0	9.7	6.5	—
30代	46	32.6	34.8	30.4	37.0	10.9	8.7	—
40代	52	55.8	26.9	38.5	28.8	5.8	7.7	—
50代	66	33.3	37.9	31.8	31.8	9.1	3.0	6.1
60代以上	186	37.6	27.4	41.9	25.8	12.9	2.2	10.8

7 介護について

問 43 あなたの家族には、介護を要する方がいますか。若しくはいましたか。

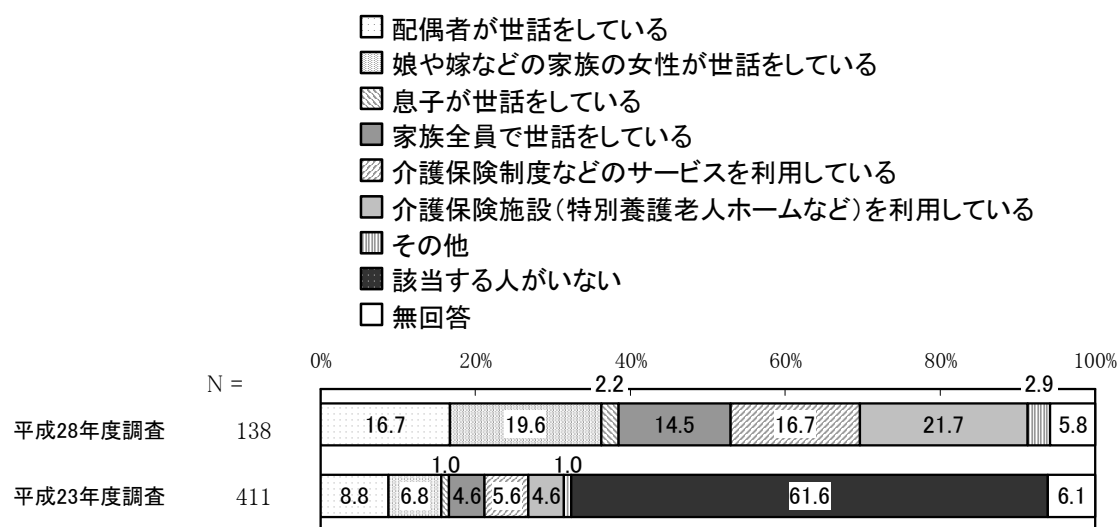
「いない」の割合が58.3%と最も高く、次いで「以前はいた」の割合が18.8%、「いる」の割合が16.3%となっています。



《問 43 で「1. いる」、「2. 以前はいた」と答えた方にお聞きします》

問 44 介護は主にどのような形で行っていますか。若しくは行っていましたか。 (1つに○)

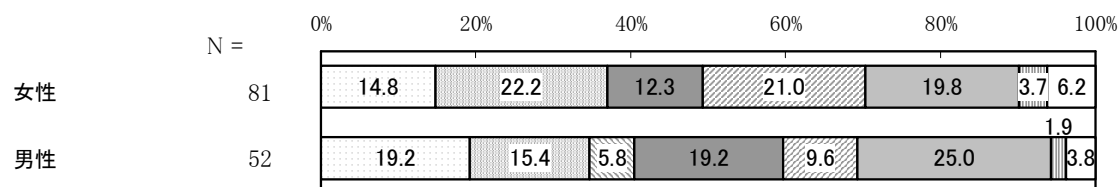
「介護保険施設（特別養護老人ホームなど）を利用している」の割合が21.7%と最も高く、次いで「娘や嫁などの家族の女性が世話をしている」の割合が19.6%、「配偶者が世話をしている」、「介護保険制度などのサービスを利用している」の割合が16.7%となっています。



※平成28年度調査では「該当する人がいない」の選択肢はありませんでした。

【性別】

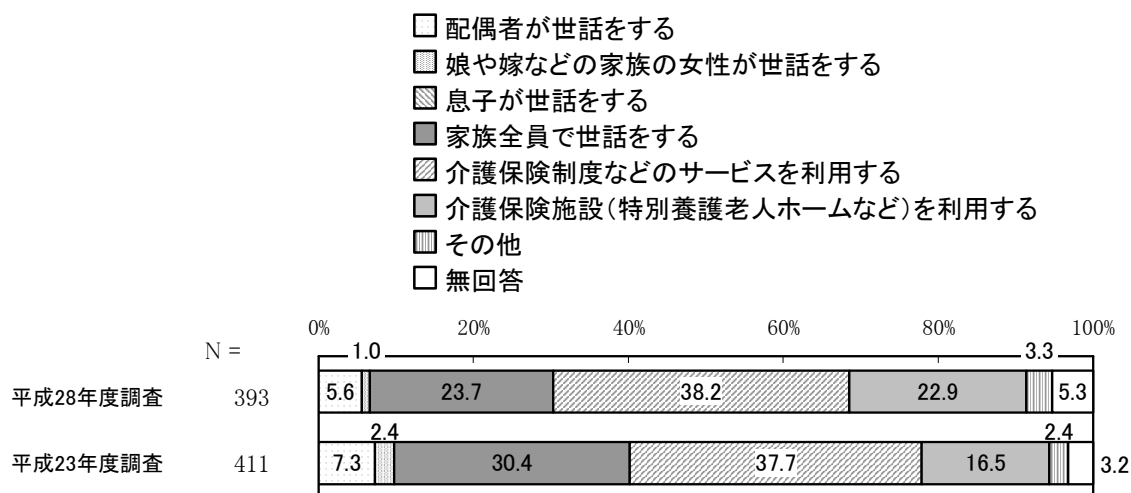
性別で見ると、女性で「娘や嫁などの家族の女性が世話をしている」「介護保険制度などのサービスを利用している」の割合が高くなっています。また、男性で「息子が世話をしている」「家族全員で世話をしている」「介護保険施設（特別養護老人ホームなど）を利用している」の割合が高くなっています。



問 45 あなたは、将来、要介護者などの身のまわりの世話は、どのような形をとるのが最も望ましいと考えますか。(1つに○)

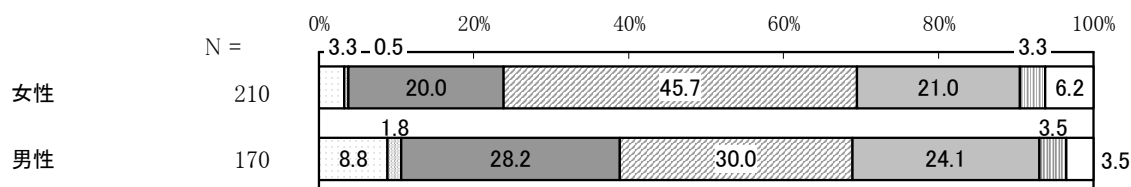
「介護保険制度などのサービスを利用する」の割合が 38.2%と最も高く、次いで「家族全員で世話をする」の割合が 23.7%、「介護保険施設（特別養護老人ホームなど）を利用する」の割合が 22.9%となっています。

平成 23 年度調査と比べると、「介護保険施設（特別養護老人ホームなど）を利用する」の割合が高くなっています。また、「家族全員で世話をする」の割合が低くなっています。



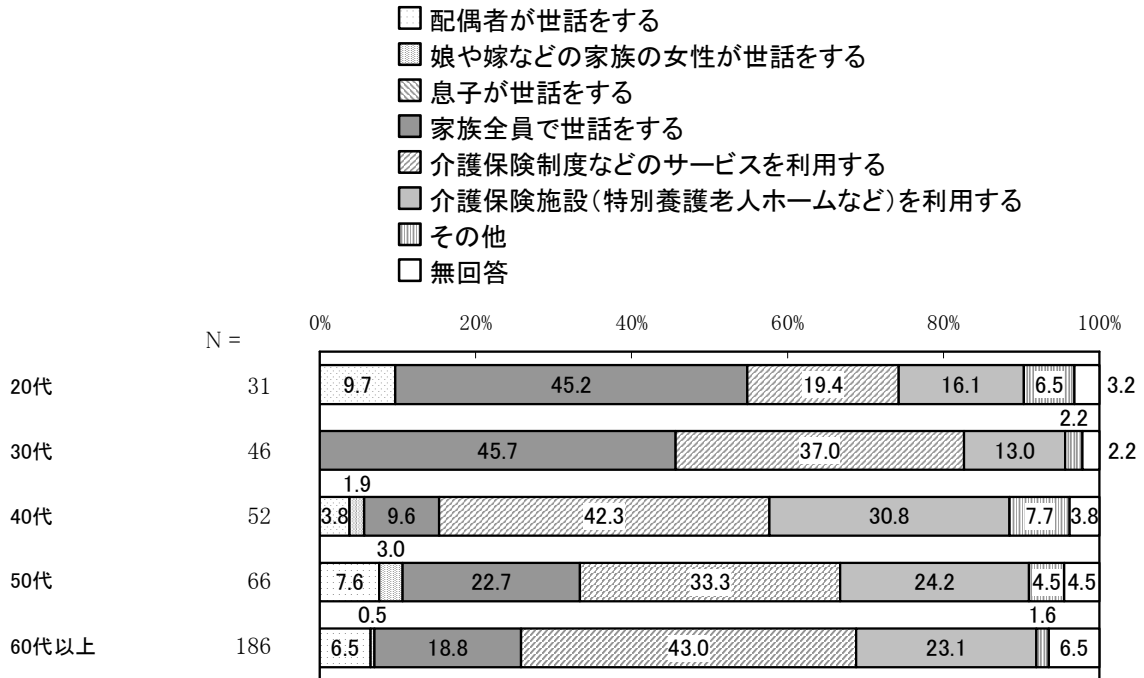
【性別】

性別でみると、女性で「介護保険制度などのサービスを利用する」の割合が高くなっています。また、男性で「配偶者が世話をする」「家族全員で世話をする」の割合が高くなっています。



【年代別】

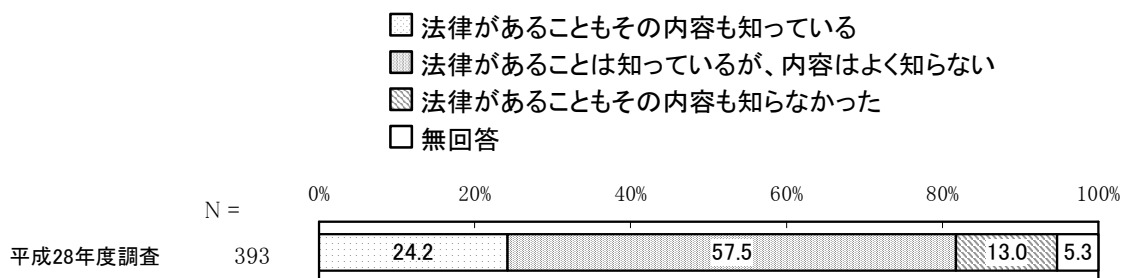
年代別でみると、他に比べ、20代、30代で「家族全員で世話をする」の割合が高くなっています。また、40代、60代以上で「介護保険制度などのサービスを利用する」の割合が高くなっています。



8 人権について

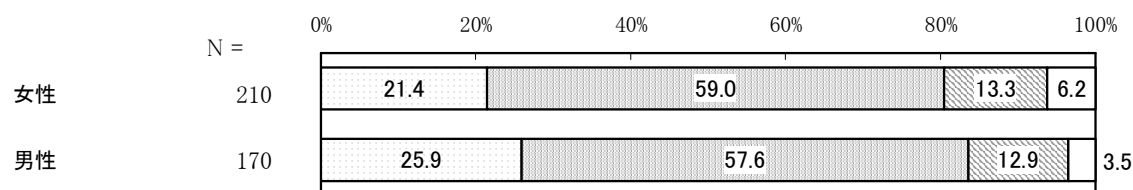
問 46 あなたは、「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律」を知っていますか。(1つに○)

「法律があることは知っているが、内容はよく知らない」の割合が57.5%と最も高く、次いで「法律があることもその内容も知っている」の割合が24.2%、「法律があることもその内容も知らなかった」の割合が13.0%となっています。



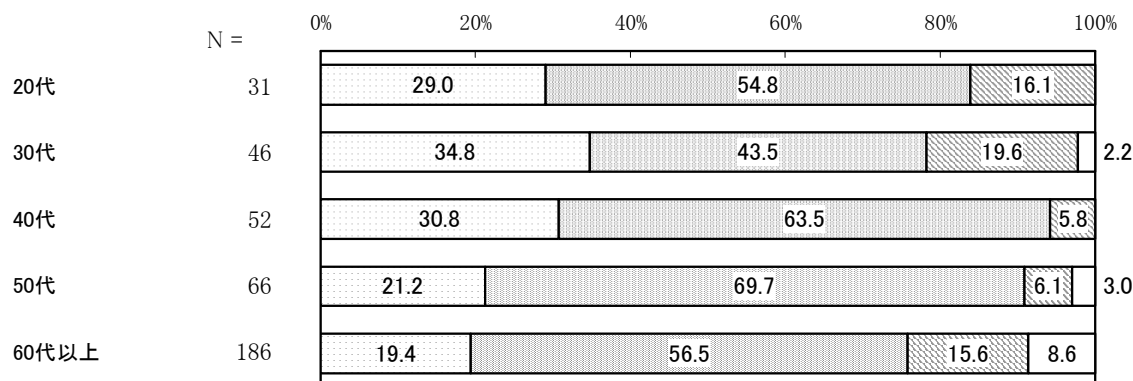
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



【年代別】

年代別でみると、他に比べ、20代から40代で「法律があることもその内容も知っている」の割合が高くなっています。また、50代で「法律があることは知っているが、内容はよく知らない」の割合が高くなっています。

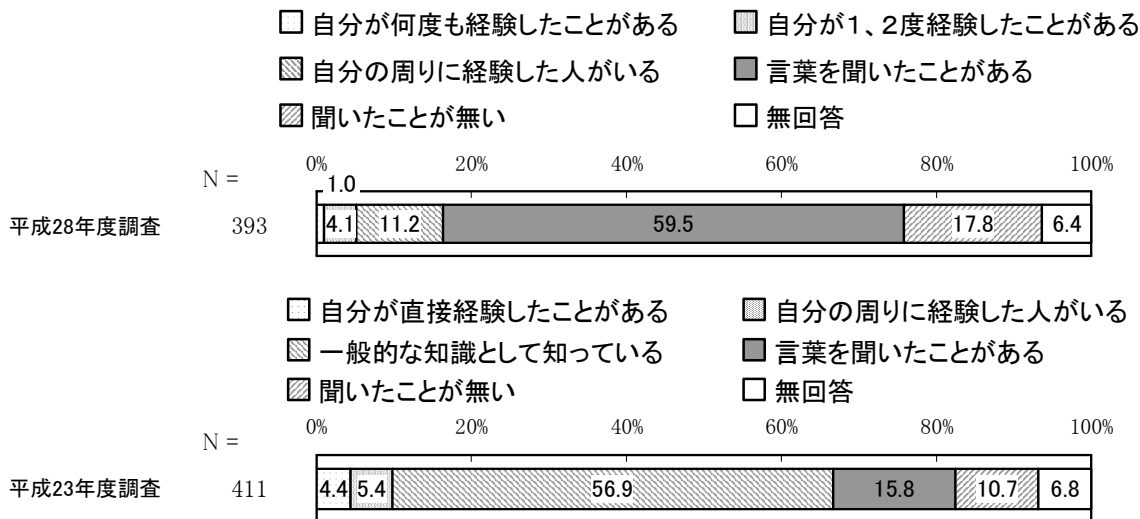


問 47 セクシュアル・ハラスメントやドメスティック・バイオレンスについて、いずれか1つでも自分が経験したり、そのような話を聞いたことがありますか。
(それぞれ1つずつ〇)

セクシュアル・ハラスメント

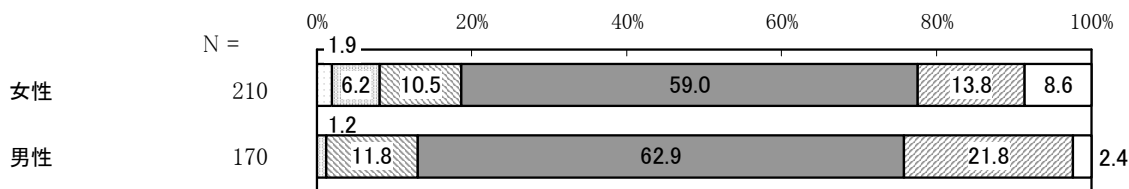
セクシュアル・ハラスメントについては、「言葉を聞いたことがある」の割合が 59.5%と最も高く、次いで「聞いたことが無い」の割合が 17.8%、「自分の周りに経験した人がある」の割合が 11.2%となっています。

平成 23 年度調査と選択肢が異なるため、参考にとどめます。



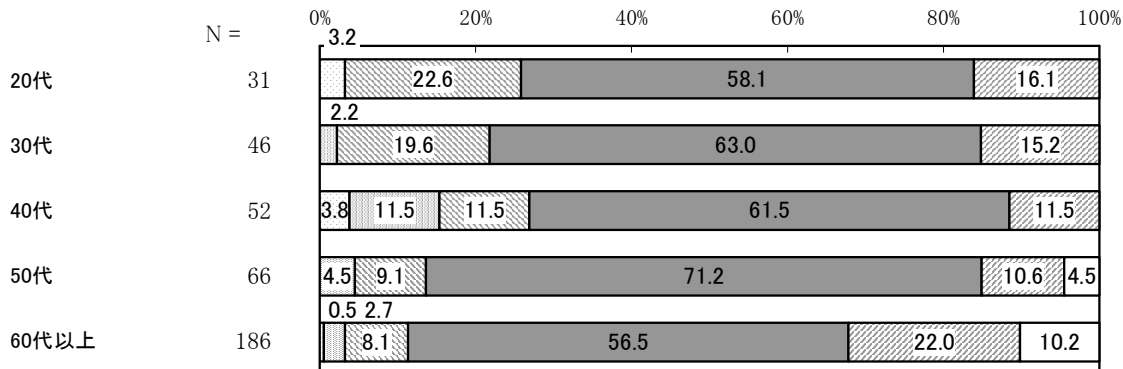
【性別】

性別でみると、女性で「自分が1、2度経験したことがある」の割合が高くなっています。また、男性で「聞いたことが無い」の割合が高くなっています。



【年代別】

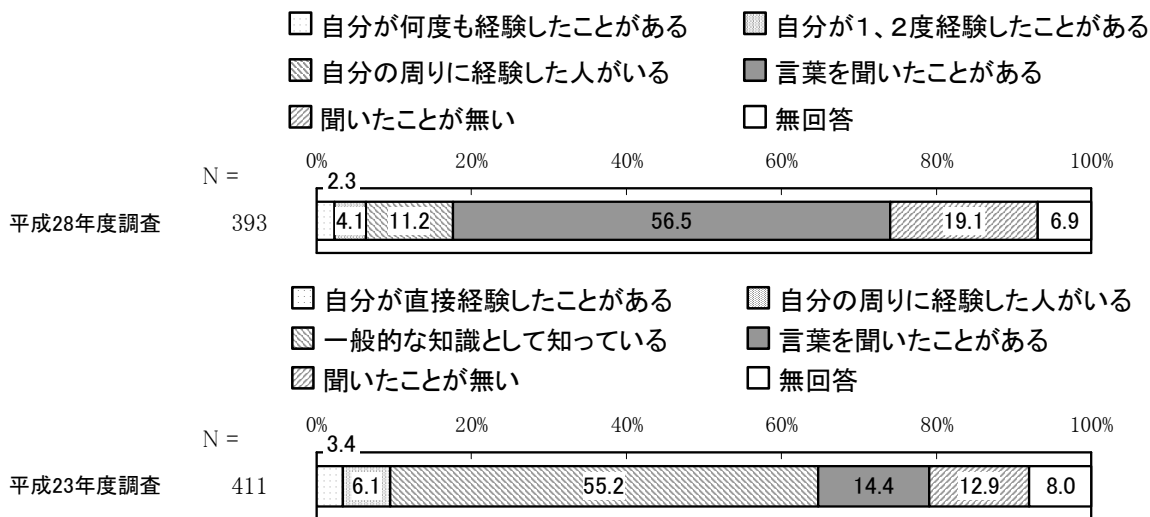
年代別でみると、他に比べ、40代で「自分が1、2度経験したことがある」の割合が、50代で「言葉を聞いたことがある」の割合が高くなっています。また、年齢が低くなるにつれて「自分の周りに経験した人がある」の割合が高くなっています。



ドメスティック・バイオレンス

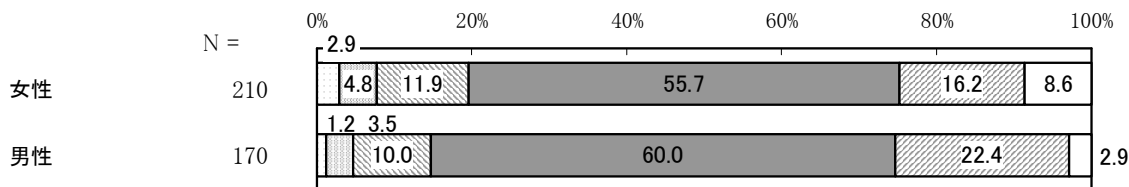
ドメスティック・バイオレンスについては、「言葉を聞いたことがある」の割合が 56.5%と最も高く、次いで「聞いたことが無い」の割合が 19.1%、「自分の周りに経験した人がいる」の割合が 11.2%となっています。

平成 23 年度調査と選択肢が異なるため、参考にとどめます。



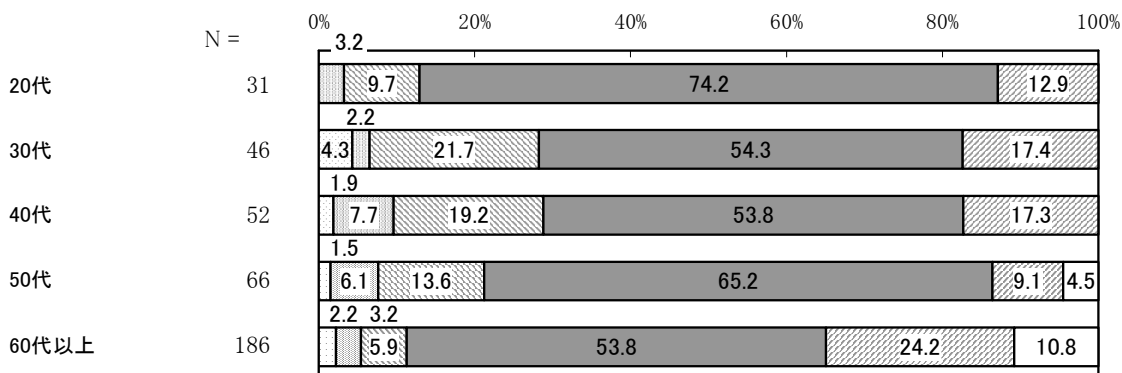
【性別】

性別でみると、男性で「聞いたことが無い」の割合が高くなっています。



【年代別】

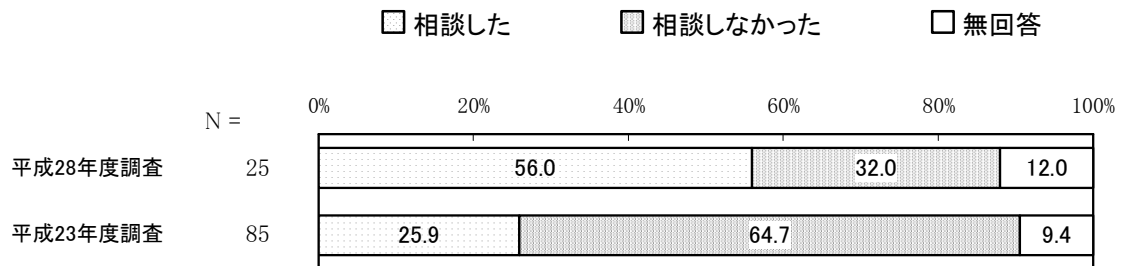
年代別でみると、他に比べ、20代で「言葉を聞いたことがある」の割合が高くなっています。また、60代以上で「聞いたことが無い」の割合が高くなっています。



《前の質問で、ドメスティック・バイオレンスを1度以上経験した方にお聞きします》

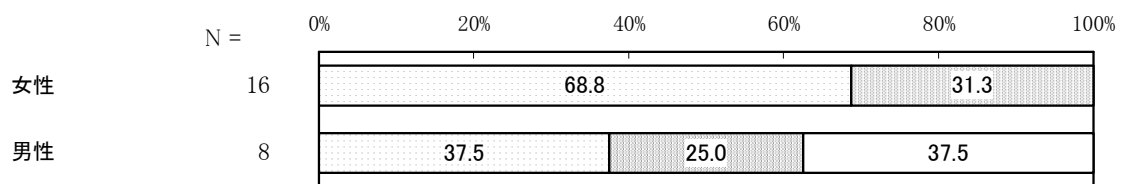
問 48-1 ドメスティック・バイオレンスを受けたとき、誰かに相談をしましたか。
(あてはまるものすべてに○)

「相談した」の割合が56.0%、「相談しなかった」の割合が32.0%となっています。
平成23年度調査と比べると、「相談した」の割合が高くなっています。



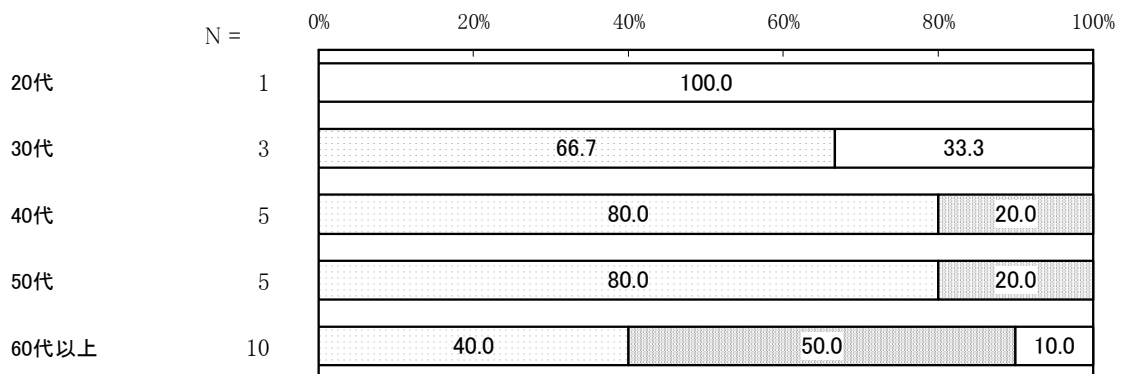
【性別】

性別でみると、女性で「相談した」の割合が高くなっています。



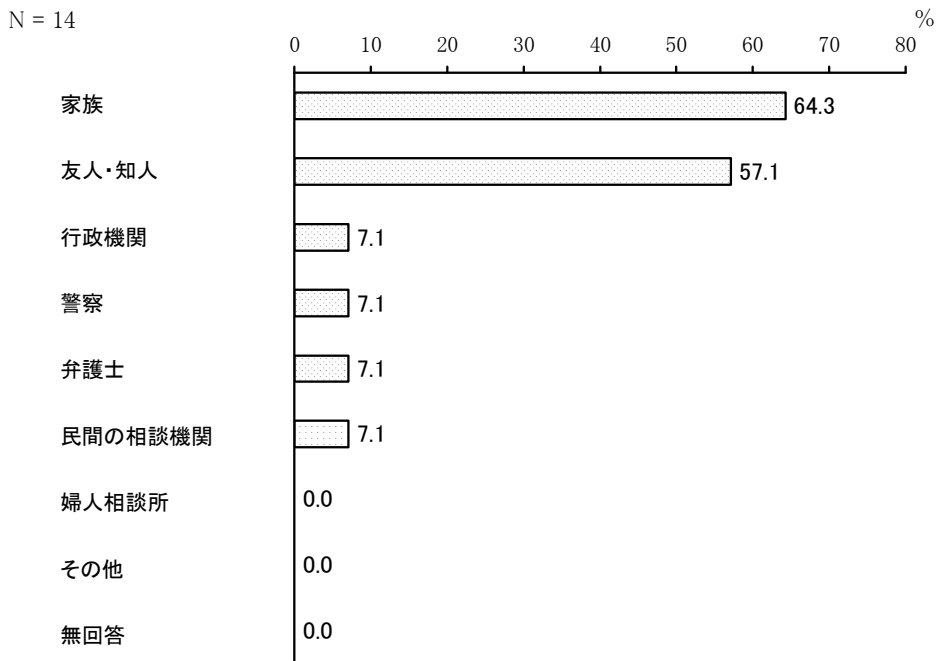
【年代別】

年代別でみると、60代以上で「相談しなかった」の割合が高くなっています。



<相談相手>

「家族」の割合が64.3%と最も高く、次いで「友人・知人」の割合が57.1%となっています。



【性別】

性別でみると、女性で「家族」の割合が高くなっています。

単位：%

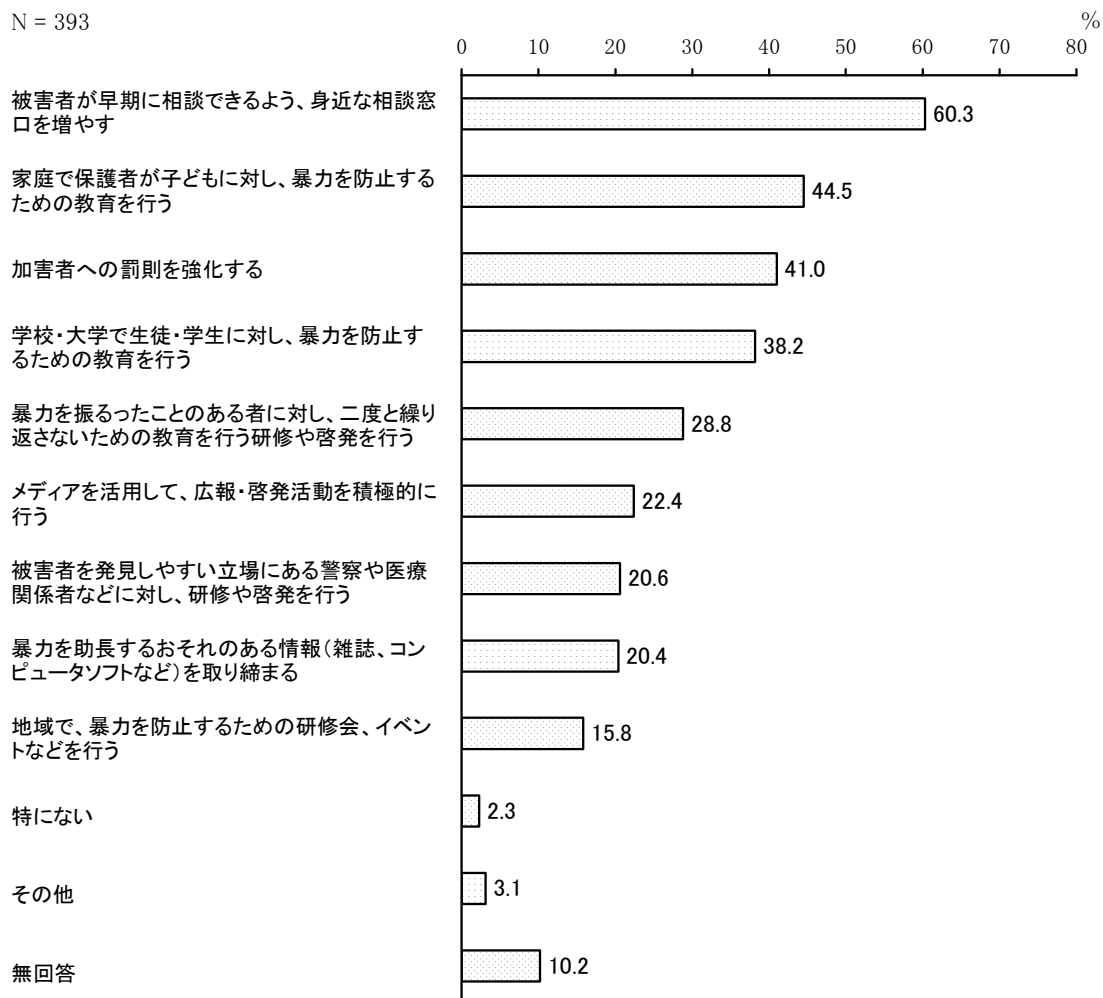
区分	有効回答数 (件)	家族	友人・知人	行政機関	警察	弁護士	婦人相談所	民間の相談機関	その他	無回答
女性	11	72.7	54.5	9.1	9.1	9.1	—	—	—	—
男性	3	33.3	66.7	—	—	—	—	33.3	—	—

問 48-2 相談しなかった理由は、何ですか。

「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思った」、「相談するほどのことでもないと思った」が4件、「自分にも悪いところがあると思った」が3件となっています。

問 49 男女間の暴力を防止するためには、どのようなことが必要だと考えますか。
 (あてはまるものすべてに○)

「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」の割合が 60.3%と最も高く、次いで「家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う」の割合が 44.5%、「加害者への罰則を強化する」の割合が 41.0%となっています。



【性別】

性別でみると、女性で「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」「暴力を助長するおそれのある情報（雑誌、コンピュータソフトなど）を取り締まる」の割合が高くなっています。また、男性で「加害者への罰則を強化する」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う	学校・大学で生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う	地域で、暴力を防止するための研修会、イベントなどを行う	メディアを活用して、広報・啓発活動を積極的に行う	被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす	被害者を発見しやすい立場にある警察や医療関係者などに対し、研修や啓発を行う
女性	210	44.8	37.1	15.2	21.9	64.8	22.9
男性	170	42.9	40.0	17.1	23.5	55.9	18.8

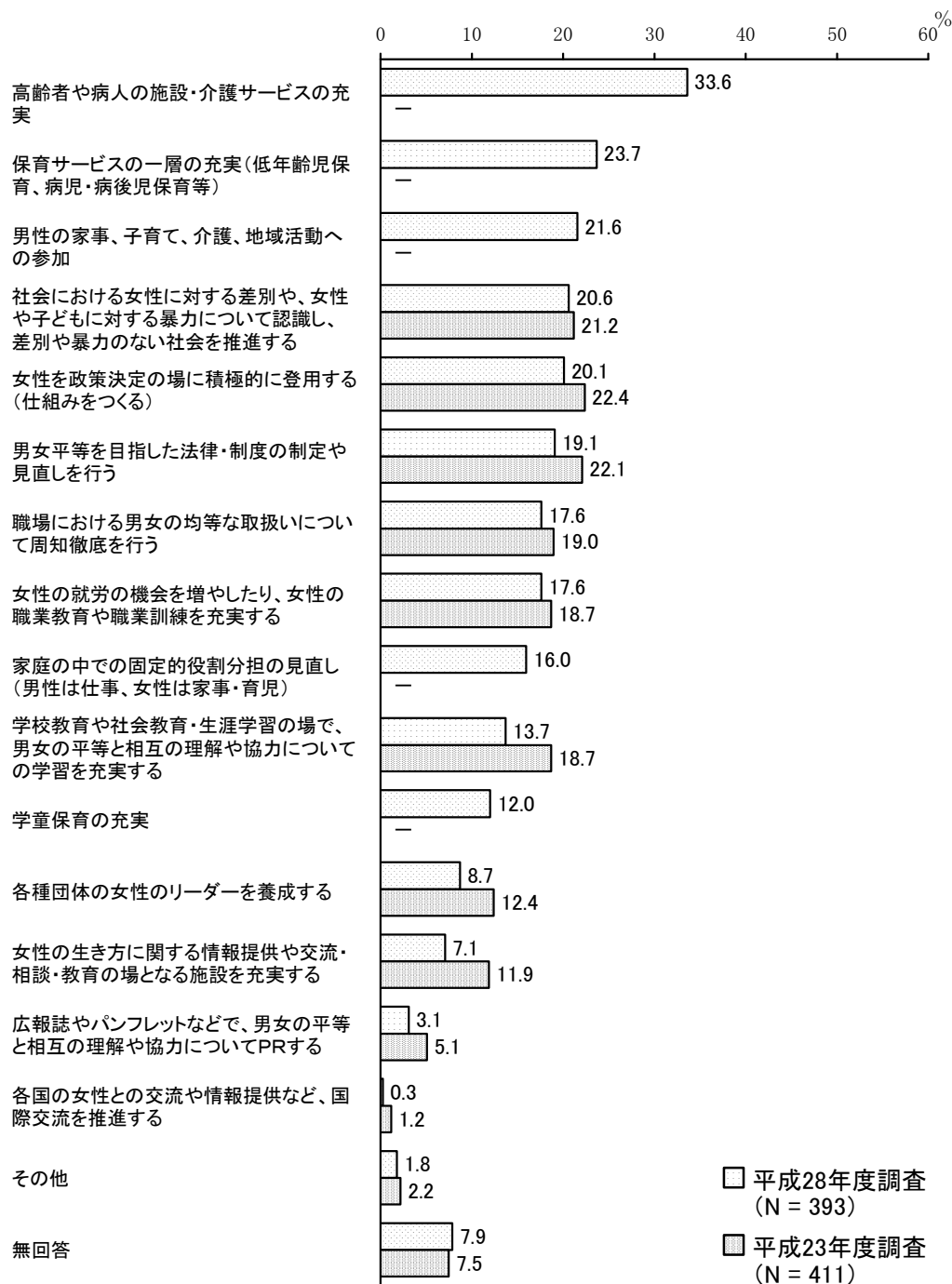
区分	暴力を振るったことのある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う研修や啓発を行う	加害者への罰則を強化する	暴力を助長するおそれのある情報（雑誌、コンピュータソフトなど）を取り締まる	特になし	その他	無回答
女性	30.0	36.2	24.3	1.9	3.3	11.0
男性	27.6	47.1	15.9	2.9	2.9	8.2

9 男女共同参画の施策について

問 50 男女共同参画社会の推進のために、行政（国・県・市）はどのようなことに力を
入れていくべきだと思いますか。（3つまで○）

「高齢者や病人の施設・介護サービスの充実」の割合が33.6%と最も高く、次いで「保育サービスの一層の充実（低年齢児保育、病児・病後児保育等）」の割合が23.7%、「男性の家事、子育て、介護、地域活動への参加」の割合が21.6%となっています。

平成23年度調査と比べると、「学校教育や社会教育・生涯学習の場で、男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する」の割合が低くなっています。



※平成23年度調査では「高齢者や病人の施設・介護サービスの充実」「保育サービスの一層の充実（低年齢児保育、病児・病後児保育等）」「男性の家事、子育て、介護、地域活動への参加」「家庭の中での固定的役割分担の見直し（男性は仕事、女性は家事・育児）」「学童保育の充実」の選択肢はありませんでした。

【性別】

性別でみると、女性で「家庭の中での固定的役割分担の見直し（男性は仕事、女性は家事・育児）」「高齢者や病人の施設・介護サービスの充実」の割合が高くなっています。また、男性で「男女平等を目指した法律・制度の制定や見直しを行う」「女性を政策決定の場に積極的に登用する（仕組みをつくる）」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	男女平等を目指した法律・制度の制定や見直しを行う	女性を政策決定の場に積極的に登用する（仕組みをつくる）	各種団体の女性のリーダーを養成する	職場における男女の均等な取扱いについて周知徹底を行う	女性の就労の機会を増やしたり、女性の職業教育や職業訓練を充実する	家庭の中での固定的役割分担の見直し（男性は仕事、女性は家事・育児）	男性の家事、子育て、介護、地域活動への参加	保育サービスの一層の充実（低年齢児保育、病児・病後児保育等）
女性	210	17.1	15.7	7.6	17.1	19.0	20.5	22.4	24.3
男性	170	22.4	25.3	10.6	17.6	15.9	11.2	21.2	22.4

区分	学童保育の充実	高齢者や病人の施設・介護サービスの充実	学校教育や社会教育・生涯学習の場で、男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する	女性の生き方に関する情報提供や交流・相談・教育の場となる施設を充実する	各国の女性との交流や情報提供など、国際交流を推進する	広報誌やパンフレットなどで、男女の平等と相互の理解や協力についてPRする	社会における女性に対する差別や、女性や子どもに対する暴力について認識し、差別や暴力のない社会を推進する	その他	無回答
女性	11.9	37.1	13.3	8.1	0.5	3.3	21.0	1.4	8.1
男性	11.8	30.6	12.9	5.9	—	2.4	21.2	2.4	7.1

【年代別】

年代別でみると、他に比べ、20代で「男女平等を目指した法律・制度の制定や見直しを行う」「女性を政策決定の場に積極的に登用する（仕組みをつくる）」「男性の家事、子育て、介護、地域活動への参加」の割合が高くなっています。また、30代から50代で「女性の就労の機会を増やしたり、女性の職業教育や職業訓練を充実する」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数（件）	男女平等を目指した法律・制度の制定や見直しを行う	女性を政策決定の場に積極的に登用する（仕組みをつくる）	各種団体の女性のリーダーを養成する	職場における男女の均等な取扱いについて周知徹底を行う	女性の就労の機会を増やしたり、女性の職業教育や職業訓練を充実する	家庭の中での固定的役割分担の見直し（男性は仕事、女性は家事・育児）	男性の家事、子育て、介護、地域活動への参加	保育サービスの一層の充実（低年齢児保育、病児・病後児保育等）
20代	31	25.8	32.3	9.7	22.6	3.2	16.1	35.5	29.0
30代	46	15.2	17.4	6.5	17.4	21.7	13.0	21.7	34.8
40代	52	17.3	25.0	3.8	13.5	21.2	19.2	23.1	30.8
50代	66	19.7	10.6	9.1	15.2	22.7	18.2	30.3	24.2
60代以上	186	19.9	20.4	10.8	18.8	16.1	15.6	16.1	18.3

区分	学童保育の充実	高齢者や病人の施設・介護サービスの充実	学校教育や社会教育・生涯学習の場で、男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する	女性の生き方に関する情報提供や交流・相談・教育の場となる施設を充実する	各国の女性との交流や情報提供など、国際交流を推進する	広報誌やパンフレットなどで、男女の平等と相互の理解や協力についてPRする	社会における女性に対する差別や、女性や子どもに対する暴力について認識し、差別や暴力のない社会を推進する	その他	無回答
20代	19.4	9.7	19.4	3.2	—	3.2	25.8	3.2	—
30代	21.7	17.4	10.9	4.3	—	2.2	23.9	4.3	4.3
40代	13.5	32.7	7.7	11.5	1.9	1.9	17.3	3.8	3.8
50代	10.6	45.5	9.1	9.1	—	6.1	13.6	—	6.1
60代以上	8.6	39.2	16.1	6.5	—	2.2	23.1	1.1	10.8

10 自由回答

男女共同参画に関して自由意見を記入してもらったところ、41人から意見（自由意見欄記入）が得られました。主な意見は次のとおりです。

①男女共同参画に関して

- ・男は男、女は女の役割りがあるのでは。あまり共同参画には賛成ではない。
- ・田原市にはお年寄りが多いので、男の方が何事においても優位にあるという思いが根強いので、少しずつでも女性の地位が向上していくとよいと思う。

…など計17件

②意識改革・意識啓発に関して

- ・男女共同参画社会づくりについてはよいと思いますが、男女平等という言葉には違和感を感じます。個々に得意なことがあると思うので、性別にとらわれない社会づくり、男女が平等でなくて誰もが平等（差別させない）という教育をしていくこと、意識することが大事だと思う。
- ・各人がよりよい家庭をつくり、地域社会（田原市）に貢献をする考えで行動する。

…など計3件

③就労に関して

- ・就職において、学歴や経歴だけでその人を判断しないでもらえたらよいと思う。田原に職場が増えてくれると嬉しい。
- ・仕事量が多すぎて、家事の協力がしたくてもできない。ワークライフバランスという言葉はよく聞くようになったが、実際には仕事が優先されている状態である。

…など計7件

④子育てに関して

- ・保育施設の充実、学童保育の充実。
- ・参画できる環境の整備が必要。介護、子どもなどある程度手がかからないことが前提。家庭内での家事の分担も。

…など計2件

⑤行政への要望など

- ・共同参画行事に出席していただく、多くの方に聞く、話す、自由にまたはグループ別対話の場をつくって話し合うなど、4ヶ月に1回市の行事でやるとよいと思う。
- ・男女共同参画社会づくりにはまわりの理解と女性自身の意識の向上が必要。田原市内で男女共同参画を実現しやすい一番大きな組織体は市役所。モデルケースとしてまずは市役所が市民にお手本を示すべきではないか。

…など計4件

⑥その他

- ・今の国、県、市議達は自分のため、党のために活動しており国民のために頑張っている議員は少ないので自分で自分を守るしかない様な気がする。結論を言えば国民の生活向上のためになることは何もやってくれない。

…など計8件

《問7、問8は、問6で「1. 結婚している、または結婚していないがパートナーと暮らしている」と答えた方のみにお聞きします》

問7 あなたの配偶者またはパートナーの勤務形態についてお答えください。
(1つに○)

1. 自営業主（農林漁業、商工サービス業、自由業など）
2. 家族従業者（農林漁業、商工サービス業、自由業など）
3. 勤め人（管理職、専門技術職※、事務職、労務職など）
※専門技術職：プログラマー、医師、教員、保育士など
4. 無職（専業主婦・主夫、学生、その他の無職など）

《問8は、問7で「3. 勤め人」と答えた方のみお答えください》

問8 その仕事は常勤ですか、パートタイムですか。(1つに○)

1. 常勤（フルタイム）
2. パートタイム（パート、アルバイト、嘱託その他）
3. その他（ ）

問9 あなたの家族構成についてお答えください。

1. 単身世帯（1人）
2. 夫婦のみ（1世代世帯）
3. 親と子（2世代世帯）
4. 親と子と孫（3世代世帯）
5. その他（ ）

問10 田原市に住んでから何年になりますか。

1. 3年未満
2. 3～5年未満
3. 5～10年未満
4. 10～20年未満
5. 20年以上

2 男女平等についてお聞きします。

《全員の方にお聞きします》

問11 政府は、男女共同参画推進本部を設置し、男女共同参画社会※の実現を目指し、積極的に取り組んでいることを以前からご存知でしたか。(1つに○)

1. 内容を詳しく知っていた
2. だいたい知っていた
3. 男女共同参画社会という言葉は聞いたことがあった
4. 知らなかった

※ 男女共同参画社会とは

女性も男性も性別にとらわれないこととなく、社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、個性と能力を最大限発揮できる社会

《全員の方にお聞きします》

問12 あなたは、田原市において男女共同参画社会が必要な理由は何だと思えますか。(2つまで○)

1. 男女の平等に基づく人権を確立するため
2. 政策・方針決定過程に、男女の意見を反映させ、民主主義の成熟を図るため
3. 男女とも、その能力と個性を十分に発揮し、多様な生き方を選択できるようにするため
4. 少子・高齢化の進展に伴い労働力人口が減少する中で、多様な人材が求められ、女性の能力を十分に活かしていくことが必要になるため
5. 女性の地位と能力の向上のために、国連などが活動する世界的な取り組みに参画する必要があるため
6. 必要でない
7. その他（ ）

《全員の方にお聞きします》

問13 現在、田原市において、男女共同参画社会の実現が十分達成されていない主な要因は何であるとお考えでしょうか。(1つに○)

1. 家庭において家事・育児・介護などを女性の役割とする意識があること
2. 職場などにおいて、女性に不利な扱いがなされていること
3. 社会全般に男性優位の考え方や慣行が根深いこと
4. 家庭や地域社会より仕事を重視する意識が男性や女性にあること
5. 男女共同参画の考え方が市民に広く浸透していないこと
6. 十分達成されている
7. その他（ ）

《全員の方にお聞きします》

問 14 社会全体で見れば、男女の地位は平等になっているかと思いませんか。
(1つに○)

1. 男性の方が非常に優遇されている
2. どちらかといえば男性の方が優遇されている
3. 平等である
4. どちらかといえば女性の方が優遇されている
5. 女性の方が非常に優遇されている
6. わからない

《全員の方にお聞きします》

問 15 次のような分野において、現在、男女は平等になっているかと思いませんか。
(①から⑦の項目についてそれぞれ1つずつ○)

	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない
①家庭生活の場で	1	2	3	4	5	6
②職場で	1	2	3	4	5	6
③地域活動の場で	1	2	3	4	5	6
④社会通念・慣習・しきたりなどで	1	2	3	4	5	6
⑤法律や制度上で	1	2	3	4	5	6
⑥政治の場で	1	2	3	4	5	6
⑦学校教育の場で	1	2	3	4	5	6

《全員の方にお聞きします》

問 16 あなたは、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方について、どう思っていますか。(1つに○)

1. 賛成
2. どちらかといえば賛成
3. どちらかといえば反対
4. 反対
5. わからない

問 17 仕事と、家庭生活または地域活動について、人の生き方として、あなたが望ましいと思うのは、どのような生き方でしょうか。

(①男性の生き方、②女性の生き方それぞれ1つに○)

①男性の生き方

1. 家庭生活または地域活動よりも、仕事に専念する
2. 家庭生活または地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させる
3. 家庭生活または地域活動と仕事を同じように両立させる
4. 仕事にも携わるが、家庭生活または地域活動を優先させる
5. 仕事よりも、家庭生活または地域活動に専念する
6. わからない

②女性の生き方

1. 家庭生活または地域活動よりも、仕事に専念する
2. 家庭生活または地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させる
3. 家庭生活または地域活動と仕事を同じように両立させる
4. 仕事にも携わるが、家庭生活または地域活動を優先させる
5. 仕事よりも、家庭生活または地域活動に専念する
6. わからない

《全員の方にお聞きします》

問 18 あなたは、次における男女共同参画社会に関する言葉を知っていますか。
(知っている言葉すべてに○)

1. 男女共同参画社会基本法
2. 女子差別撤廃条約
3. ポジティブ・アクション (積極的改善措置)
4. ジェンダー (社会的性別)
5. 男女雇用機会均等法
6. 女性の職業生活における活躍の推進に関する法律
7. ワーク・ライフ・バランス (仕事と生活の調和)
8. DV (配偶者からの暴力)
9. その他 (具体的に)

3 結婚、家庭生活についてお聞きします。

《配偶者またはパートナーと暮らしている方にお聞きします》

問 19 あなたの家庭生活での役割について、**現状**をお答えください。
(①から⑩の項目についてそれぞれ1つずつ○)

	すべて女性が担当	主に女性が担当して 男性は手伝う程度	男女同じ程度	主に男性が担当して 女性は手伝う程度	すべて男性が担当	該当する人がいない 該当する選択肢がない
①掃除	1	2	3	4	5	6
②洗濯	1	2	3	4	5	6
③食事のしたく	1	2	3	4	5	6
④食事の後片付け、食器洗い	1	2	3	4	5	6
⑤ゴミ出し	1	2	3	4	5	6
⑥近所づきあい	1	2	3	4	5	6
⑦乳幼児の世話	1	2	3	4	5	6
⑧子どもの教育	1	2	3	4	5	6
⑨介護	1	2	3	4	5	6
⑩家計の管理	1	2	3	4	5	6

《全員の方にお聞きします》

問 20 あなたのご家庭での役割について、**理想**をお答えください。

(①から⑩の項目についてそれぞれ1つずつ○)

	すべて女性が担当	主に男性が担当し 女性は手伝う程度	男女同じ程度	主に女性が担当し 男性は手伝う程度	すべて男性が担当	該当する人がいない 該当する選択肢がない
①掃除	1	2	3	4	5	6
②洗濯	1	2	3	4	5	6
③食事のしたく	1	2	3	4	5	6
④食事の後片付け、食器洗い	1	2	3	4	5	6
⑤ゴミ出し	1	2	3	4	5	6
⑥近所づきあい	1	2	3	4	5	6
⑦乳幼児の世話	1	2	3	4	5	6
⑧子どもの教育	1	2	3	4	5	6
⑨介護	1	2	3	4	5	6
⑩家計の管理	1	2	3	4	5	6

《全員の方向にお聞きします》

問21 男性が家事・育児・介護に参加するためには、どのようにしたらよいと思えますか。
(2つまで○)

1. 家庭で、家事・育児・介護の分担について十分話し合う
2. 仕事と家庭の両立ができるように社会全体の仕組みを改める
3. 勤務時間の短縮、労働時間の短縮、育児・介護休暇の普及等を図る
4. 家庭で子どもにも、男女の区別なく家事・育児・介護に参加することの必要性を教える
5. 学校で児童や生徒に、男女の区別なく家事・育児・介護に参加することの必要性を教える
6. 男性への家事講座、情報提供、相談窓口など行政の支援施策を充実する
7. 参加する必要はない
8. その他 (具体的に:)

《全員の方向にお聞きします》

問22 結婚、家庭、離婚について、あなたのご意見に最も近いものをお答え下さい。
(①から⑦の項目についてそれぞれ1つずつ○)

	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない	わからない
①結婚は個人の自由であるから、結婚してもなくてもどちらでもよい	1	2	3	4	5
②女性の幸福は結婚にあるのだから、女性は結婚するほうがよい	1	2	3	4	5
③女性は結婚したら、自分自身のことより、夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい	1	2	3	4	5
④夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである	1	2	3	4	5
⑤結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない	1	2	3	4	5
⑥結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい	1	2	3	4	5
⑦一般に、今の社会では離婚すると女性の方が不利である	1	2	3	4	5

《全員の方向にお聞きします》

問23 少子化が社会問題となっています。あなたが特に大きな要因と思うのはどれですか。
(3つまで○)

1. 子育てや教育にかかる費用の経済的負担が大きいため
2. 経済情勢のため安定した結婚生活を考えることができないから
3. 子育てへの父親等の参加・協力が得られないから
4. 仕事を抱った女性の仕事と子育ての両立が困難だから
5. 育児などに対する職場の理解が得られないから
6. 育児に関する支援制度が不十分だから
7. 結婚しない男女が増えたから
8. 女性の結婚年齢が高くなったから
9. 出産や育児に対し精神的・肉体的負担が大きいため
10. 結婚や子どもを持つことに対する価値観が変わってきたから
11. 少ない子どもにも十分に手をかけて育てたいから
12. 子育てが自分や夫婦の生き方の妨げとなるから
13. 環境問題や社会保険など、将来に不安があるから
14. その他 (具体的に:)

4 子育て、子どもの教育についてお聞きします。

《全員の方向にお聞きします》

問24 「男の子は男らしく、女の子は女らしく子どもを育てる」という考え方について、どのように思えますか。(1つに○)

1. 男の子、女の子と区別せずに、同じように育てた方がよい
2. 「男の子は男らしく、女の子は女らしく」育てた方がよい
3. どちらともいえない

《子どもをお持ちの方にお聞きします》

問25 男女平等の意識を育てるために、学校教育ではどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(3つまで○)

1. 生活指導や進路指導において、男女の区別なく能力を活かせるように配慮する
2. 教科書などの、固定化された男女の役割や特性についての記述をなくす
3. 男性を思いやる気持ちは大切さを教える心の教育を充実させる
4. 男女ともに、家事や育児、介護などについて学習する時間を設ける
5. 性に対する正しい知識や性の尊厳、母性保護の重要性についての学習を推進する
6. 女性の権利や性の商品化について考える機会を設ける
7. 教員や保護者に男女平等の研修を推進する
8. 管理職(校長や教頭)に女性を擁護していく
9. 出席簿の順番や持ち物の色など、男女を分ける慣習をなくす
10. その他 ()

5 働くことについてお聞きします。

《問26～29は女性の方にお聞きします》

問26 あなたの退職経験についてお答えください。(1つに○)

1. かつて働いていて退職の経験があり、現在は就業している →問27、28△
2. かつて働いていて退職し、現在無職 →問27～29△
3. 就業経験なし →問29△
4. 就業中で退職経験なし →問30△

《【問26】で「1. かつて働いていて退職の経験があり、現在は就業している」
「2. かつて働いていて退職し、現在無職」と答えた方のお聞きします》

問27 かつて退職した理由をお聞かせください。(1つに○)

1. 結婚
2. 出産
3. 育児
4. 介護
5. それ以外の理由

問28 退職までの勤務年数をお聞かせください。(1つに○)

- | | | | |
|------------|------------|------------|-----------|
| 1. 1年以内 | 2. 2年～3年 | 3. 4年～5年 | 4. 6年～10年 |
| 5. 11年～15年 | 6. 16年～20年 | 7. 21年～25年 | 8. 26年以上 |

《【問26】で「2. かつて働いていて退職し、現在無職」「3. 就業経験なし」と答えた方のお聞きします》

問29 現在無職、または就業経験のない理由をお聞かせください。(1つに○)

働く意志はあるが、

1. 育児により働けない
2. 家事により働けない
3. 介護により働けない
4. 配偶者もしくはパートナー、家族が女性が家事をすることが良い
と思っっているから
5. 働きたい職種での雇用がない
6. 職種を問わず雇用がない
7. それ以外の理由 ()
- 働く意志がなく、その理由として
8. 女性は家において家事をすることが良いと思っっている
9. それ以外の理由 ()

10

《全員の方にお聞きします》

問30 女性が職業(農業・商業など家業を含む)を持つことについて、あなたはどうかお考えですか。(1つに○)

1. 子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい
2. 子どもができるまでは、職業を持つ方がよい
3. 子どもがきたら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい
4. 結婚するまでは職業を持つ方がよい
5. 女性は職業を持たない方がよい
6. その他 ()

問31 同じ質問を、男性の場合についてもお伺いします。男性が職業(農業・商業など家業を含む)を持つことについて、あなたはどうかお考えですか。(1つに○)

1. 子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい
2. 子どもができるまでは、職業を持つ方がよい
3. 子どもがきたら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい
4. 結婚するまでは職業を持つ方がよい
5. 女性は職業を持たない方がよい
6. その他 ()

《仕事をしている方全員にお聞きします》

問32 あなたが現在働いているのは、どのような理由からでしょうか。(1つに○)

1. 生計を立てるため
2. 家計の足しにするため
3. 自分で自由に使えるお金を得るため
4. 自分の能力・技能・資格を活かすため
5. 特に理由はない
6. その他 ()

《仕事をしている方全員にお聞きします》

問33 あなたの今の職場では、仕事の内容や待遇面で、女性は男性に比べ不当に差別されていると思えますか。不当に差別されていないと思いますか。(1つに○)

1. 不当に差別されていると思う →問34△
2. 不当に差別されていないと思う →問35△
3. わからない →問35△

11

《仕事をしている方にお聞きします》

問33で「1. 不当に差別されていると思う」と答えた方にお聞きします。

- 問34 それは具体的にどのようなことですか。(1つに○)
1. 賃金に差別がある
 2. 昇進、昇格に差別がある
 3. 能力が正當に評価されない
 4. 補助的な仕事しかやらせてもらえない
 5. 女性を幹部職員に登用しない
 6. 結婚したり子どもが生まれたりすると勤め続けにくい雰囲気がある
 7. 女性は定年まで勤め続けにくい雰囲気がある
 8. 教育・訓練を受ける機会が少ない
 9. その他 ()

《全員の方にお聞きします》

問35 女性が安心して働ける環境をつくるために、どのようなことが必要だと思いますか。(3つまで○)

1. 給料や仕事内容、昇進などの男女差を解消する
2. 職業(仕事)と家庭の両立に職場が理解し協力する
3. 夫や家族が理解し協力する
4. 育児・介護休業制度を定着させる
5. 夫の育児・介護休業を取りやすくする
6. 産前・産後・生理休暇などを取りやすくする
7. 育児・保育に対する支援や施設、サービスを充実させる
8. 介護・看護に対する支援や施設、サービスを充実させる
9. 女性労働者に対する相談窓口などを設置する
10. その他 ()

《仕事をしている方にお聞きします》

問36 生活の中で仕事、家庭生活、地域・個人の生活で何を優先しますが。(あなたの希望に該当するもの1つに○)

1. 「仕事」を優先したい
2. 「家庭生活」を優先したい
3. 「地域・個人の生活」を優先したい
4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい
5. 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
6. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
7. 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の三つとも大切にしたい

《仕事をしている方にお聞きします》

問37 生活の中で仕事、家庭生活、地域・個人の生活で何を優先しますか。(あなたの現在の状態に該当するもの1つに○)

1. 「仕事」を優先している
2. 「家庭生活」を優先している
3. 「地域・個人の生活」を優先している
4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先している
5. 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している
6. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
7. 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の三つとも大切にしている
8. わからない

6 地域活動・社会活動についてお聞きします。

《全員の方にお聞きします》

問38 あなたは、どのような地域活動に参加していますか。また、今後参加したいと思う地域活動は何ですか。(①から⑤の項目についてそれぞれ1つずつ○、⑥の項目については、該当する場合に、活動内容を記入のうえ1つに○)

	現在活動に参加している	今後参加したい	特に参加したい活動
①自治会・町内会活動	1	2	3
②女性団体活動	1	2	3
③PTA活動	1	2	3
④子ども会・青少年活動	1	2	3
⑤ボランティア活動などの社会貢献活動	1	2	3
⑥その他(括弧内に活動を記載してください)			
()	1	2	
()	1	2	

《問38で「特に参加していない、参加したいと思わない活動」をひとつでも選んだ方にお聞きします》

問 39 地域活動に参加していない主な理由は何か。(3つまで○)

1. 子どもの世話や老人の介護
2. 仕事が忙しい
3. 家事が忙しい
4. 経済的に余裕がない
5. 配偶者や家族の理解がない
6. 必要な能力がない
7. 近所の人の目がある
8. 自分の性格に合わない
9. 活動する仲間がない
10. 活動する施設がない
11. 役員や世話人にさせられそうだから
12. その他 ()

《配偶者またはパートナーと暮らしている方にお聞きします》

問 40 地域活動の中で、あなたのご家庭での男女の役割分担について、現状をお答えください。(①から⑥の項目についてそれぞれ1つずつ○)

	担すべ て女性 が	主 当 手 に 男 性 が 担 う 程 度	男 女 同 じ 程 度	主 当 手 に 女 性 が 担 う 程 度	担 す べ て 男 性 が	ど ち ら も 参 加 し て い な い
①自治会・町内会活動	1	2	3	4	5	6
②女性団体活動	1	2	3	4	5	6
③PTA活動	1	2	3	4	5	6
④子ども会・青少年活動	1	2	3	4	5	6
⑤ボランティア活動などの 社会貢献活動	1	2	3	4	5	6
⑥その他	1	2	3	4	5	6

《全員の方にお聞きします》

問 41 女性が地域社会を代表する立場として、施策づくりに参画する場合、その割合についてどう思いますか。(地域社会を代表する立場の例としては、市議会議員、行政の委員、地域団体の代表者・役員等です。)(1つに○)

1. 半分は女性の代表者が占めるべきだと思う
2. 今よりも少し女性の代表者が増えたと良い
3. 現状のままで良い
4. 女性の代表者は必要ない
5. わからない

14

《全員の方にお聞きします》

問 42 田原市では、法令・条例設置委員への女性の登用率が約20%と低いですが、それはどのような理由からだと思いますか。(2つまで○)

1. 女性自身が社会進出に消極的だから
2. 女性の社会進出をよく思わない社会通念があるから
3. 女性の社会進出を支える条件整備が不十分だから
4. 家庭があるため女性は社会進出できない
5. 指導力など女性の能力が男性ほど高くないから
6. その他 ()

7 介護についてお聞きします。

《全員の方にお聞きします》

問 43 あなたのご家族には、介護を要する方がいますか。若しくははいましたか。

1. いる →問44△
2. 以前はいた →問44△
3. いない →問45△

《問43で「1. いる」「2. 以前はいた」と答えた方にお聞きします》

問 44 介護は主にどのような形で行っていますか。若しくは行っていましたが、(1つに○)

1. 配偶者が世話をしている
2. 娘や嫁などの家族の女性が世話をしている
3. 息子が世話をしている
4. 家族全員で世話をしている
5. 介護保険制度などのサービスを利用している
6. 介護保険施設(特別介護老人ホームなど)を利用している
7. その他 ()

《全員の方にお聞きします》

問 45 あなたは、将来、要介護者などの身のまわりの世話は、どのような形をとるのが最も望ましいと考えますか。(1つに○)

1. 配偶者が世話をする
2. 娘や嫁などの家族の女性が世話をする
3. 息子が世話をする
4. 家族全員で世話をする
5. 介護保険制度などのサービスを利用する
6. 介護保険施設(特別介護老人ホームなど)を利用する
7. その他 ()

15

8 人権についてお聞きします。

《全員の方にお聞きします》

問 46 あなたは、「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律」を知っていますか。(1つに○)
 (この法律は、配偶者や恋人からの暴力(ドメスティック・バイオレンス)に関する相談などの体制を整備することにより、配偶者等からの暴力を防止し、被害者の保護を図るものです。)

1. 法律があることもその内容も知っている
2. 法律があることは知っているが、内容はよく知らない
3. 法律があることもその内容も知らなかった

問 47 セクシュアル・ハラスメント(※1)やドメスティック・バイオレンス(※2)について、いずれか1つでも自分が経験したり、そのような話を聞いたことがありますか。(それぞれ1つずつ○)

	自分が何回も経験したことがある	自分が1回経験したことがある	自分が周りの人に経験した人がいる	言葉がある聞いたこと	聞いたことが無い
セクシュアル・ハラスメント	1	2	3	4	5
ドメスティック・バイオレンス	1	2	3	4	5

※1 セクシュアル・ハラスメントとは

相手の意に反した性的な性質の言動で、身体への不必要な接触、性的関係の強要、性的なうわさを流す、大衆の目に触れる場所へのわいせつな写真の掲示など、様々な態様のものが含まれます。

※2 ドメスティック・バイオレンスとは

配偶者や恋人からの暴力のことを言います。法律上の婚姻の有無を問わず親密な関係にあるパートナーからの身体的暴力・心理的攻撃・性的強要などをさします。

- ◆ 身体的暴力…殴る、蹴る、髪を引っ張る、物を投げつける、凶器を身体に押し付ける等
- ◆ 心理的攻撃…大声で怒鳴る、無視する、生活費を渡さない、「能なし」などと言う、外出や交友関係を規制する等
- ◆ 性的強要……性行為を強要する、避妊に協力しない、見たくないのにポルノ雑誌などを見せる等

《前の質問で、ドメスティック・バイオレンスを1度以上経験した方にお聞きします》

問 48 ドメスティック・バイオレンスを受けたとき、誰かに相談をしましたか。

(あてはまるものをすべてに○)

1. 相談した → 誰に相談しましたか。
 [家族 友人・知人 行政機関 警察 弁護士
 婦人相談所 民間の相談機関 その他()]

2. 相談しなかった → 相談しなかった理由は、何ですか。

- ① どこに相談したらよいかわからなかった
- ② 恥ずかしくて誰にも言えなかった
- ③ 相談してもむだだと思った
- ④ 自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思った
- ⑤ 自分にも悪いところがあると思った
- ⑥ 相談するほどのことでもないと思った
- ⑦ 世間体が悪い
- ⑧ 他人を巻き込みたくなかった
- ⑨ そのことについて思い出しにくかった
- ⑩ 自分が受けている行為がドメスティック・バイオレンスとは認識していなかった
- ⑪ 相手の仕返しを怖かった
- ⑫ その他()

問 49 男女間の暴力を防止するためには、どのようなことが必要だと考えますか。(あてはまるものをすべてに○)

1. 家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う
2. 学校・大学で生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う
3. 地域で、暴力を防止するための研修会、イベントなどを行う
4. メディアを活用して、広報・啓発活動を積極的に行う
5. 被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす
6. 被害者を発見しやすい立場にある警察や医療関係者などに対し、研修や啓発を行う
7. 暴力を振るったことのある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う研修や啓発を行う
8. 加害者への罰則を強化する
9. 暴力を助長するおそれのある情報(雑誌、コンピュータソフトなど)を取り締まる
10. 特にない
11. その他()

田原市
男女共同参画推進に関する市民アンケート調査
調査結果報告書

平成 28 年 9 月

発行 田原市役所 企画部 企画課
〒441-3492
田原市田原町南番場 30 番地 1
T E L 0531-23-3507
F A X 0531-23-0669